

授業科目名： 日本語学概論Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：中沢紀子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語文章に対する読解力を習得し理解できる。</li> <li>・日本語の表現力を習得し説明することができる。</li> <li>・口頭による日本語コミュニケーション能力を習得し、他者と意見交換をすることができる。</li> <li>・日本語運用能力を用いて自分の意見を発信できる。</li> <li>・現代社会における文化伝統の継承と発展について、自らの考えを表現することができる。</li> </ul> <p>以上の修得目標に基づき、具体的には下記を到達目標とする。</p> <p>①日本語を客観的に考察し、説明することができる。</p> <p>②日本語の表現能力や日本語文章に対する読解力を習得し、日本語の一般的特徴について説明することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>私たちは、状況に応じて日本語を使い分けている。例えば初対面のあいさつの際、「鈴木です。よろしくお願ひします」とは言っても、「鈴木ですよ。よろしくお願ひします」とは言わない。このように、私たちは特定の場面ではこの表現で話すという使い分けを無意識に行っている。授業では、私たちが普段使用している日本語を題材にしながら、日本語とはどのような仕組みに基づいて成り立っているのか、そしてその奥にあるコミュニケーションとは何なのかを考えていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス（「日本語を学ぶとはどういうことか？」について学ぶ）</p> <p>第2回：言語の一般的特徴①（「言語とヒト：人間と動物のコミュニケーションの違い」について学ぶ）</p> <p>第3回：言語の一般的特徴②（「言語の恣意性」について学ぶ）</p> <p>第4回：言語の一般的特徴③（「ラングとパロール」について学ぶ）</p> <p>第5回：同音異義語の世界</p> <p>第6回：日本語の音声①（母音）</p> <p>第7回：日本語の音声②（子音）</p> <p>第8回：日本語の音声③（拍）</p> <p>第9回：日本語話者が気づかない日本語①</p> <p>第10回：「3つのコミュニケーション手段」①（言語的コミュニケーションについて学ぶ）</p>			

第11回：「3つのコミュニケーション手段」②（準言語的コミュニケーションについて学ぶ）  
第12回：「3つのコミュニケーション手段」③（非言語的コミュニケーションについて学ぶ）  
第13回：日本語の人物呼称  
第14回：授業内試験と解説  
第15回：到達目標について確認を行う（日本語話者が気づかない日本語）

テキスト

なし

参考書・参考資料等

学生に対する評価

授業内試験／Exam(s) (60%)、リアクションペーパー／Reaction Paper (40%)

授業科目名： 日本語学概論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：中沢紀子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語文章に対する読解力を習得し理解できる。</li> <li>・日本語の表現力を習得し説明することができる。</li> <li>・口頭による日本語コミュニケーション能力を習得し、他者と意見交換をすることができる。</li> <li>・日本語運用能力を用いて自分の意見を発信できる。</li> <li>・現代社会における文化伝統の継承と発展について、自らの考えを表現することができる。</li> </ul> <p>以上の修得目標に基づき、具体的には下記を到達目標とする。</p> <p>①日本語を客観的に考察し、説明することができる。</p> <p>②日本語の表現能力や日本語文章に対する読解力を習得し、日本語の一般的特徴について説明することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>前期と同様、日本語とはどのような特徴を持つ言語なのか、そしてその奥にあるコミュニケーションとは何なのかを考えていく。また、後期は私たちを取り巻く社会と言葉の関係について観察していく。私たちはある特定の言葉を聞いただけで、その使用者の性別（男性か女性か）や出身地（関東出身か関西出身か）などがわかってしまうことがある（例：「あたし」「俺」「わし」）。私たちが使用している日本語は、地域差・世代差・性差など様々な社会的要素と大きく関係している。授業では、身近な日本語の諸問題を取り上げ、私たちを取り巻く社会と言葉の関係について観察していく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス（前期の復習・「日本語を客観的に分析してみよう」）</p> <p>第2回：言葉の意味①（「語種」について学ぶ）</p> <p>第3回：言葉の意味②（「語種・略語」について学ぶ）</p> <p>第4回：言葉の意味③（「類義語」について学ぶ）</p> <p>第5回：言葉の意味④（「あがる」と「のぼる」について学ぶ）</p> <p>第6回：言葉の意味⑤（「反義語」について学ぶ）</p> <p>第7回：言葉の意味⑥（「辞書」について学ぶ）</p> <p>第8回：言葉の意味⑦（辞書を用いたグループ活動を行う）</p> <p>第9回：日本語コミュニケーション①（コミュニケーションのくせ：直情径行型）</p> <p>第10回：日本語コミュニケーション②（コミュニケーションのくせ：紋切型・創出型）</p> <p>第11回：日本語コミュニケーション③（コンテキスト）</p>			

第12回：日本語の地域差①（方言について学ぶ） 第13回：日本語の地域差②（新方言について学ぶ） 第14回：授業内試験と解説 第15回：到達目標の確認を行う（日本語話者が気づかない日本語）
テキスト なし
参考書・参考資料等
学生に対する評価 授業内試験／Exam(s)（60%）、リアクションペーパー／Reaction Paper（40%）

授業科目名： 日本語の文法 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：中沢紀子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語の文法事項について説明することができる。</li> <li>・私たちが使用している日本語の文化的背景や多様性を理解し、説明することができる。</li> <li>・日本語の特徴について豊かな日本語運用能力を用い、説明することができる。見過ごしがちな日本語の表現に気付くことができる。</li> </ul>			
授業の概要			
<p>私たちが普段使用している日本語は、どのような「仕組み・きまり」で成り立っているのでしょうか。「私は自分の部屋でストレッチをする」は言えるが、「私は自分の部屋にストレッチをする」とは言えない。一方、「太郎はヨーロッパに出張する」は言えるが、「太郎はヨーロッパで出張する」とは言えない。では、この「に」と「で」の違いは何なのだろうか。私たちはこの違いを意識することなく使用しているが、もし日本語を勉強している人に説明するとしたら、あなたはどのように説明するだろうか。授業では、具体例を取り上げながら、日本語という言語を「言語の仕組み」という観点から見直してみる。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス（何故いま「日本語」の授業なのか？）			
第2回：日本語とはどのような言語なのか学ぶ			
第3回：日本語の文法について：意味が伝わるとはどのような状態を指すのか？			
第4回：日本語の品詞について学ぶ			
第5回：日本語の格助詞について学ぶ（格助詞とは何か？）			
第6回：日本語の格助詞について学ぶ（「を」「に」「で」）			
第7回：日本語の自動詞と他動詞について学ぶ			
第8回：日本語のテンスについて学ぶ			
第9回：日本語のアスペクトについて学ぶ			
第10回：日本語のヴォイスについて学ぶ			
第11回：複文について学ぶ（文の構造）			
第12回：複文について学ぶ（主節と従属節）			
第13回：複文について学ぶ（連体修飾節）			
第14回：授業内試験とその解説			
第15回：身近な日本語の諸問題を文法的に説明する。また、到達目標の確認を行う。			

テキスト

『ここからはじまる日本語学』伊坂淳一 ひつじ書房

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

授業内試験／Exam(s) (70%)、リアクションペーパー／Reaction Paper (20%)、発言・応答／Class Participation (10%)

授業科目名： 日本語の文法Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：中沢紀子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語の文法事項について説明することができる。</li> <li>・私たちが使用している日本語の文化的背景や多様性を理解し、説明することができる。</li> <li>・日本語の特徴について豊かな日本語運用能力を用い、説明することができる。見過ごしがちな日本語の表現に気付くことができる。</li> </ul>			
授業の概要			
<p>「雨が降る」という可能性を表現するような場合、「きっと雨が降るだろう」と「たぶん雨が降るだろう」とでは、ニュアンスが異なっている。この違いを、日本語を学ぶ留学生や外国の人に説明するとしたら、どのように説明すればよいのだろうか。後期は、日本語の助動詞・副詞を題材に、現代日本語の文法的な分析の仕方および基本的な知識を身につける。授業は前半と後半に分け、前半は主に「らしい」「ようだ」「だろう」といった発話者の気持ちや願望、判断を表す助動詞を、後半は「たぶん」「きっと」などの副詞を取り上げる。また、授業では現在話題になっている言語事例も紹介する予定である。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス（前期の復習・何故いま「日本語」の授業なのか？）			
第2回：日本語とはどのような特徴を有する言語なのかを学ぶ			
第3回：命題とモダリティについて学ぶ			
第4回：モダリティ①（「らしい」と「ようだ」の違いについて学ぶ）			
第5回：モダリティ②（「らしい」の特徴について詳しく観察していく）			
第6回：モダリティ③（「そうだ」「かもしれない」の特徴について学ぶ）			
第7回：モダリティ④（「だろう」の特徴について学ぶ）			
第8回：モダリティ⑤（「べきだ」の特徴について学ぶ）			
第9回：副詞①（副詞の分類・基本的性質について学ぶ）			
第10回：副詞②（様態副詞について学ぶ）			
第11回：副詞③（結果副詞について学ぶ）			
第12回：副詞④（程度副詞について学ぶ）			
第13回：副詞⑤（陳述副詞について学ぶ）			
第14回：授業内試験とその解説			
第15回：身近な日本語の諸問題を文法的に説明する。また、到達目標の確認を行う。			

テキスト

『ここからはじまる日本語学』伊坂淳一 ひつじ書房

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

授業内試験／Exam(s) (70%)、リアクションペーパー／Reaction Paper (20%)、発言・応答  
／Class Participation (10%)

授業科目名： 日本語の歴史 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：中沢紀子 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化の多様性を理解し、日本文化の多様な側面について説明できる。</li> <li>・日本語文章に対する読解力を習得し理解できる。</li> <li>・日本語の表現力を習得し説明することができる。</li> <li>・国際社会の中での日本文化の位置づけに関心を持ち、国際的視野から日本文化を分析できる。</li> </ul> <p>以上の修得目標に基づき、具体的には下記を到達目標とする。</p> <p>①日本語を通して言語変化の要因を探る。「過去の日本語と現代日本語は、どう違うのか」日本語の歴史的な流れを理解し、説明することができる。</p> <p>②私たちが使用している日本語の歴史的な背景や文化の多様性を理解し、説明することができる。</p> <p>③日本語の一般的特徴について説明することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>日本語の歴史に関する基本的知識を身につけることを目的とする。同じ日本語といっても古典文学作品にみられる過去の日本語と現代日本語との間には、大きな隔たりがある。その一方、日本語の歴史的言語事例が現代においてみられることがある。例えば、有名なアニメのタイトル『眠れる森の美女』は、眠ることができる森の美女という意味ではない。このタイトルには日本語の歴史的な問題が含まれているのだ。私たちが中学・高校で習う古典では、「かは」と表記するのに何故発音は「kawa」と読むのか。これも日本語の歴史的観点から説明できる。この授業では、「言葉は変化する」という言語変化の観点から、過去の日本語と現代日本語の違いについて、各言語事例を基に説明していく。なお、受講を希望する学生の中には、古典文法が苦手であるとか、古典文学作品に興味はあるけれど難しくて読めないという人も多いことだろう。この授業では、まず現代日本語の事例を提示し、古典文学で描かれた過去の日本語とどこが違うのかという観点で授業を進める。そのため、古典文学や文法の知識が殆ど無くとも、授業内容の理解に支障がないようになっている。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス：日本語学習者がとまどった「貴様」</p> <p>第2回：日本語史における時代区分</p> <p>第3回：過去の日本語と現代日本語との違い</p> <p>第4回：文字の歴史①（音と訓）</p>			

第5回：文字の歴史②（万葉仮名）  
第6回：文字の歴史③（平仮名）  
第7回：文字の歴史④（カタカナ）  
第8回：音の歴史①（上代特殊仮名遣い）  
第9回：音の歴史②（上代の音配列的制約）  
第10回：音の歴史③（ハ行子音）  
第11回：音の歴史④（ハ行転呼）  
第12回：世界と日本語①（日本語教育：海を渡った漂流民）  
第13回：世界と日本語②（大黒屋光太夫）  
第14回：授業内試験と解説  
第15回：到達目標の確認

テキスト

『ここからはじまる日本語学』伊坂淳一 ひつじ書房

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

授業内試験／Exam(s)（70%）、リアクションペーパー／Reaction Paper（20%）、発言・応答  
／Class Participation（10%）

授業科目名： 日本語の歴史Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：中沢紀子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化の多様性を理解し、日本文化の多様な側面について説明できる。</li> <li>・日本語文章に対する読解力を習得し理解できる。</li> <li>・日本語の表現力を習得し説明することができる。</li> <li>・国際社会の中での日本文化の位置づけに関心を持ち、国際的視野から日本文化を分析できる。</li> </ul> <p>以上の修得目標に基づき、具体的には下記を到達目標とする。</p> <p>①日本語を通して言語変化の要因を探る。「過去の日本語と現代日本語は、どう違うのか」日本語の歴史的な流れを理解し、説明することができる。</p> <p>②私たちが使用している日本語の歴史的な背景や文化の多様性を理解し、説明することができる。</p> <p>③日本語の一般的特徴について説明することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>過去の言語変化の中で、平安時代～現在までに起こった現象のいくつかに焦点をあてる。「日本語の歴史Ⅰ」同様、言語変化が起こる前と変化後とではどのように変化したのかを考えていく。授業では、古典文学作品に現れる言語現象を取り上げる。この授業では、「言葉は変化する」という言語変化の観点から、過去の日本語と現代日本語の違いについて、各言語事例を基に説明していく。なお、受講を希望する学生の中には、古典文法が苦手であるとか、古典文学作品に興味はあるけれど難しくて読めないという人も多いことだろう。この授業では、まず現代日本語の事例を提示し、古典文学で描かれた過去の日本語とどこが違うのかという観点で授業を進める。そのため、古典文学や文法の知識が殆ど無くとも、授業内容の理解に支障がないようになっている。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：言語変化とは①（身近な事例の紹介をしながら言語変化について学ぶ）</p> <p>第3回：言語変化とは②（「改新」と「採用」について学ぶ）</p> <p>第4回：言語変化とは③（言葉の賞味期限：流行語について学ぶ）</p> <p>第5回：言語変化とは④（オノマトペの歴史について学ぶ）</p> <p>第6回：文法とは①（活用について学ぶ）</p> <p>第7回：文法とは②（活用表について学ぶ）</p>			

第8回：文法とは③（終止・連体形の合一化について学ぶ）

第9回：文法とは④（終止・連体形の合一化後の影響について学ぶ）

第10回：文法とは⑤（二段活用の一段化について学ぶ）

第11回：江戸時代の言語事例について学ぶ（社会階層と言葉）

第12回：近代の言語事例について学ぶ（標準語成立）

第13回：日本語史と方言の関連について学ぶ

第14回：授業内試験と解説

第15回：到達目標の確認を行う

テキスト

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

授業内試験／Exam(s)（70%）、リアクションペーパー／Reaction Paper（20%）、発言・応答  
／Class Participation（10%）

授業科目名： 日本語表現論 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：菊地圭子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 中学校高等学校の国語科教員として、生徒に日本語の話し言葉（コミュニケーション・プレゼンテーション）や書き言葉（文章表現）の指導を十分な知識を持って行うことができる。			
授業の概要 中学校高等学校の国語科教員を目指す学生として、生徒に日本語の使い方を指導する技術を身につけるときの必要とされる日本語の表現、おもに音声言語〔話すこと／聞くこと〕について学ぶこととする。その上で、適切な日本語表現とはなにかについて正しく理解するとともに、実践的な表現活動を通して「日本語表現」を学ぶ授業である。即時的な「話すこと」「聞くこと」をはじめ、「話し合うこと」を理論と実践の両分野から身につけることも目標としている。国語科教員を目指さない学生にも、日常生活や仕事の場面で応用できる文章表現力を身につける。			
授業計画 第1回：オリエンテーション／「日本語表現論 I」（＝「話すこと・聞くこと」編） 第2回：日本語のコミュニケーションの特質（1）理論編 第3回：日本語のコミュニケーションの特質（2）実践編 例 ブレインストーミング・KJ法 第4回：日常の話し言葉の特質（敬語や挨拶、方言等）（1）理論編 第5回：日常の話し言葉の特質（敬語や挨拶、方言等）（2）実践編 例 言語分野の学習教材 第6回：対話の技法（グループパネルディスカッション等）（1）理論編 第7回：対話の技法（グループパネルディスカッション等）（2）実践編① 例 ワールドカフェ 第8回：対話の技法（グループパネルディスカッション等）（3）実践編② 例 ディベート 第9回：社会制度としての言語＝ラングに依拠しながら、個々人が個々の場面で行使する言葉＝パロールに（大人、若者、教師の言葉遣い等）（1）理論編 第10回：社会制度としての言語＝ラングに依拠しながら、個々人が個々の場面で行使する言葉＝パロール（大人、若者、教師の言葉遣い等）（2）実践編① 例 SNS等を用いた学習教材 第11回：社会制度としての言語＝ラングに依拠しながら、個々人が個々の場面で行使する言葉＝パロール（大人、若者、教師の言葉遣い等）（3）実践編② 例 J-POPを用いた学習教材 第12回：インタビューや面接の特徴と方法（1）理論編 第13回：インタビューや面接の特徴と方法（2）実践編① 例 インタビュー記事を作成する 第14回：インタビューや面接の特徴と方法（3）実践編② 例 面接を行ってエントリーシートにフィードバックする			

第15回：まとめ 授業を振り返って 前期課題レポート

テキスト

教科書は使わず、授業毎に資料を配付する

参考書・参考資料等

授業中にその都度、紹介する

中学校学習指導要領解説 国語編（平成29年7月 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 国語編（平成30年7月 文部科学省）

学生に対する評価

レポート（30%）、グループワーク・発表（30%）、リアクションペーパー（30%）、発言、  
応答（10%）

授業科目名： 日本語表現論Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：菊地圭子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 中学校高等学校の国語科教員になったときに、実際に生徒に指導しなければならない学習活動（課題解決学習、探究学習を含む）の指導を十分な知識を持って行うことができる。			
授業の概要 中学校高等学校の国語科教員を目指す学生として、生徒に日本語の使い方を指導する技術を身につけるときの必要とされる日本語の表現、おもに文字言語〔書くこと／読むこと〕について学ぶこととする。その上で、適切な日本語表現とはなにかについて正しく理解するとともに、実践的な表現活動を通して「日本語表現」を学ぶ授業である。文学作品や古典作品を読むだけでなく、その作品を解釈して書く表現力を身につけることも目的としている。国語科教員を目指さない学生にも、日常生活や仕事の場面で応用できる文章表現力を身につける。			
授業計画 第1回：オリエンテーション／「日本語表現論Ⅱ」（＝「書くこと」「読むこと」編） 第2回：中学校高等学校の読書感想文の特徴と読み方、書き方の指導（1）理論編 第3回：中学校高等学校の読書感想文の特徴と読み方、書き方の指導（2）実践編 第4回：中学校高等学校のビブリオバトルの特徴と読み方、書き方の指導（1）理論編 第5回：中学校高等学校のビブリオバトルの特徴と読み方、書き方の指導（2）実践編 第6回：中学校高等学校の総合型選別型入試をはじめとする受験における小論文課題の特徴と読み方、書き方の指導（1）理論編 第7回：中学校高等学校の総合型選別型入試をはじめとする受験における小論文課題の特徴と読み方、書き方の指導（2）実践編 第8回：中学校高等学校入試の作問（国語）の特徴とどのような作問を意識するべきかの指導（1）理論編 第9回：中学校高等学校入試の作問（国語）の特徴とどのような作問を意識するべきかの指導（2）実践編 第10回：NIE 教育に新聞を〔NIE（Newspaper in Education＝「エヌ・アイ・イー」）〕（1）理論編 第11回：NIE 教育に新聞を〔NIE（Newspaper in Education＝「エヌ・アイ・イー」）〕（1）実践編 第12回：古典文学の特徴と読み方、俳句や和歌の書き方の指導（1）理論編			

第13回：古典文学の特徴と読み方、俳句や和歌の書き方の指導（2）実践編 古典文学と「書くこと」

第14回：古典文学の特徴と読み方、俳句や和歌や随筆の書き方の指導（3）実践編 古典文学と「読むこと」

第15回：まとめ 授業を振り返って 後期課題レポート

テキスト

教科書は使わず、授業毎に資料を配付する

参考書・参考資料等

授業中にその都度、紹介する

中学校学習指導要領解説 国語編（平成29年7月 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 国語編（平成30年7月 文部科学省）

学生に対する評価

レポート（30%）、グループワーク・発表（30%）、リアクションペーパー（30%）、発言、応答（10%）

授業科目名： 日本文学概論 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：眞有澄香 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 日本近現代文学に関する基礎的な知識を習得し、中・高等学校国語科を教授するに足る知識及び技能を身につける。個々のテキストの生成や享受の具体的な例を取り上げ、日本人や日本の社会・文化・思想・風俗や人間性そのものについて考察する。その上で、文学研究の方法や日本近代文学の生成や享受の歴史についての理解を深め、専門的知識を養う。			
授業の概要 明治・大正期の作家・作品を取り上げながら日本近代文学史を概観する。ことに歴史的動向や社会潮流との関わりを踏まえた上で、「小説」について考察する。また、精緻な作品の読みから、日本近代文学の生成過程や価値を確認するなど、「文学」を多面的に考察する。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：文明開化と日本文学 第3回：「物語」から「小説」へ 第4回：啓蒙期の文学 第5回：戯作と写実主義 第6回：近代国家と言文一致 第7回：近代小説の誕生 第8回：擬古典主義の登場 第9回：性急な思想 第10回：浪漫主義文学の台頭 第11回：自然主義文学の隆盛 第12回：夏目漱石の位置 第13回：高踏派（余裕派）と耽美派 第14回：泉鏡花という天才作家 第15回：思想の多様性と表現の個性化			
テキスト 安藤宏『日本近代小説史 新装版』（中公選書 110）			
参考書・参考資料等 授業時に適宜配布する。			
学生に対する評価 授業内の小課題（40%）、最終レポート（60%）			

授業科目名： 日本文学概論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：眞有澄香 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 日本近現代文学を学ぶことは、日本人や日本の社会・文化の本質や考え方を学ぶことでもある。我が国において近代化が成熟期を迎えた大正期以降、文学作品の背景にある日本の社会や文化の本質をテキストから読み解き、自覚された自我と社会との問題、個人の内面や社会問題、異文化、出版文化なども視野に入れながら、幅広い教養や分析力・論理的思考力を養う。			
授業の概要 大正・昭和前期の作家・作品を取り上げながら日本近代文学史を概観する。ことに歴史的動向や社会潮流との関わりを踏まえた上で、「文学」について考察する。また、精緻な作品の読みから、日本近代文学の生成過程や価値を確認するなど、「文学」を多面的に考察する。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：明治から大正という時代へ 第3回：思想の多様性と表現の個性化 第4回：さまざまな文芸思潮と作家たち 第5回：近代化の円熟期 第6回：雑誌の隆盛 第7回：「赤い鳥」運動と教育界 第8回：自然主義と反自然主義 第9回：耽美派たちと谷崎潤一郎 第10回：新現実主義と芥川龍之介 第11回：新たな感性と思想 第12回：「宣言一つ」と有島武郎 第13回：大正デモクラシーと女性作家たち 第14回：近代文学の終焉と現代文学 第15回：戦争の嵐の中で			
テキスト 安藤宏『日本近代小説史 新装版』（中公選書 110）			
参考書・参考資料等 授業時に適宜配布する。			
学生に対する評価 授業内の小課題（40%）、最終レポート（60%）			

授業科目名： 日本文学史 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：細田明宏 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①文化の多様性を理解し、日本文化の多様な側面について説明できる。</p> <p>②近現代の日本文化、伝統文化、日本文化の思想に関する専門的知識を修得し、理解できる。</p> <p>以上の修得目標に基づき、具体的には下記を到達目標とする。</p> <p>『壺坂靈験記』というポピュラーな演目を鑑賞することを通して、日本独自の宗教文学あるいは劇文学についての理解を深め、それを通して文化の多様性を感取することおよび、その特色を他人に説明できること。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>明治前期に成立した浄瑠璃『壺坂靈験記』は人気を得て、こんにちも繰り返し上演されています。『壺坂靈験記』の元となったのは、盲目の男沢市が壺阪寺の靈験を得て開眼するという話（沢市開眼譚）でした。すなわち浄瑠璃『壺坂靈験記』は、宗教文学が芸能の世界に取り入れられることによって成立した劇文学なのです。</p> <p>本講義では、宗教文学としての沢市開眼譚が芸能の世界に取り入れられる過程を追うことで、宗教文学の諸相および人々との関わりや、劇文学化されることによるプロットの変化などを考察します。日本文学史における、宗教文学の劇文学化の一事例について学ぶことにより、文化の多様性を理解するとともに、日本文化の独自性と、近現代における展開の諸相をみていきます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイドンス～仏教と芸能</p> <p>第2回：浄瑠璃『壺坂靈験記』</p> <p>第3回：西国霊場と靈験譚</p> <p>第4回：西国巡礼（オンライン授業）</p> <p>第5回：縁起</p> <p>第6回：絵解き</p> <p>第7回：説教</p> <p>第8回：壺阪寺の靈験譚</p> <p>第9回：開帳と靈験譚</p> <p>第10回：錦絵『観音靈験記』</p> <p>第11回：見世物</p> <p>第12回：生人形『西国観音靈験記』</p>			

第13回：生人形の沢市開眼譚

第14回：生人形から浄瑠璃へ

第15回：まとめ（授業内試験）

テキスト

・授業内容の概要をPDFファイルの形で配布する（LMS）。授業に関する資料もあわせて配布する（LMS）。

参考書・参考資料等

・「近代芸能文化史における『壺坂靈験記』-生人形から浄瑠璃、そして歌舞伎・講談・浪花節へ」（細田明宏）ひつじ書房

学生に対する評価

授業内試験／Exam(s) (70%)、リアクションペーパー／Reaction Paper (30%)

授業科目名： 日本文学史Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：細田明宏 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①文化の多様性を理解し、日本文化の多様な側面について説明できる。</p> <p>②近現代の日本文化、伝統文化、日本文化の思想に関する専門的知識を修得し、理解できる。</p> <p>以上の修得目標に基づき、具体的には下記を到達目標とする。</p> <p>『壺坂靈験記』というポピュラーな演目を鑑賞することを通して、日本独自の宗教文学あるいは劇文学についての理解を深め、それを通して文化の多様性を感取することおよび、その特色を他人に説明できること。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>明治前期に成立した浄瑠璃『壺坂靈験記』は人気を得て、こんにちも繰り返し上演されています。浄瑠璃とは近世期に成立した語り物ですが、明治以降も幅広い層に親しまれています。</p> <p>『壺坂靈験記』が初演されたのは人形浄瑠璃（文楽）としてでしたが、やがて歌舞伎や講談、浪花節でも取り上げられ、それぞれのジャンルでしばしば上演されています。この講義では、『壺坂靈験記』がさまざまな芸能に取り上げられた過程を追うことで、それぞれのジャンルの特徴について学びます。日本文学史における、宗教文学の劇文学化、さらには多くのジャンルに展開していくありようについて学ぶことにより、文化の多様性を理解するとともに、日本文化の独自性と、近現代における展開の諸相をみていきます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイドダンス～『壺坂靈験記』</p> <p>第2回：人形浄瑠璃（文楽）とは</p> <p>第3回：人形浄瑠璃の確立</p> <p>第4回：人形浄瑠璃の発展</p> <p>第5回：浄瑠璃『壺坂（観音）靈験記』</p> <p>第6回：歌舞伎の成り立ち（オンライン授業）</p> <p>第7回：歌舞伎の演目</p> <p>第8回：歌舞伎『壺坂靈験記』（雁九郎版）</p> <p>第9回：歌舞伎『壺坂靈験記』（現行）</p> <p>第10回：講談の特色</p> <p>第11回：講談『壺坂靈験記』</p> <p>第12回：浪花節の成り立ち</p> <p>第13回：浪花節『壺坂靈験記』</p>			

第14回：浪花節『壺坂靈驗記』の展開

第15回：まとめ（授業内試験）

テキスト

・授業内容の概要をPDFファイルの形で配布する（LMS）。授業に関する資料もあわせて配布する（LMS）。

参考書・参考資料等

・「近代芸能文化史における『壺坂靈驗記』-生人形から浄瑠璃、そして歌舞伎・講談・浪花節へ」（細田明宏）ひつじ書房

学生に対する評価

授業内試験／Exam(s) (70%)、リアクションペーパー／Reaction Paper (30%)

授業科目名： 古典文学Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：梅田径 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語文章に対する読解力を習得し理解できる。</li> <li>・日本語の表現力を習得し説明することができる。</li> <li>・設定した課題を解決するために必要な資料の調査・収集を行い、適切なデータを提示することができる。</li> </ul> <p>具体的には、『六百番陳状』に関する背景知識や表現の特徴について理解し、また、『六百番歌合』の諸相や様相を注釈書や参考文献などを通じて読解し、自身の解釈を提示できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>『六百番歌合』は藤原良経主宰の歌合で、判者は藤原俊成が勤めた。その名の通り六〇〇番に及ぶ歌合で、『新古今和歌集』へと続く和歌の美学を結実した歌判であるとされる。「独鈷鎌首」の逸話や、俊成の言「源氏見ざる歌詠みは遺恨の事なり」で著名な歌合であるが、判者に対して自分の敗北を認めずに「陳状」を提出した人物がいた。それが俊成のライバルであった清輔の義弟、六条藤家の英傑である顕昭であった。</p> <p>この陳状は通称『六百番陳状』と呼ばれ、多数の引用や文献を引いて判に対する不満を述べていく。そこには院政期歌学として培われてきた実証的で、ユニークな議論が多数みられる。『六百番歌合』と引き合わせて『六百番陳状』を読むという複雑な手続きを踏むことにはなりますが、和歌についての学知と美学、そして藝術が力を持ち、それぞれの立場をもって政治力と絡み合いぶつかり合う場面に、テキストを通じて立ち会ってみたい。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス：歌合とは何か</p> <p>第2回：『六百番歌合』の背景（1）：院政期歌学の始まり</p> <p>第3回：『六百番歌合』の背景（2）：和歌の学問と院政</p> <p>第4回：『六百番歌合』の背景（3）：『六百番歌合』に至る道</p> <p>第5回：『六百番歌合』の特徴（1）：複雑な題の歌、単純な題の歌</p> <p>第6回：『六百番歌合』を特徴（2）：俊成判のポイントと詠者の意図のずれ</p> <p>第7回：『六百番陳状』を読む（1）：春上、余寒を読む</p> <p>第8回：『六百番陳状』を読む（2）：春上、若草を読む</p> <p>第9回：『六百番陳状』を読む（3）：春中、野遊を読む</p> <p>第10回：『六百番陳状』を読む（4）：春中、雲雀を読む</p> <p>第11回：『六百番陳状』を読む（5）：春中、春曙を読む</p>			

第12回：『六百番陳状』を読む（6）：春下、蛙を読む  
第13回：『六百番陳状』を読む（7）：春下、寄煙恋を読む  
第14回：『六百番陳状』を読む（8）：夏上、夏草を読む  
第15回：まとめ

テキスト

- ・配布プリントを用意する。

参考書・参考資料等

- ・久保田淳、山口明穂校注『新日本古典文学大系 六百番歌合』岩波書店、一九九八。
- ・峯岸義秋『六百番歌合 六百番陳状』岩波文庫、一九三六・五。

学生に対する評価

リアクションペーパー／Reaction Paper（50%）、レポート／Report(s)（50%）

授業科目名： 古典文学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 梅田径
			担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語文章に対する読解力を習得し理解できる。</li> <li>・日本語の表現力を習得し説明することができる。</li> <li>・設定した課題を解決するために必要な資料の調査・収集を行い、適切なデータを提示することができる。</li> </ul> <p>具体的には、『伊勢物語』に関する基礎的な知識をもとに、注釈や背景知識や表現の特徴について理解し、注釈書や参考文献などを通じて読解し、自身の解釈を提示できるようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この授業では『伊勢物語』における古注釈を読み比べていきます。古典文学は成立した時のままの姿で読まれ続けてきたわけではありません。時に否定され、時に祭り上げられ、時にわけがわからなくなり、時に過剰な思い入れによって、まったく別の作品に作り替えられる流転の運命をたどりながら、現代の形に落ち着いたのです。</p> <p>『伊勢物語』は平安前期に成立した、在原業平をモデルとした作り物語（虚構のお話）とされています。けれども、鎌倉～室町時代の注釈書を読んでいくと、風と鳥との問答によって、あるいは陰陽五行の比喻であるとして、もしくは政治と経済を恋愛に仮託して答えた啓蒙の書であるなど、ただの恋愛を中心とした歌物語ではない、混沌とした読まれ方がうかがえます。近世になるとつよい実証的な研究への志向がみえますが、業平の中に理想の義憤に燃える志士としての性格を読み取ろうとする人まであらわれます。</p> <p>この授業では「古注釈」を読み比べることで、その内容の混沌の前に呆然としたり、時代に翻弄されたりしながらも『伊勢物語』に人間として大切な何かを読み取ろうとした人々の営為を通じて、日本古典文学が現代まで（かろうじて）続いてきた「力強さ」を考えてみたいと思います。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：『伊勢物語』の本文と伝本を学ぶ</p> <p>第3回：『伊勢物語』とその注釈史についての解説を行う。</p> <p>第4回：知頭抄系伊勢物語注を読む（1） 業平像の形成と偽書の利用</p> <p>第5回：知頭抄系伊勢物語注を読む（2） 鳥と風、問答形式の半紙</p> <p>第6回：冷泉家流伊勢物語注を読む（1） 冷泉家流の由来と注釈の傾向</p>			

第7回：冷泉家流伊勢物語注を読む（2） 注釈の傾向と「鬼」の位相

第8回：為頭流の和歌秘伝を読む

第9回：『伊勢物語次第条々』を読む

第10回：『伊勢物語山口記』を読む

第11回：『伊勢物語童子問』を読む

第12回：『勢語通』を読む

第13回：源氏物語の古注釈を読む

第14回：『伊勢物語』書入本と古注釈と版本の関係を知る

第15回：まとめ

テキスト

石田穰二『新版 伊勢物語 付現代語訳』（KADOKAWA、1972）。

電子書籍でも可。その他の『伊勢物語』が全文あるテキストならばよい。

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

リアクションペーパー／Reaction Paper(s) (40%)、レポート／Report(s) (60%)

授業科目名： 近代文学 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：眞有澄香 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>日本近代文学は前時代文学からの脱却であり、社会と個との葛藤であった。その近代文学作品の背景となる文化的、社会的、歴史的など多様な観点から作家・作品を考察する。また、日本近代文学作品の題材・作家・読者とその意識形成への関わりなど、文学研究の視点や方法を身につける。その上で、文学表現にも着目し、自身の考えを言語化して、伝える能力を養う。</p>			
授業の概要			
<p>天才と称され、多くの作家たちから尊敬を集めた泉鏡花について取り上げる。泉鏡花は、文語体から口語体へと移行する明治中期から昭和戦前期まで活躍し、独自の文体や文学世界を構築した稀有な作家である。本講義では、鏡花文学を精読しながら日本近代文学界を概観し、〈近代文学〉を取り巻くさまざまな事象に着目することで、文学と人間について考察する。</p>			
授業計画			
<p>第1回：ガイダンス 第2回：文明開化と生まれ故郷金沢 第3回：彫金師の父と職人氣質 第4回：亡母憧憬と鏡花文学の母胎 第5回：紅露時代の到来 第6回：文学界の動向と習作期 第7回：観念小説作家へ 第8回：鏡花世界の基盤 第9回：浪漫主義文学と「高野聖」 第10回：戯曲文学と演劇界 第11回：大正時代と円熟期 第12回：『鏡花全集』の刊行と出版界 第13回：作家たちからの賛辞 第14回：孤高の天才と後進たち 第15回：没後の評価と文学界</p>			
テキスト			
泉鏡花『外科室・天守物語』（新潮文庫）			
参考書・参考資料等			
眞有澄香『日本の作家100人 泉鏡花 人と文学』（勉誠出版）、その他は授業時に適宜配布する。			
学生に対する評価			
授業内の小課題（40%）、最終レポート（60%）			

授業科目名： 近代文学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：眞有澄香 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 日本近代文学の主要な作品を読解しながら、〈文学〉を取り巻くさまざまな事象に着目することで、日本近代文学への理解を深める。また、近代文学作品に描かれた文化的・社会的・歴史的な文脈から人間と社会との相互関係がどのように表現されているかを考察し、社会を客観的・相対的に捉えるなど、作品の歴史的・社会的背景を多角的に考察する能力を養う。			
授業の概要 大正期の「純文学」作家の代表とも言える芥川龍之介を取り上げる。芥川龍之介は、夏目漱石の弟子として知られるが、芥川文学の魅力は「知性」よりも「感性」にこそ関わっている。時代を誠実に生き、日本近代文学の粋を集めた芥川作品から、近代文学に関する知見を養い、〈文学〉を取り巻くさまざまな事象から多角的に考察する能力を培う。			
授業計画 第1回：ガイダンス 第2回：東京の下町という出生地 第3回：複雑な生い立ちと時代背景 第4回：一高・東大と文学青年たち 第5回：夏目漱石との出会い 第6回：『新思潮』という文学思潮 第7回：文壇デビューへ 第8回：大阪毎日新聞社と創作意欲 第9回：芸術至上主義的な作風へ 第10回：関東大震災と世情の混乱 第11回：大正末期の文学界 第12回：プロレタリア文学とその時代 第13回：噛み合わない『歯車』 第14回：「文芸的な、余りに文芸的な」論争 第15回：「ぼんやりした不安」という時代			
テキスト 芥川龍之介『ちくま日本文学 芥川龍之介』（ちくま文庫）			
参考書・参考資料等 授業時に適宜配布する。			
学生に対する評価 授業内の小課題（40%）、最終レポート（60%）			

授業科目名： 現代文学 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：眞有澄香 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 現代文学の時代区分には複数の定義があるが、ここでは昭和以降の文学を取り上げる。日本近代文学からより深められた個人の内面や社会問題に焦点を当て、作品の精緻な読みから、現代日本の葛藤や闘争、現代日本社会の特徴や課題を掘り下げる。その上で、同時代の言説のなかで表現されている人間と社会との相互関係を把握し、社会の出来事を客観的・総合的に捉える能力を涵養する。			
授業の概要 戦後、坂口安吾らとともに無頼派に属し、特に若い世代に強い影響を与えた太宰治を取り上げる。現代でも共鳴されるテーマや深い人間描写に込められた太宰文学は、今も多くの人の心を捉えている。その太宰作品から、時代を超えて共感される人間の本質や悩みを読み解き、加えて、自己と向き合う機会とし、日本現代文学の意義や役割についての理解を深める。			
授業計画 第1回：ガイダンスー「現代文学」とはー 第2回：故郷津軽と津島家 第3回：生い立ちと風土、時代背景 第4回：幼年時代と生育環境 第5回：少年時代と左翼運動 第6回：青年期と花柳界 第7回：弟子入りから文壇デビューへ 第8回：創作と生活と 第9回：「日本浪漫派」と評価 第10回：芥川賞への執着 第11回：結婚から作家活動へ 第12回：戦争の嵐の中で 第13回：「斜陽族」という流行語 第14回：太宰を取り巻く作家たち 第15回：「人間失格」から「グッドバイ」へ			
テキスト 太宰治『ちくま日本文学 太宰治』（ちくま文庫）			
参考書・参考資料等 授業時に適宜配布する。			
学生に対する評価 授業内の小課題（40%）、最終レポート（60%）			

授業科目名： 現代文学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：眞有澄香 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・国文学（国文学史を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>日本近代文学において自覚された自我と社会の問題を現代文学はいかに進化・深化させたのか。近代文学の特質である<u>写実</u>や<u>私小説</u>とは異なる「現代性」とは何か。知的、西洋的、批評的なものに接近しすぎた現代文学が情念や感性に向かい、ある種の「古典性」を獲得していく様相を学ぶ。その上で、〈現代文学〉に関する専門的知識や洞察力・分析力・思考力を養う。</p>			
授業の概要			
<p>我が国で初めてノーベル文学賞を受賞した川端康成を取り上げる。川端は日本現代文学を代表する作家の一人であり、その作風は、詩的、抒情的、神秘的であり、さまざまな手法や作風の変遷を見せて「奇術師」の異名を持つに至った。川端文学の精緻な読みから、「日本の美」や死生観、「命」について深く理解し、現代文学から自己と向き合い、「文学」の知見を養う。</p>			
授業計画			
<p>第1回：ガイダンスー「現代文学」とは一 第2回：生い立ちと時代背景 第3回：作家志望と孤高の感情 第4回：孤児と虚無感 第5回：苦学のなかで 第6回：第6次『新思潮』創刊 第7回：傷心と関東大震災 第8回：新感覚派と『文藝時代』 第9回：自在な精神と掌編小説 第10回：不振時代とプロレタリア文学 第11回：社会不安のなかの流行作家 第12回：戦時下の「戦記文学賞」 第13回：戦後日本の哀しみを歌う 第14回：ノーベル文学賞と「美しい日本の私」 第15回：国際的作家から突然の死へ</p>			
テキスト			
川端康成『ちくま日本文学 川端康成』（ちくま文庫）			
参考書・参考資料等			
授業時に適宜配布する。			
学生に対する評価			
授業内の小課題（40%）、最終レポート（60%）			

授業科目名： 漢文Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：リネペアンドレ 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・漢文学		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 伝統文化に関する知識を理解できる。</li> <li>・ 専門的知識を用いて、文化伝統の継承と発展についての課題を設定することができる。</li> </ul>			
授業の概要			
<p>漢文とは中国の文語体の文書である。また、それに倣って日本でつくった文章でもある。前近代と近代の日本文化史において知識人の表現手段は漢文であった。漢文訓読の能力は日本文化史を知る際に大変有用である。本授業では基礎的な漢文の句法（訓読）を身につけながら、様々なテキストの種類（思想、歴史、故事、語類）にも触れることによって、東アジアにおける伝統文化に関する知識を理解する。</p> <p>授業は、グループワークをしながら互いの読み方を披露するなど、学生が主体となってすすめていく。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（授業の概要、授業の進め方、漢字辞典の使い方について学ぶ）			
第2回：漢文訓読への入門（漢文訓読の文化史について学ぶ）			
第3回：漢文句法と例文研究（「返り点・送りがな」と「書き下し文」という句法と『論語』について学ぶ）			
第4回：漢文句法と漢文訓読の文化史（「漢文の五文型」と「置き字」という句法と『論語』について学ぶ）			
第5回：漢文句法と漢文訓読の文化史（「返読文字」と『孟子』という句法について学ぶ）			
第6回：漢文句法と漢文訓読の文化史（「再読文字」という句法と『孟子』について学ぶ）			
第7回：漢文句法と漢文訓読の文化史（「否定の基本形」という句法と『荀子』について学ぶ）			
第8回：漢文句法と漢文訓読の文化史（「不可能・禁止」という句法と『大学』について学ぶ）			
第9回：漢文句法と漢文訓読の文化史（「二重否定」という句法と『中庸』について学ぶ）			
第10回：漢文句法と漢文訓読の文化史（「部分的否定と全部否定」という句法と『老子』について学ぶ）			
第11回：漢文句法と漢文訓読の文化史（「疑問・反語」という句法と『莊子』について学ぶ①）			
第12回：漢文句法と漢文訓読の文化史（「疑問（文末の疑問の助字と文頭・文中に疑問詞を用いる形）」という句法と『莊子』について学ぶ②）			
第13回：漢文句法と漢文訓読の文化史（「疑問（疑問形のみ形「A何化」「如何」「執」「A否」「A未」）」という句法と『孫子』について学ぶ③）			

第14回：漢文句法と漢文訓読の文化史（「反語（反語形のみ「豈A哉」「独A哉」「敢A（乎）」）」という句法と『墨子』について学ぶ）

第15回：総括（前期の授業で修得した内容を復習し、漢文訓読の理解を深める）、授業内試験

テキスト

- ・三羽邦美『基礎からジャンプアップノート：漢文句法・演習ドリル 三訂版』 旺文社、2024
- ・佐藤進・他編『漢辞海』（第4版 小型版） 三省堂、2019

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

授業内試験／Exam (s) (80%)、小テスト／Quiz (10%)、発言・応答／Class Participation (10%)

授業科目名： 漢文Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：リネペアンドレ 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・漢文学		
授業のテーマ及び到達目標 ・ 伝統文化に関する知識を理解できる。 ・ 専門的知識を用いて、文化伝統の継承と発展についての課題を設定することができる。			
授業の概要 漢文とは中国の文語体の文書である。また、それに倣って日本でつくった文章でもある。前近代と近代の日本文化史において知識人の表現手段は漢文であった。漢文訓読の能力は日本文化史を知る際に大変有用である。本授業では基礎的 な漢文の句法（訓読）を身につけながら、様々なテキストの種類（思想、歴史、故事、語類）にも触れることによって、東アジアにおける伝統文化に関する知識を理解する。 授業は、グループワークをしながら互いの読み方を披露するなど、学生が主体となってすすめていく。			
授業計画 第1回：オリエンテーション（従業の概要、授業の進め方、漢字辞典の使い方について学ぶ） 第2回：漢文訓読と例文研究（「使役」という句法と『春秋左氏伝』における漢文について学ぶ） 第3回：漢文訓読と例文研究（「受身」という句法と『春秋左氏伝』における漢文について学ぶ） 第4回：漢文訓読と例文研究（「比較」という句法と『史記』における漢文について学ぶ） 第5回：漢文訓読と例文研究（「選択」という句法と『史記』における漢文について学ぶ） 第6回：漢文訓読と例文研究（「仮定」という句法と『漢書』における漢文について学ぶ） 第7回：漢文訓読と例文研究（「限定」という句法と『漢書』における漢文について学ぶ） 第8回：漢文訓読と例文研究（「抑揚」という句法と『十八史略』における漢文について学ぶ） 第9回：漢文訓読と例文研究（「累加」という句法と頼山陽『日本外史』における漢文について学ぶ） 第10回：漢文訓読と例文研究（「願望」という句法と頼山陽『日本外史』における漢文について学ぶ） 第11回：漢文訓読と例文研究（「比況」という句法と佐藤一斎『言志四録』における漢文について学ぶ） 第12回：漢文訓読と例文研究（「詠嘆」という句法と山崎闇斎「感有り」という漢詩について学ぶ） 第13回：漢文訓読と例文研究（接続語とにおける漢文と新井白石「自ら肖像に題す」という漢詩について学ぶ）			

第14回：漢文訓読と例文研究（漢詩のきまりと荻生徂徠「豊公の旧宅に寄題す」という漢詩について学ぶ）

第15回：総括（後期の授業で修得した内容を復習し、漢文訓読の理解を深める）、授業内試験

テキスト

- ・三羽邦美『基礎からのジャンプアップノート漢文句法・演習ドリル 三訂版』 旺文社、2024
- ・佐藤進・他編『漢辞海』（第4版 小型版） 三省堂、2019

参考書・参考資料等

- ・鈴木健一編『漢文のルール』 笠間書院、2018
- ・二畳庵主人/加地伸行『漢文法』 講談社学術文庫、2010

学生に対する評価

授業内試験／Exam(s) (80%)、小テスト／Quiz (10%)、発言・応答／Class Participation (10%)

授業科目名： 書写 I	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校）	単位数： 2単位	担当教員名：中村健太郎 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・書道（書写を中心とする。）		
授業のテーマ及び到達目標			
①ひらがな・カタカナを「正しく、正確に、読みやすく、美しく」書くための知識と技能について説明することができる。			
②書写の授業で必要とされる知識と技能を習得し、実践することができる。			
授業の概要			
<p>書写は文字を書く際の基本であり、実用的な技術として認知されている。また、書写による文字表現は、多様な書表現の方法を楽しむという観点も含まれている。この授業では、「ひらがな」を「正しく、正確に、読みやすく、美しく」書くための知識について学びながら、書写という技術を継承する知識と技術の習得を目指す。「書写」では、硬筆（ペン）と毛筆の両方を扱うこととなるため、学習には用具についての基礎知識も求められる。文字の書き方を学び、文字を書くことの理解を深めながら、書教育という視点から書写を考える授業を展開する。毛筆で文字を上手に書くだけでなく、書の文化を理解し、「正しく、正確に、読みやすく、美しく」表現するための知識と技能の習得を目指す。なお、基礎からの授業となるため、書道経験の有無は問わない。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス、用具用材について			
第2回：「書写」の目的と意義			
第3回：用具の知識と扱い方			
第4回：ひらがなの特徴Ⅰ 向かい合う線の方向と字形			
第5回：ひらがなの特徴Ⅱ 右回り、左回りの特徴			
第6回：ひらがなの特徴Ⅲ 大回りの特徴			
第7回：ひらがなの特徴Ⅳ 折れ線			
第8回：ひらがなの特徴Ⅴ 曲線			
第9回：ひらがなの特徴Ⅵ 結びの線			
第10回：ひらがなの特徴Ⅶ 構造の許容と歴史的変遷について			
第11回：ひらがなによる表現と鑑賞			
第12回：ひらがなの行書表現			
第13回：カタカナの特徴Ⅰ 直線的表現			
第14回：カタカナの特徴Ⅱ 曲線的表現			
第15回：まとめ 課題提出			

テキスト
各授業で資料を配布します。
参考書・参考資料等
・『明解 書写教育』全国大学書写書道教育学会編 萱原書房
・書写の教科書
学生に対する評価
授業時間内に実施する課題への取り組み（60%）、学期末課題レポート(40%)により評価します。

授業科目名： 書写Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校）	単位数： 2単位	担当教員名：中村健太郎 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・書道（書写を中心とする。）		
授業のテーマ及び到達目標			
①楷書の用筆を理解し、技術内容を説明することができる。 ②書写指導の目的について説明することができる。			
授業の概要			
<p>書写は文字を書く際の基本であり、実用的な技術として認知されている。また、書写による文字表現は、多様な書表現の方法を楽しむという観点も含まれている。この授業では、小中学校書写の「楷書」について、硬筆および毛筆での表現について学習する。「楷書」には文字の全体から細部まで把握して「正しく、正確に、読みやすく、美しく」楷書を丁寧に書くことを学び、指導者としての視点も交えながら、書写に対する基礎を学ぶ。文字や書表現について関心を持ち、毛筆で文字を上手に書くだけでなく、書の文化を理解し、「正しく、正確に、読みやすく、美しく」表現するための知識と技能の習得を目指す。なお、基礎からの授業となるため、書道経験の有無は問わない。</p>			
授業計画			
第1回：授業方針・内容の説明			
第2回：楷書とは 歴史と現状			
第3回：基本点画1 画の特徴			
第4回：基本点画2 三折法（三過折、起筆・送筆・終筆）			
第5回：基本点画3 横画			
第6回：基本点画4 縦画			
第7回：基本点画5 払い			
第8回：基本点画6 転折（ハネ、折れ）			
第9回：基本点画7 転折（まがり、そり）			
第10回：字形の結構1 上下の関係で成り立つ文字			
第11回：字形の結構2 左右の関係で成り立つ文字ほか			
第12回：筆順1 筆順の意義			
第13回：筆順2 筆順の許容			
第14回：筆順3 書体と筆順の関係について			
第15回：まとめ 課題提出			
テキスト			
各授業で資料を配布します。			

参考書・参考資料等

- ・『明解 書写教育』全国大学書写書道教育学会編 萱原書房
- ・書写の教科書

学生に対する評価

授業時間内に実施する課題への取り組み（60%）、学期末課題レポート(40%)により評価します。

授業科目名： 国語科教育法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：菊地圭子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>中学校学習指導要領で示されている、国語科における各領域の指導事項を理解する。本時のねらいを具体化して、必要な言語活動を取り入れた、模擬授業の学習指導案作成を行うことができる。</p>			
授業の概要			
<p>中学校学習指導要領をもとにして、国語科教育の重要性を考える。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域の中で、どのような教材があり、どのような学習活動が行われているのかを、実際に様々な言語活動を体験しながら、国語科学習指導の基本を学ぶことにする。教材の何をどう扱うことで国語科としての学習が成立するのか、具体的な教材をもとに言語能力の育成について検討していくことにする。小学校6年間の積み重ねの上に中学校での基礎的・基本的な内容の確実な習得を目指し、各領域の指導事項を具体的な観点から指導の在り方を構築する授業を展開する。ディスカッションやグループワークを行い、主体的に言語活動を体験する。授業では、より具体的な内容で実践的なレベルでの取り組みを多様化して、実際の場として位置づくように参加型の授業を行い、そこから得られた知見を理論化する。後半、本時案について学習指導案を作成し、模擬授業、および授業協議会を実施する。</p>			
授業計画			
第1回 中学校国語科の学習指導とは			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校学習指導要領における国語科の目標及び主な内容並びに全体構造</li> <li>・ 小学校6年間の積み上げにおける国語科指導の在り方</li> <li>・ 中1教材から読み方の基礎・基本の学び</li> <li>・ 詩教材で言語感覚と思考段階の深め方を学ぶ</li> </ul>			
第2回 学習評価と「読むこと」の系統性の具現化 (1)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校国語科の学習評価の考え方</li> <li>・ 文学的文章を読む活動 場面の変化</li> </ul>			
第3回 「読むこと」の系統性の具現化 (2)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 説明的文章を読む活動 具体例による説得力</li> </ul>			
第4回 伝統的な言語文化の具現化 (1)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古典随筆教材の指導法</li> </ul>			
第5回 伝統的な言語文化の具現化 (2)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漢文・漢詩に親しむ</li> </ul>			

#### 第6回 学習指導案の書き方

- ・発問の設定
- ・反応予想
- ・指導事項の組み立て

#### 第7回 「書くこと」の系統性の具現化

- ・書くことの基本 取材
- ・構成・記述・推敲
- ・交流の在り方・立場を決めて意見を述べる

#### 第8回 「話すこと・聞くこと」の系統性の具現化

- ・話し方、聞き方、話し合い方の具現化
- ・対話の実際
- ・話し合いの実際
- ・討議法によって論理的思考を高める

#### 第9回 中学校国語科模擬授業実践 (1) 文学教材の読み (グループA)

- ・受講者による模擬授業実践
- ・授業に対する意見交流と授業の見方、評価

#### 第10回 中学校国語科模擬授業実践 (2) 文学教材の読み (グループB)

- ・受講者による模擬授業実践
- ・授業に対する意見交流と授業の見方、評価

#### 第11回 中学校国語科模擬授業実践 (3) 文学教材の読み (グループC)

- ・受講者による模擬授業実践
- ・授業に対する意見交流と授業の見方、評価

#### 第12回 中学校国語科模擬授業実践 (4) 文学教材の読み (グループD)

- ・受講者による模擬授業実践
- ・授業に対する意見交流と授業の見方、評価

#### 第13回 「書写」の実際

- ・硬筆・毛筆の基本的な考え方
- ・行書の基礎の実際 ICTの活用

#### 第14回 読書指導の展開と活性化

- ・読み聞かせやブックトークなど、読書紹介活動の推進とテーマ読書の展開

#### 第15回 学習指導要領で国語科教育法 I を振り返る

- ・各領域のねらいをもとに基礎的
- ・基本的な内容と具体的な言語活動の工夫について
- ・デジタル教材の活用について

テキスト

中学校学習指導要領解説 国語編（平成29年7月 文部科学省）

参考書・参考資料等

参考文献等については、授業内で適宜紹介したり、必要な資料を配布したりする

学生に対する評価

レポート（30%）、グループワーク（20%）、リアクションペーパー（20%）、実習（30%）

授業科目名： 国語科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：菊地圭子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>中学校の国語科学習に必要な力を身につける。具体的な授業設計を行いながら、深い学びを通して言葉の力を育む模擬授業を構想する。本時の板書の完成図を意識した、見通しをもった学習指導案の作成と模擬授業の実践を行うことができる。</p>			
授業の概要			
<p>中学校国語科に求められている各領域の指導事項を基礎的・基本的な内容として、生徒が確実に習得していくための教育法を確立するとともに、具体的な方法を講じて授業展開に生かしていく。ディスカッションやグループワークなど、主体的に関わりながら言語活動を豊かにしていく。特に、教科書教材を活用しつつ、学習者に求められている各領域の能力を身につけるためには、指導方法の工夫と改善がなくてはならない。また、教材研究の力も深く求められる。したがって、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化」等の学びの本質を理解して、豊かな言語活動を取り入れる必要がある。授業では、中学校段階として求められている国語科の能力を、具体的教材を通してさらに授業改善につなげていく方策を探る。板書完成図を含めて、学習指導案の作成し、本時の見通しをもって、模擬授業を実施し、授業協議会で成果を分かち合うようにする。</p>			
授業計画			
<p>第1回 中学校で求められている国語の能力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校学習指導要領における国語科の目標及び主な内容並びに全体構造</li> <li>・ 俳句・短歌等韻文教材で言語感覚を養う</li> <li>・ 常用漢字が読める</li> <li>・ 語彙の拡充</li> </ul> <p>第2回 学習評価と「読むこと」文学教材の学び（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校国語科の学習評価の考え方・つけ方</li> <li>・ 文学表現を読み解く力の育成、人物、対話、描写に目を向けて</li> </ul> <p>第3回 「読むこと」説明文教材の学び（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 説明表現を読み、図表や具体例の伝え方を考える</li> </ul> <p>第4回 伝統的な言語文化の学び（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古文教材 軍記物語や随筆を味わう</li> </ul> <p>第5回 伝統的な言語文化の学び（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漢文教材 論語を味わう</li> </ul>			

#### 第6回 学習指導案の書き方

- ・ 学習指導案の実際と書き方
- ・ 生徒の反応予想と具体化
- ・ 全体指導の構想

#### 第7回 「書くこと」の学び

- ・ 投書を読み、短文で書く
- ・ 批評文を書き交流する

#### 第8回 「話すこと・聞くこと」の学び

- ・ 討議法を学ぶ、論点を明確に

#### 第9回 中学校国語科模擬授業実践 (1) 説明文・古典教材 (古文・漢文) の読み (グループA)

- ・ 受講者による模擬授業
- ・ 授業に対する意見交流と評価

#### 第10回 中学校国語科模擬授業実践 (2) 説明文・古典教材 (古文・漢文) の読み (グループB)

- ・ 受講者による模擬授業
- ・ 授業に対する意見交流と評価

#### 第11回 中学校国語科模擬授業実践 (3) 説明文・古典教材 (古文・漢文) の読み (グループC)

- ・ 受講者による模擬授業
- ・ 授業に対する意見交流と評価

#### 第12回 中学校国語科模擬授業実践 (4) 説明文・古典教材 (古文・漢文) の読み (グループD)

- ・ 受講者による模擬授業
- ・ 授業に対する意見交流と評価

#### 第13回 書写の実際

- ・ 行書の実際、行書の原則の理解
- ・ 硬毛関連の考え方
- ・ 板書の技術
- ・ 創造力を引き出す技術、立体的な表現

#### 第14回 読書指導と学校図書館の活用

- ・ 読書会の設定と読み味わい・ICTの活用

#### 第15回 学習指導要領から国語科教育法Ⅱを振り返る

- ・ 領域ごとの構造的な理解
- ・ 授業の組み立て方
- ・ 評価観の転換を目指して
- ・ デジタル教材の活用

テキスト

中学校学習指導要領解説 国語編 (平成29年7月 文部科学省)

参考書・参考資料等

参考文献等については、授業内で適宜紹介したり、必要な資料を配布したりする

学生に対する評価

レポート（30%）、グループワーク（20%）、リアクションペーパー（20%）、実習（30%）

授業科目名： 国語科教育法Ⅲ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：菊地圭子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>高等学校の国語科として身につけなければならない能力を具体的な授業設計をしつつ、模擬授業につなげることができる。単元の全体計画を作成し、単元レベルでの教材の扱いについて、検討する力を身に付ける。授業協議会での話し合い能力の向上を図る。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>高等学校国語科が求めている各領域の指導事項を基礎的・基本的な内容として、生徒が確実に習得していくための教育法を確立するとともに具体的な方法を講じて授業展開をしていく。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「伝統的な言語文化」等を中学校との系統性を理解して、言語活動例に生かしていく手立てを講じる必要がある。ディスカッションやグループワークなど、豊かな言語活動をもとに主体的に関わるようにする。</p> <p>さらに、新学習指導要領の完全実施に向けて、新たな言語活動例の検討を加味し、高等学校段階として求められている国語科の能力を具体的教材を通して授業改善につなげていく方策を探る。後半、全体計画を含めて、学習指導案を作成し、模擬授業、授業協議会を実施する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 高等学校で身につけること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校学習指導要領における国語科の目標及び主な内容並びに全体構造</li> <li>・詩教材で豊かな言語感覚、深い思考に基づいた表現力を育てる</li> </ul> <p>第2回 学習評価と「読むこと」の系統性と具現化（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校国語科の学習評価の考え方</li> <li>・文学教材 場面の深い読みと俯瞰する読み</li> <li>・描写</li> <li>・人物</li> </ul> <p>第3回 「読むこと」の系統性と具現化（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評論教材 論理的思考力</li> </ul> <p>第4回 伝統的な言語文化に親しむ（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古文教材 伊勢物語など、歌物語</li> </ul> <p>第5回 伝統的な言語文化に親しむ（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢文教材 故事成語</li> </ul> <p>第6回 学習指導案の書き方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導案の実際と書き方</li> </ul>			

- ・生徒の実態と教材分析の方法、発問、板書、留意点
- ・ICTの活用

第7回 「書くこと」の系統性と具現化

- ・データを読み、論理的な構成を考える
- ・図や表から読み取って表現する

第8回 「話すこと・聞くこと」の系統性と具現化

- ・独話から対話交流へ
- ・スピーチ交流をしてみよう

第9回 高等学校国語科模擬授業実践 (1) 文学教材の読み (グループA)

- ・受講生による模擬授業
- ・授業評価
- ・協議会での意見交流

第10回 高等学校国語科模擬授業実践 (2) 文学教材の読み (グループB)

- ・受講生による模擬授業
- ・授業評価
- ・協議会での意見交流

第11回 高等学校国語科模擬授業実践 (3) 文学教材の読み (グループC)

- ・受講生による模擬授業
- ・授業評価
- ・協議会での意見交流

第12回 高等学校国語科模擬授業実践 (4) 文学教材の読み (グループD)

- ・受講生による模擬授業
- ・授業評価
- ・協議会での意見交流

第13回 指導技術の進化

- ・板書の完成図
- ・ワークシート
- ・国語便覧の活用
- ・デジタル教材の活用

第14回 読書指導による学校図書館の活用

- ・PR紙づくり
- ・読書新聞づくり
- ・自分の好きな一冊の本
- ・POPづくり

第15回 学習指導要領で国語科教育法Ⅲを振り返る

<ul style="list-style-type: none"><li>・授業構成と授業改善の方向性</li><li>・具体的な言語活動事例の特色</li><li>・ICTの活用</li></ul>
テキスト 『高等学校学習指導要領解説 国語編』（平成30年7月 文部科学省）
参考書・参考資料等 参考文献等については、授業内で適宜紹介したり、必要な資料を配布したりする
学生に対する評価 レポート（30%）、グループワーク（20%）、リアクションペーパー（20%）、実習（30%）

授業科目名： 国語科教育法Ⅳ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：菊地圭子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 国語）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>高等学校の国語科として身につけておくべき能力を理解して、各領域での模擬授業等を展開する力につなげる。また、模擬授業の学習指導案の作成の仕方を工夫して、全体計画と評価規準にもとづいた計画性のある学習指導案を作成し、授業実践と協議会のレベルを上げることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>高等学校で生徒が身につけるべき内容を新学習指導要領の指導事項で理解する。受講者が具体的な教材に触れながら、確実に授業実践力が高まるように授業展開を進めていく。特に、思考力・判断力・表現力の育成を図るために、各領域の活動を相互に関連づける必要がある。また、基本的な力量を定着させていくためにも自己表現力を高めていかなければならない。ディスカッションやグループワークなど、より主体的に関わりながら言語活動を高めていくようにする。授業においては、具体的な教材を通して教科の学習指導力を工夫し、改善していく方法を構築していく。求められている言語能力を発揮するために必要な教師の力量をさらに高めていく。言語活動の特色に触れながら、深い学びを引き出す授業を目指して、授業力の向上をさらに図る。後半は、評価規準を含めて、学習指導案作成能力を高め、模擬授業、授業協議会を実施する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 高等学校で身につけるべきこと</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校学習指導要領における国語科の目標及び主な内容並びに全体構造</li> <li>・和歌教材をもとに豊かな言語感覚や深い思考力に基づいた表現力を駆使する</li> </ul> <p>第2回 学習評価と「読むこと」の系統性と具現化（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校国語科の学習評価の考え方・つけ方</li> <li>・文学教材の読みの深化（語り、視点、構成）</li> </ul> <p>第3回 「読むこと」の系統性と具現化（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・評論教材の読みの深化（俯瞰する読み、論理性）</li> </ul> <p>第4回 「古典探究」の系統性と具現化（1）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・古文教材（物語と和歌の関係を深く読む）</li> </ul> <p>第5回 「古典探究」の系統性と具現化（2）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・漢文教材（孔子・孟子等の思想にかかわる文章を読み味わう）</li> </ul> <p>第6回 学習指導案の書き方</p>			

- ・学習指導案の実際と書き方
- ・留意点の書き方、手立てと評価規準

#### 第7回 「書くこと」の系統性と具現化

- ・場面に応じた手紙
- ・手紙の実際
- ・新聞投書を集めて分析
- ・投書を書いてみよう

#### 第8回 「話すこと・聞くこと」の系統性と具現化

- ・肯定派・否定派に分かれてディベートに挑戦する

#### 第9回 指導技術の進化

- ・効果的な板書・国語便覧の資料活用
- ・ICTの活用

#### 第10回 高等学校国語科模擬授業実践（1）評論教材・古典教材古文（グループA）

- ・受講生による模擬授業
- ・授業に対する協議会における意見交流と評価

#### 第11回 高等学校国語科模擬授業実践（2）評論教材・古典教材古文（グループB）

- ・受講生による模擬授業
- ・授業に対する協議会における意見交流と評価

#### 第12回 高等学校国語科模擬授業実践（3）評論教材・古典教材古文（グループC）

- ・受講生による模擬授業
- ・授業に対する協議会における意見交流と評価

#### 第13回 高等学校国語科模擬授業実践（4）評論教材・古典教材古文（グループD）

- ・受講生による模擬授業
- ・授業に対する協議会における意見交流と評価

#### 第14回 読書指導と学校図書館の活用

- ・ビブリオバトルの設定
- ・広告、パンフレットづくり

#### 第15回 学習指導要領から国語科教育法IVを振り返る

- ・学習指導の構造化
- ・国語科授業の本質
- ・授業実践の極意
- ・デジタル教材の活用

#### テキスト

『高等学校学習指導要領解説 国語編』（平成30年7月 文部科学省）

#### 参考書・参考資料等

参考文献等については、授業内で適宜紹介したり、必要な資料を配布したりする

学生に対する評価

レポート (30%)、グループワーク (20%)、リアクションペーパー (20%)、実習 (30%)

授業科目名： 代数学 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：寺門康裕 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・代数学		
授業のテーマ及び到達目標 ベクトルと行列について入門的事項を学ぶ。前半では、3次元ベクトルと空間図形のイメージを習得する。後半は、行列の応用として連立1次方程式の解法などを習得する。			
授業の概要 ベクトルや行列の性質について学んだ上で、その応用についても計算しながら学ぶ。			
<p>授業計画</p> <p>第1回：空間ベクトル</p> <p>第2回：内積と外積</p> <p>第3回：行列式と面積・体積</p> <p>第4回：空間図形のパラメーター表示</p> <p>第5回：空間図形の方程式</p> <p>第6回：2次行列とその積</p> <p>第7回：平面上の1次変換</p> <p>第8回：前半の振り返り、中間試験</p> <p>第9回：一般の行列とその演算</p> <p>第10回：逆行列</p> <p>第11回：連立1次方程式と行列</p> <p>第12回：行列の基本変形</p> <p>第13回：行列の階数</p> <p>第14回：連立1次方程式の解法</p> <p>第15回：逆行列の計算法</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>新井啓介 他「ベクトルと行列 --基礎から始める線形代数--」 (培風館)</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>なし</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>中間試験 (40%)、定期試験 (60%)</p>			

授業科目名： 代数学Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：寺門康裕 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・代数学		
授業のテーマ及び到達目標 行列式、数ベクトル空間、固有値と固有ベクトルなどの線形代数の基本事項を習得する。			
授業の概要 一般の次元における数ベクトル空間や行列の基本事項を学び、対角化などの計算も学ぶ。			
授業計画 第1回：n次行列式の定義 第2回：行列式の性質 第3回：行列式の計算 第4回：余因子 第5回：逆行列の計算 第6回：クラメルの公式 第7回：数ベクトル 第8回：前半の振り返り、中間試験 第9回：ベクトルの1次独立性 第10回：線形部分空間 第11回：基底と次元 第12回：固有値と固有ベクトル 第13回：固有空間 第14回：行列の対角化 第15回：行列のべき乗の計算 定期試験			
テキスト 新井啓介 他「ベクトルと行列 --基礎から始める線形代数--」 (培風館)			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 中間試験 (40%)、定期試験 (60%)			

授業科目名： 代数学Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：寺門康裕 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・代数学		
授業のテーマ及び到達目標 初等整数論を題材に代数学の基本的な考え方を習得する。			
授業の概要 初等整数論の基本事項を実際に計算しながら学ぶ。暗号理論への応用にも触れる。			
授業計画 第1回：割り算、約数と倍数 第2回：ユークリッドの互除法 第3回：1次不定方程式 第4回：素因数分解 第5回：素因数分解の一意性の応用 第6回：合同式の定義、剰余類 第7回：合同における演算 第8回：前半の振り返り、中間試験 第9回：1次合同方程式 第10回：連立1次合同方程式と中国剰余定理 第11回：オイラーの関数 第12回：フェルマーの小定理 第13回：オイラーの定理 第14回：RSA公開鍵暗号の理論 第15回：暗号の実践 定期試験			
テキスト 遠山啓著「数の不思議 - 初等整数論への招待」(SBクリエイティブ)			
参考書・参考資料等 楫元著「工科系のための初等整数論入門—公開鍵暗号をめざして」(培風館)			
学生に対する評価 レポート課題(25%)、中間試験(25%)、定期試験(50%)			

授業科目名： 論理数学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：寺門康裕 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・代数学		
授業のテーマ及び到達目標 数学の基礎である集合と論理の基礎知識を身に付ける。			
授業の概要 命題論理、集合、写像、関係、濃度について例題を解きながら学習する。			
授業計画 第1回：命題論理の初歩 第2回：集合 第3回：任意と存在 第4回：「ならば」と部分集合 第5回：関数と写像 第6回：直積と関係 第7回：同値関係と代表元 第8回：前半の振り返り、中間試験 第9回：べき集合 第10回：商集合 第11回：有限集合の元の個数 第12回：濃度 第13回：順序集合と同型写像 第14回：整列集合 第15回：整数、有理数、数列、集合族 定期試験			
テキスト 鈴木登志雄著「例題で学ぶ集合と論理」(森北出版株式会社)			
参考書・参考資料等 嘉田勝著「論理と集合から始める数学の基礎」(日本評論社)			
学生に対する評価 レポート課題(30%)、中間試験(30%)、定期試験(40%)			

授業科目名： 幾何学 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：寺門康裕 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・幾何学		
授業のテーマ及び到達目標 曲線の基本事項と性質、さらに曲率の算出方法とその幾何学的意味について理解する。			
授業の概要 微分幾何学への入門として、平面内と空間内での曲線とその曲率・捩率について講義する。			
授業計画 第1回：ユークリッド空間 第2回：等長変換 第3回：ベクトル値関数と行列値関数 第4回：曲線の定義 第5回：曲線の長さ 第6回：平面曲線と微分方程式 第7回：曲率 第8回：前半の振り返り、中間試験 第9回：フレネの公式 第10回：回転数と全曲率 第11回：空間曲線と微分方程式 第12回：曲率と捩率 第13回：フレネ・セレの公式 第14回：全曲率 第15回：フェンチェルの定理 定期試験			
テキスト 藤岡敦著「手を動かしてまなぶ 曲線と曲面」(裳華房)			
参考書・参考資料等 中内伸光著「じっくり学ぶ曲線と曲面—微分幾何学初歩」(共立出版)			
学生に対する評価 中間試験(40%)、定期試験(60%)			

授業科目名： 幾何学Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：寺門康裕 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・幾何学		
授業のテーマ及び到達目標 曲面に対して定義されるさまざまな曲率の性質や幾何学的意味合い、計算方法を理解する。			
授業の概要 微分幾何学への入門として、曲面やその曲率の性質、特にガウス・ボンネの定理を学ぶ。			
<p>授業計画</p> <p>第1回：曲面の定義</p> <p>第2回：第一基本形式と面積要素</p> <p>第3回：法曲率と第二基本形式</p> <p>第4回：主曲率</p> <p>第5回：ガウス曲率、平均曲率</p> <p>第6回：正規直交標構</p> <p>第7回：ガウス・ワインガルテンの公式</p> <p>第8回：前半の振り返り、中間試験</p> <p>第9回：等温座標系</p> <p>第10回：曲面論の基本定理</p> <p>第11回：驚異の定理</p> <p>第12回：三角形領域におけるガウス・ボンネの定理</p> <p>第13回：閉曲面におけるガウス・ボンネの定理</p> <p>第14回：変分問題</p> <p>第15回：極小曲面</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>藤岡敦著「手を動かしてまなぶ 曲線と曲面」(裳華房)</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>中内伸光著「じっくり学ぶ曲線と曲面—微分幾何学初歩」(共立出版)</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>中間試験(40%)、定期試験(60%)</p>			

授業科目名： 幾何学Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：寺門康裕 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・幾何学		
授業のテーマ及び到達目標 グラフと閉曲面のホモロジー群と分類定理について理解する。			
授業の概要 代数的位相幾何学への入門として、グラフや曲面のホモロジー群について計算を通して学ぶ。			
授業計画 第1回：集合と写像 第2回：自由加群 第3回：グラフとチェイン 第4回：グラフのホモロジー群 第5回：グラフ上の道 第6回：同相 第7回：オイラー数とホモロジー群 第8回：前半の振り返り、中間試験 第9回：2次元単体複体 第10回：曲面のホモロジー群 第11回：2次元単体複体の同相 第12回：2次元単体複体のホモロジー群 第13回：曲面の向き 第14回：閉曲面の分類定理 第15回：ベッチ数とオイラー数 定期試験			
テキスト 阿原一志著「計算で身につくトポロジー」(共立出版)			
参考書・参考資料等 ウィリアム・フルトン著、三村護訳「代数的位相幾何学入門〈上〉」(シュプリンガー・ジャパン)			
学生に対する評価 レポート課題(25%)、中間試験(25%)、定期試験(50%)			

授業科目名： グラフ理論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：寺門康裕 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・幾何学		
授業のテーマ及び到達目標 グラフ理論の基礎的な諸概念と代表的な定理を理解する。			
授業の概要 さまざまなグラフの基本的な概念や性質について例題を解きながら学ぶ。			
授業計画 第1回：グラフ理論とは 第2回：定義と例 第3回：次数 第4回：道と閉路 第5回：連結性 第6回：オイラー・グラフ 第7回：ハミルトン・グラフ 第8回：前半の振り返り、中間試験 第9回：木について 第10回：木の数え上げ 第11回：平面的グラフ 第12回：オイラーの公式 第13回：グラフの彩色 第14回：辺彩色 第15回：有向グラフ 定期試験			
テキスト R. J. ウィルソン（著）、西関隆夫・西関裕子（共訳）「グラフ理論入門（原書第4版）」（近代科学社）			
参考書・参考資料等 瀬山士郎著「点と線の数学—グラフ理論と4色問題」（技術評論社）			
学生に対する評価 レポート課題（25%）、中間試験（25%）、定期試験（50%）			

授業科目名： 解析学 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：寺門康裕 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・解析学		
授業のテーマ及び到達目標 1変数関数に対する微積分の計算とその幾何的な意味などの解析学の基本事項を習得する。			
授業の概要 1変数関数の微積分の基本事項を、演習を交えながら学ぶ。			
授業計画 第1回：関数 第2回：極限 第3回：微分の定義と基本的性質 第4回：積、商、合成関数の微分 第5回：指数・対数関数と三角関数の微分 第6回：関数の増減 第7回：テイラーの定理 第8回：前半の振り返り、中間試験 第9回：定積分の定義と微分積分学の基本定理 第10回：不定積分 第11回：部分積分 第12回：置換積分 第13回：定積分と面積 第14回：広義積分 第15回：総合演習 定期試験			
テキスト 石原繁、浅野重初著「理工系入門 微分積分」(裳華房)			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 中間試験(40%)、定期試験(60%)			

授業科目名： 解析学Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：寺門康裕 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	強化に関する専門的事項 ・解析学		
授業のテーマ及び到達目標 多変数関数に関する微分・積分の計算方法と幾何的な意味を理解する。			
授業の概要 多変数関数の微分・積分の基本的な演算とその意味について演習を交えながら学ぶ。			
授業計画 第1回：多変数関数 第2回：極限 第3回：偏微分 第4回：全微分 第5回：接平面 第6回：合成関数の偏微分 第7回：高次偏導関数 第8回：前半の振り返り、中間試験 第9回：テイラーの定理 第10回：極大・極小 第11回：重積分 第12回：二重積分の計算・累次積分 第13回：極座標による二重積分 第14回：体積 第15回：曲面の面積 定期試験			
テキスト 石原繁、浅野重初著「理工系入門 微分積分」(裳華房)			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 中間試験(40%)、定期試験(60%)			

授業科目名： 解析学Ⅲ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：寺門康裕 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・解析学		
授業のテーマ及び到達目標 複素関数に関する微積分やべき級数展開を理解し、計算ができるようになる。			
授業の概要 複素関数の解析的性質について講義したうえで、計算に慣れ親しむために演習を実施する。			
授業計画 第1回：複素数と複素平面 第2回：複素関数 第3回：複素関数の微分 第4回：コーシー・リーマンの関係式 第5回：複素関数の線積分 第6回：線積分の性質 第7回：コーシーの積分定理 第8回：前半の振り返り、中間試験 第9回：コーシーの積分公式 第10回：テイラー展開 第11回：一致の定理 第12回：リュービルの定理と代数学の基本定理 第13回：特異点とローラン展開 第14回：留数定理 第15回：留数定理による定積分の計算 定期試験			
テキスト 川平友規著「入門複素関数」(裳華房)			
参考書・参考資料等 山本直樹著「複素関数論の基礎」(裳華房)			
学生に対する評価 中間試験(40%)、定期試験(60%)			

授業科目名： 基礎数学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：頃安貞利 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・解析学		
授業のテーマ及び到達目標 2次関数・三角関数・指数関数・対数関数を取り扱う力を身に付ける。			
授業の概要 数学の基礎知識を習得するとともに、演習を通して計算能力を高めるコースです。2次関数・指数関数・対数関数・三角関数について、大学での学修に重要となる内容を学習します。			
授業計画 第1回：整式の計算 第2回：因数分解 第3回：2次関数とグラフ 第4回：2次関数の最大・最小 第5回：2次方程式 第6回：2次不等式 第7回：恒等式と因数定理 第8回：指数関数の基礎 第9回：指数関数の応用 第10回：対数関数の基礎 第11回：対数関数の応用 第12回：三角関数の基礎 第13回：三角関数のグラフ 第14回：数列 第15回：全体のまとめ・総合演習			
テキスト 「工科の数学 基礎数学」・田代嘉宏 著・森北出版			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。			
学生に対する評価 総合演習（50%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（50%）			

授業科目名： 数値計算法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：頃安貞利 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・解析学		
授業のテーマ及び到達目標 コンピュータを利用して、数値計算をするための基本的な解析手法を理解します。			
授業の概要 解析的に解けない方程式の解を求めたり、微分や積分の問題を数値計算により解析する手法の基礎を学びます。Excelを用いて問題を解き、解析方法の実技を行い、理解を深めます。			
授業計画 第1回：授業の進め方、数値解析の実例の紹介 第2回：方程式の解法：ニュートン法 第3回：方程式の解法：はさみうち法 第4回：連立方程式：ガウスの消去法 第5回：連立方程式：ヤコビ法 第6回：行列の計算：加算・減算，乗法 第7回：行列の計算：行列式の計算，逆行列 第8回：関数補間法と近似式：最小二乗法 第9回：関数補間法と近似式：ラグランジュ補間 第10回：関数補間法と近似式：スプライン補間 第11回：数値積分法：台形公式法 第12回：数値積分法：シンプソン法 第13回：常微分方程式：オイラー法 第14回：常微分方程式：ルンゲ・クッタ法 第15回：全体のまとめ・総合演習			
テキスト 「Excelではじめる数値解析」・伊津野和行、酒井 久和 著・森北出版			
参考書・参考資料等 授業中に適宜資料を配付する。			
学生に対する評価 総合演習（20%）、毎回の授業の最後に提出する小レポート（80%）			

授業科目名： 確率論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：石黒友一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「確率論、統計学」		
授業のテーマ及び到達目標 確率変数や確率分布について理解し、平均、分散、相関係数などの統計量の計算を習得する。			
授業の概要 確率論のうち、確率変数や確率分布、および各統計量の計算について例題を解きながら学ぶ。			
授業計画 第1回：古典的確率の復習 第2回：事象と確率 第3回：条件付き確率 第4回：ベイズの定理 第5回：確率変数と確率分布 第6回：代表的な確率分布 第7回：期待値と分散 第8回：共分散、相関係数 第9回：二項分布 第10回：正規分布 第11回：カイ二乗分布 第12回：t分布 第13回：F分布 第14回：大数の法則 第15回：中心極限定理 定期試験			
テキスト 小林正弘他著「確率と統計——から学ぶ数理統計学——」（共立出版）			
参考書・参考資料等 藤澤洋徳著「確率と統計」（朝倉書店）			
学生に対する評価 レポート（40％）、定期試験（60％）			

授業科目名： 統計学 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：小島寛之 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「確率論、統計学」		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済学の理論を理解し説明でき、その考え方を日常生活に活用することができる。</li> <li>・情報理論や統計学の知識を使いデータを収集・分析することができる。</li> </ul>			
授業の概要			
<p>統計学とは要するに、データを扱う技の集大成である。データを扱うには、特有のコツがあり、そのコツさえ身につけば誰だってデータを身近にできる。</p> <p>この講義では、統計学の入門として、「データの眺め方」を伝授する。基礎的な統計量の意味を知るだけでも、データへの親近感は驚くほど変わる。前期にはその手始めとして、「標準偏差」にスポットを当てる。標準偏差は、統計学の発想を理解する上で、もっとも基本となる統計量である。これを理解することが、統計学の奥義を手に入れる上で最重要の作業だといっている。あの手この手で標準偏差の本質を理解してもらおう。その一つの手段として、金融トレーディングへの応用などにも触れる。</p> <p>標準偏差の基礎を築いた上で、正規分布を解説し、最短のルートで仮説検定と区間推定の考え方に到達する。</p>			
授業計画			
第1回：講義ガイダンス+統計学の概要+小テスト			
第2回：教科書第1講～度数分布表とヒストグラム+小テスト			
第3回：教科書第2講～平均値+小テスト			
第4回：教科書第3講～分散と標準偏差+小テスト			
第5回：教科書第3講の補足～度数分布表からの分散とSD+小テスト			
第6回：教科書第4講～標準偏差でデータの評価+小テスト			
第7回：教科書第5講～株の標準偏差+小テスト			
第8回：前半のまとめ+中間テスト			
第9回：教科書第6講～シャープ指数+小テスト			
第10回：教科書第7講～正規分布+小テスト			
第11回：教科書第8講～正規分布を使って予言を行う+小テスト			
第12回：教科書第9講～仮説検定の考え方+小テスト			
第13回：教科書第10講～区間推定の考え方+小テスト			
第14回：まとめプリント演習			
第15回：統計学のまとめ+授業内試験			

テキスト

なし

参考書・参考資料等

小島 寛之 『完全独習 統計学入門』 ダイヤモンド社

学生に対する評価

授業内試験／Exam(s) (50%)、その他／Others (30%)、小テスト／Quiz (20%)

授業科目名： 統計学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：小島寛之 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「確率論、統計学」		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>経済学の理論を理解し説明でき、その考え方を日常生活に活用することができる。 情報理論や統計学の知識を使いデータを収集・分析することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>統計学とは要するに、データを扱う技の集大成である。データを扱うには、特有のコツがあり、そのコツさえ身につけば誰だってデータを身近にできる。</p> <p>この講義では、統計学の入門として、「データの眺め方」を伝授する。基礎的な統計量の意味を知るだけでも、データへの親近感は驚くほど変わる。</p> <p>前期には、標準偏差の考え方、正規分布、仮説検定と区間推定の基本を講義したので、後期にはそれを受けて、さらに厚みをつけよう。</p> <p>具体的には、カイ二乗分布やt分布を解説し、正規母集団の母分散の最も自然な推定（カイ二乗分布による推定）、母平均の最も自然な推定（t分布による推定）を理解してもらうのを目標とする。ここまでたどりつければ、統計学の免許皆伝といえる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：講義ガイダンス+統計学の概要+教科書第11講～母集団と統計的推定+小テスト 第2回：教科書第12講～母分散と母標準偏差+小テスト 第3回：教科書第12講の補足～教科書第7講の復習、正規母集団+小テスト 第4回：教科書第13講～標本平均+小テスト 第5回：教科書第14講～正規母集団の標本平均の性質+小テスト 第6回：教科書第15講～標本平均による区間推定+小テスト 第7回：教科書第16講～カイ二乗分布+小テスト 第8回：前半のまとめ+中間テスト 第9回：教科書第17講～母分散の推定その1+小テスト 第10回：教科書第18講～標本分散とカイ二乗分布+小テスト 第11回：教科書第19講～母分散の推定その2+小テスト 第12回：教科書第20講～t分布+小テスト 第13回：教科書第21講～t分布による区間推定+小テスト 第14回：まとめプリント演習 第15回：統計学のまとめ+授業内試験</p>			
テキスト			

なし

参考書・参考資料等

小島 寛之 『完全独習 統計学入門』 ダイヤモンド社

学生に対する評価

授業内試験／Exam(s) (50%) 、その他／Others (30%) 、小テスト／Quiz (20%)

授業科目名： 数理統計学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：石黒友一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「確率論、統計学」		
授業のテーマ及び到達目標 数理統計学の基礎である標本、推定、検定などの考え方と計算方法を習得する。			
授業の概要 数理統計学の基本的な概念を具体的な計算例を通して学ぶ。			
授業計画 第1回：母集団と標本 第2回：標本平均 第3回：標本分散 第4回：標本分布関数 第5回：正規分布と標本 第6回：点推定 第7回：不偏推定量 第8回：最尤推定量 第9回：区間推定の導入 第10回：母平均の区間推定 第11回：母分散の区間推定 第12回：母比率の区間推定 第13回：仮説検定 第14回：母比率の検定 第15回：さまざまな検定 定期試験			
テキスト 小林正弘他著「確率と統計——から学ぶ数理統計学——」（共立出版）			
参考書・参考資料等 久保川達也著「公式と例題で学ぶ大学数学の基礎」（共立出版）			
学生に対する評価 レポート（40％）、定期試験（60％）			

授業科目名： データ処理演習 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：五月女仁子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ		
授業のテーマ及び到達目標			
①Excelの関数や計算式の活用方法を修得する。 ②Excelを使って表やグラフを作成し、結果を読み取ることができる。			
授業の概要			
皆さんもアンケートに答える機会が多いと思います。アンケートの回答用紙が大量に集まったとしても、これだけでは何の役にも立ちません。これを役立出せるためには、表にまとめたり、グラフに表したり、何かと比較をするために検定をしたり、データを処理する能力が必要になります。この授業では、その手始めにデータの入力、表やグラフの作成の基礎、データの抽出を学習します。			
授業計画			
第1回：ガイダンスとアンケート			
第2回：データの入力と表の作成、計算式と基本的な関数の使い方			
第3回：基本統計量について			
第4回：絶対参照と複合参照の使い方			
第5回：IF関数の使い方			
第6回：順位を求める関数、並べ替え			
第7回：条件を含む関数の使い方			
第8回：中間試験とまとめ			
第9回：関数の応用			
第10回：複数のシートの使い方			
第11回：グラフの作成と編集			
第12回：印刷方法と画面操作			
第13回：フィルタの使い方と応用			
第14回：ピボットテーブルの使い方と応用 クロス集計について			
第15回：授業内試験とまとめ			
テキスト			
授業中に適宜資料を配布する。			
参考書・参考資料等			
・Excelではじめるデータ分析 関数・グラフ・ピボットテーブルから分析ツールまで 出版社：FOM出版(富士通ラーニングメディア) (2021/11/16)			

・Excel データ集計・分析 [実践ビジネス入門講座]

出版社：SBクリエイティブ (2023/3/30)

学生に対する評価

授業内試験／Exam(s) (33%)、その他／Others (34%)、小テスト／Quiz (33%)

授業科目名： データ処理演習Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：五月女仁子 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>① Excelの分析ツールの使い方を修得する。</p> <p>② 簡単なデータの分析ができる。</p> <p>③ データの抽出ができる。</p> <p>④ データベースの概念とAccessの基本操作をマスターする。</p>			
授業の概要			
<p>データ処理演習ⅠではExcel操作とデータ処理の基礎を学習しました。これをふまえて、この講義ではデータ処理の応用に取り組みます。データ分析の方法、データの抽出や集計などを学ぶことよりデータの特徴をつかめるように指導します。更にデータベースの基礎を学ぶことにより、データの活用やデータの構造を学びます。</p>			
授業計画			
<p>第1回：ガイダンス、データ処理演習Ⅰの復習1</p> <p>第2回：データ処理演習Ⅰの復習2</p> <p>第3回：相関係数、回帰分析</p> <p>第4回：度数分布表とヒストグラム、箱ひげ図</p> <p>第5回：検定（カイ2乗検定、t検定）</p> <p>第6回：分析ツールの使い方</p> <p>第7回：中間試験とまとめ</p> <p>第8回：データベースとは Access入門</p> <p>第9回：Accessの基本</p> <p>第10回：クエリとは、クエリの使い方</p> <p>第11回：クエリの応用</p> <p>第12回：フォームの使い方</p> <p>第13回：レポートの使い方</p> <p>第14回：授業内試験とまとめ</p> <p>第15回：宛名ラベルの作成</p>			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			
・できる やさしく学ぶExcel統計入門—難しいことはパソコンにまかせて仕事で役立つデータ			

分析ができる本 羽山博、できるシリーズ編集部(著) impress(出版)

・ Access2019基礎セミナーテキスト 日経BP 日経BPマーケティング

学生に対する評価

授業内試験／Exam(s) (33%)、その他／Others (34%)、小テスト／Quiz (33%)

授業科目名： 情報技術基礎	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：石黒 友一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目(中学校及び高等学校 数学)		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・コンピュータ		
授業のテーマ及び到達目標 情報技術に関する基礎的な知識を修得することを目的とする。			
授業の概要 情報基礎理論及び情報を取り巻く諸問題の理解を通して、適切な情報活用の在り方を学ぶ。			
<p>授業計画</p> <p>第1回：情報基礎理論</p> <p>第2回：コンピュータ構成要素</p> <p>第3回：システム構成要素</p> <p>第4回：情報検索</p> <p>第5回：情報デザインと情報メディア</p> <p>第6回：情報リテラシー(1) (情報リテラシーが低いことで起こり得る問題)</p> <p>第7回：情報リテラシー(2) (情報リテラシーを身に付けるための具体的行動)</p> <p>第8回：ネットワークとインターネット</p> <p>第9回：情報モラル</p> <p>第10回：情報セキュリティ(1) (情報セキュリティの脅威)</p> <p>第11回：情報セキュリティ(2) (情報セキュリティ対策の具体)</p> <p>第12回：情報管理</p> <p>第13回：情報技術の活用(1) (教育・保育、医療、介護分野における具体的活用)</p> <p>第14回：情報技術の活用(2) (建築、農業、漁業、防災分野における具体的活用)</p> <p>第15回：学習内容の振り返り</p> <p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>「マンガ+図解で基礎がよくわかる 情報セキュリティの教科書」技術評論社、 左門至峰・厚焼サネ太著</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>授業中に適宜資料を配付する。</p>			
<p>学生に対する評価</p> <p>レポート (40%)、定期試験 (60%)</p>			

授業科目名： 数学科教育法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：石黒友一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(1) 中学校数学科学習指導要領の変遷、構成について、平成29年告示の学習指導要領と従来のもとの違いを説明することができる。</p> <p>(2) 中学校数学科の目標を理解し、指導内容に即して中学生が数学に興味関心をもち、数学的知識・技能を理解し、数学を活用できるようになる教材のあり方を知り、適切に指導に生かすことができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この授業では、中学校数学科を担当する教員として指導上の様々な問題を解決する力、及びコミュニケーションスキルを身に付ける。具体的には</p> <p>(1) 中学校数学科教育の全体像、目標、学習指導要領の成り立ち、及び教材研究を中心に中学校数学科の内容について理解を深め、教材を作成・工夫する。</p> <p>(2) 数、式、平面図形・空間図形、図形の証明、関数、事象の考察、データの活用等について、定義や問題の解法をわかりやすく伝える方法や技術を身に付ける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（授業の進め方、シラバスの概要等）</p> <p style="padding-left: 40px;">学生のレディネス調査</p> <p style="padding-left: 40px;">中学校数学教育の現状と課題</p> <p>第2回：中学校数学科学習指導要領の目標と内容</p> <p>第3回：中学校数学教育の歴史</p> <p>第4回：中学校数学におけるICTの活用、数学的活動</p> <p>第5回：中学校数学教材研究（1）</p> <p style="padding-left: 40px;">数と式（正の数と負の数、文字を用いた式、一元一次方程式、二元一次方程式）</p> <p>第6回：中学校数学教材研究（2）</p> <p style="padding-left: 40px;">数と式（正の数の平方根、多項式、式の展開、因数分解、二次方程式）</p> <p>第7回：中学校数学教材研究（3）図形（平面図形と空間図形）</p> <p>第8回：中学校数学教材研究（4）図形（合同、相似、円周角と中心角、三平方の定理）</p> <p>第9回：中学校数学教材研究（5）関数（比例と反比例、一次関数）</p> <p>第10回：中学校数学教材研究（6）関数（二次関数）</p> <p>第11回：中学校数学教材研究（7）データの活用（度数、ヒストグラム）</p> <p>第12回：中学校数学教材研究（8）データの活用（確率、標本調査）</p>			

第13回：全国学力・学習状況調査問題（中学校数学）の趣旨の理解と分析

第14回：第1回から第13回までのまとめと中学校数学教育の動向

第15回：授業内試験と振り返り

テキスト

『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 数学編』（日本文教出版）

文部科学省検定済 中学校数学 教科書

参考書・参考資料等

『中学校学習指導要領（平成29年告示）』（東山書房）

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 数学』（国立教育政策研究所）

学生に対する評価

授業内試験（40%）、小テスト（30%）、事後学修課題（30%）

授業科目名： 数学科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：石黒友一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(1) 様々な中学校数学科学習指導案や授業の実践例を読み、具体的な指導上の工夫について説明することができる。</p> <p>(2) 複数の中学校数学科の教科書を比較することによって、数学指導の様々な導入・展開の方法を示すことができる。</p> <p>(3) 学習指導要領及び教科書に基づいた模擬授業を行うことによって、中学校における数学科の授業を行うに当たっての基礎的知識・技能を身に付けることができる。</p> <p>(4) 学習指導要領に示されている教科・科目の目標を踏まえて、ICTなどを活用しながら適切な指導ができるよう、年間の指導計画や単元指導計画、1時間の学習指導案を作成できる。</p> <p>(5) 数学教員の役割を自覚し、教育への情熱を傾ける資質を獲得するよう努力できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この授業では、中学校数学科に関する基礎的な指導理論と評価の在り方を理解し、グループや個人で具体的な授業場面を想定した授業設計を行い、実践する方法を身に付ける。そのため本授業は、事前学修においてグループや個人単位による教材開発と学習指導案の作成したうえで、授業において模擬授業を行うという学生主体の反転授業の演習形式で行う。また、中学校数学科の教科書や参考書などを比較し、どのような導入・展開の方法があるかを調べ、望ましい授業の在り方を考察する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（授業の進め方、シラバスの概要等） 中学校における数学の授業の在り方</p> <p>第2回：中学校数学科に関する指導理論と評価</p> <p>第3回：中学校数学の学習指導案の構成</p> <p>第4回：中学校数学学習指導案の作成と模擬授業の進め方</p> <p>第5回：中学校数学教科書の構成と内容</p> <p>第6回：興味・関心を育てる中学校数学教材・教具、ICTの活用</p> <p>第7回：学習指導案に基づいた模擬授業（「数と式」グループで実施）</p> <p>第8回：学習指導案に基づいた模擬授業（「図形」グループで実施）</p> <p>第9回：学習指導案に基づいた模擬授業（「関数」グループで実施）</p> <p>第10回：学習指導案に基づいた模擬授業（「データの活用」グループで実施）</p> <p>第11回：学習指導案に基づいた模擬授業（「数と式」個人で実施）</p>			

- 第12回：学習指導案に基づいた模擬授業（「図形」個人で実施）  
第13回：学習指導案に基づいた模擬授業（「関数」個人で実施）  
第14回：学習指導案に基づいた模擬授業（「データの活用」個人で実施）  
第15回 模擬授業のまとめとその振り返り

テキスト

『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 数学編』（日本文教出版）  
文部科学省検定済 中学校数学 教科書

参考書・参考資料等

『中学校学習指導要領（平成29年告示）』（東山書房）  
『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 数学』（国立教育政策研究所）

学生に対する評価

振り返りレポート（40%）、事後学修課題（60%）

授業科目名： 数学科教育法Ⅲ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：石黒友一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(1) 高等学校数学科学習指導要領の変遷および構成を、我が国の小学校算数科、中学校数学科との関連から説明できる。</p> <p>(2) 高校生の多様化の現状を鑑み、高等学校数学科の内容について ICT の活用を含め数学教材を作成・工夫できる。</p> <p>(3) 高等学校数学科の本質と展望及び現行の学習指導要領の方向性を説明できる。</p> <p>(4) 高等学校学習指導要領数学科における単元及び発展内容について適切な方法で解き、初等数学から高等数学まで関連させ理解し説明できる。</p> <p>(5) 単元或いは授業における目標設定、指導法、評価方法について説明できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この授業では、高等学校数学科の歴史的展開、目標、内容構成、授業、現代の課題などについて、学習指導要領などにも言及しながら、数学科の基本的原理を概観し、実践上の諸課題を探究する。高等学校数学科教諭としての力量形成のため課題を解決する力及びコミュニケーション力を身に付ける。特に数学科の目標の考え方と典型的な教材の学習を通して、その教材の一般性やそこに込められている意味を探究する。内容は大きく次の2つである。</p> <p>(1) 数学教育の全体像、目標、学習指導要領の成り立ち及び、教材研究を中心に高等学校数学科の内容について理解を深め、教材を作成・工夫する。</p> <p>(2) 数、代数、初等幾何・解析幾何・ベクトル、関数、微分・積分、確率・統計等について、授業実践の方法や技術を身に付ける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（授業の進め方、シラバスの概要等）  学生のリディネス調査  高等学校における数学科教育の現状と課題</p> <p>第2回：高等学校学習指導要領 数学科の目標と内容</p> <p>第3回：高等学校における数学教育の歴史</p> <p>第4回：高等学校数学におけるICTの活用、数学的活動</p> <p>第5回：高等学校数学教材研究（1）  「数学Ⅰ」（数と式、図形と計量）</p> <p>第6回：高等学校数学教材研究（2）  「数学Ⅰ」（二次関数、データの分析）</p>			

第7回：高等学校数学教材研究（3）

「数学A」（図形の性質、場合の数と確率、数学と人間の活動）

第8回：高等学校数学教材研究（4）

「数学B」（数列、統計的な推測、数学と社会生活）

第9回：高等学校数学教材研究（5）

「数学C」（ベクトル、平面上の曲線と複素数平面、数学的な表現の工夫）

第10回：高等学校数学教材研究（6）

「数学II」（いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数）

第11回：高等学校数学教材研究（7）

「数学II」（三角関数、微分・積分の考え）

第12回：高等学校数学教材研究（8）

「数学III」（極限、微分法）

第13回：高等学校数学教材研究（9）

「数学III」（積分法）

第14回：第1回から第13回までのまとめと高等学校数学科教育の動向

第15回：授業内試験と振り返り

テキスト

『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 数学編』（日本文教出版）

文部科学省検定済 高等学校「数学I」「数学II」「数学III」「数学A」「数学B」「数学C」教科書

参考書・参考資料等

『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』（東山書房）

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 数学』（国立教育政策研究所）

学生に対する評価

授業内試験（40%）、小テスト（30%）、事後学修課題（30%）

授業科目名： 数学科教育法IV	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：石黒友一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 数学）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(1) 様々な高等学校数学科学習指導案や授業の実践例を読み、具体的な指導上の工夫について説明することができる。</p> <p>(2) 複数の高等学校数学科の教科書を比較することによって、数学指導の様々な導入・展開の方法を示すことができる。</p> <p>(3) 学習指導要領及び教科書に基づいた模擬授業を行うことによって、高等学校における数学科の授業を行うに当たっての基礎的知識・技能を身に付けることができる。</p> <p>(4) 学習指導要領に示されている教科・科目の目標を踏まえて、ICTなどを活用しながら適切な指導ができるよう、年間の指導計画や単元指導計画、1 単位時間の学習指導案を作成できる。</p> <p>(5) 数学科の教員の役割を自覚し、教育への情熱を傾ける資質を獲得するよう努力できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この授業では、高等学校数学科に関する基礎的な指導理論と評価の在り方を理解し、グループや個人で具体的な授業場面を想定した授業設計を行い、実践する方法を身に付ける。そのため本授業は、事前学修においてグループや個人単位による教材開発と学習指導案を作成したうえで、授業において模擬授業を行う、という学生主体の反転授業の演習形式で行う。また、高等学校の数学科の教科書や参考書などを比較し、どのような導入・展開の方法があるかを調べ、望ましい授業の在り方を考察する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（授業の進め方、シラバスの概要等） 高等学校における数学の授業の在り方</p> <p>第2回：高等学校数学科に関する指導理論と評価</p> <p>第3回：高等学校数学の学習指導案の構成</p> <p>第4回：高等学校数学学習指導案の作成と模擬授業の進め方</p> <p>第5回：高等学校数学教科書の構成と内容</p> <p>第6回：興味・関心を育てる高等学校数学教材・教具、ICTの活用</p> <p>第7回：学習指導案に基づいた模擬授業（「数学I」グループで実施）</p> <p>第8回：学習指導案に基づいた模擬授業（「数学A」グループで実施）</p> <p>第9回：学習指導案に基づいた模擬授業（「数学B」グループで実施）</p> <p>第10回：学習指導案に基づいた模擬授業（「数学C」グループで実施）</p>			

第11回：学習指導案に基づいた模擬授業（「数学Ⅱ」グループで実施）

第12回：学習指導案に基づいた模擬授業（「数学Ⅲ」グループで実施）

第13回：学習指導案に基づいた模擬授業（「数学Ⅰ」個人で実施）

第14回：学習指導案に基づいた模擬授業（「数学A」個人で実施）

第15回 模擬授業のまとめとその振り返り

テキスト

『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 数学編』（日本文教出版）

文部科学省検定済教科書「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「数学Ⅲ」「数学A」「数学B」「数学C」

参考書・参考資料等

『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』（東山書房）

『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校 数学』（国立教育政策研究所）

学生に対する評価

振り返りレポート（40%）、事後学修課題（60%）

授業科目名： スポーツ方法実習 (陸上競技)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：高田彬成 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育実技		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>(1) 中学校・高等学校保健体育科教員免許の取得を想定し、陸上競技の基本となる理論・技術を習得し、実践することができる。</p> <p>(2) 安全管理（事故防止、危険回避）も含めた指導方法及び、発達・学習段階に応じたトレーニングの方法を理解し実施することができる。</p> <p>(3) 上記（1）・（2）の内容理解の上に立って、指導上の留意点や配慮事項を考慮し、技術指導のための模範を示すことができる。</p>			
授業の概要			
<p>中学校・高等学校の保健体育科教員に必要な基本的な知識について学ぶ。学習指導要領で取り扱う陸上競技（短距離走、リレー、ハードル走、長距離走、走り幅跳び、走り高跳び、三段跳び、砲丸投げ、やり投げ）の種目を取り上げ、学校教育及び地域スポーツ活動の指導に必要な基礎理論と基礎技術、安全指導、トレーニング方法を理解するとともに実践する。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション（授業の進め方、シラバスの概要等）、学生のレディネス調査</p> <p>予習：中・高保健体育科教員を目指す自覚と初志貫徹の気持ちを高めておくこと</p> <p>復習：授業で学んだことをとおして、本講義で学ぶ内容の全体像を整理するとともに、教職課程を履修する姿勢を再確認すること</p>			
<p>第2回：短距離走の指導（100m）</p> <p>予習：短距離走（100m）の指導と評価の在り方について、自分なりの考えをまとめておくこと</p> <p>復習：授業で学んだことをとおして、短距離走（100m）の指導と評価についての留意点を整理すること</p>			
<p>第3回：短距離走の指導（200m、400m）</p> <p>予習：短距離走（200m、400m）の指導と評価の在り方について、自分なりの考えをまとめておくこと</p> <p>復習：授業で学んだことをとおして、短距離走（200m、400m）の指導と評価についての留意点を整理すること</p>			
<p>第4回：リレーの指導</p>			

予習：リレーの指導と評価の在り方について、自分なりの考えをまとめておくこと

復習：授業で学んだことをとおして、リレーの指導と評価についての留意点を整理すること

第5回：ハードル走の指導（100m・110mハードル）

予習：ハードル走（100m・110mハードル）の指導と評価の在り方について、自分なりの考えをまとめておくこと

復習：授業で学んだことをとおして、ハードル走（100m・110mハードル）の指導と評価についての留意点を整理すること

第6回：ハードル走の指導（400mハードル）

予習：ハードル走（400mハードル）の指導と評価の在り方について、自分なりの考えをまとめておくこと

復習：授業で学んだことをとおして、ハードル走（400mハードル）の指導と評価についての留意点を整理すること

第7回：長距離走の指導（ペース走）

予習：長距離走（ペース走）の指導と評価の在り方について、自分なりの考えをまとめておくこと

復習：授業で学んだことをとおして、長距離走（ペース走）の指導と評価についての留意点を整理すること

第8回：長距離走の指導（インターバル走）

予習：長距離走（インターバル走）の指導と評価の在り方について、自分なりの考えをまとめておくこと

復習：授業で学んだことをとおして、長距離走（インターバル走）の指導と評価についての留意点を整理すること

第9回：走り幅跳びの指導

予習：走り幅跳びの指導と評価の在り方について、自分なりの考えをまとめておくこと

復習：授業で学んだことをとおして、走り幅跳びの指導と評価についての留意点を整理すること

第10回：走り高跳びの指導

予習：走り高跳びの指導と評価の在り方について、自分なりの考えをまとめておくこと

復習：授業で学んだことをとおして、走り高跳びの指導と評価についての留意点を整理すること

第11回：三段跳びの指導

予習：三段跳びの指導と評価の在り方について、自分なりの考えをまとめておくこと。

復習：授業で学んだことをとおして、三段跳びの指導と評価についての留意点を整理すること

第12回：砲丸投げの指導

予習：砲丸投げの指導と評価の在り方について、自分なりの考えをまとめておくこと

<p>復習：授業で学んだことをとおして、砲丸投げの指導と評価についての留意点を整理すること</p> <p>第13回：やり投げの指導</p> <p>予習：やり投げの指導と評価の在り方について、自分なりの考えをまとめておくこと</p> <p>復習：授業で学んだことをとおして、やり投げの指導と評価についての留意点を整理すること</p> <p>第14回：陸上競技における指導と評価の考え方と工夫（指導と評価の一体化）</p> <p>予習：陸上競技の観点別評価の仕方について、具体例を設定し試行しておくこと</p> <p>復習：授業で学んだことをとおして、陸上競技の観点別評価についての留意点を整理すること</p> <p>第15回：まとめと授業内試験</p> <p>予習：陸上競技の指導内容の全体について、自分なりにまとめておくこと</p> <p>復習：授業で学んだことをとおして、陸上競技の指導内容を整理すること</p>
<p>テキスト</p> <p>『基礎から身につく陸上競技（初級編）』（大修館書店）</p> <p>『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編』文部科学省（東山書房）</p> <p>『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編』文部科学省（東山書房）</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>なし</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>授業内試験／Exam(s) (30%)、実習／Practical Training (20%)、リアクションペーパー／Reaction Paper (50%)</p>

授業科目名： スポーツ方法実習 (体操)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：細川史裕 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健 体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育実技		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マット運動：伸膝前転、側転、後転倒立、前方倒立回転</li> <li>・ とび箱運動：閉脚跳び、屈身跳び、前方倒立回転跳び</li> <li>・ 鉄棒運動：足掛け上がり、前方支持回転、後方支持回転、けあがり</li> <li>・ 平均台運動：片足水平バランス、前後開脚跳び、片足ターン</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>器械運動では、固定された器械器具を使って日常生活にない運動を行う。それによって筋力を強くし、柔軟性や敏捷性を養うことを目標とする。また運動を成功させていく段階で、今まで経験したことのない運動に挑戦する気持ちや、目標達成の喜びを感じることが出来る。また指導法や幫助について学習する。実習項目は、マット運動・とび箱運動・鉄棒運動・平均台運動である。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業ガイダンス</p> <p>第2回：マット運動1：マット遊び、体づくり：接転系技の習得（前転・開脚前転・後転・開脚後転）</p> <p>第3回：マット運動2：体の前屈によって回転を得る系統技の段階指導および実践（伸膝前転）、後転倒立</p> <p>第4回：マット運動3：側転</p> <p>第5回：マット運動4：前方倒立回転</p> <p>第6回：平均台1：片足水平バランス、前後開脚跳び</p> <p>第7回：平均台2：片足ターン</p> <p>第8回：跳び箱運動1：切り返し系の技への導入</p> <p>第9回：跳び箱運動2：開脚とびおよび抱え込みとび</p> <p>第10回：跳び箱運動3：屈身とび</p> <p>第11回：鉄棒1：鉄棒遊びフトン干し、逆上がり、後方支持回転、前方支持回転導入</p> <p>第12回：鉄棒2：前方支持回転</p> <p>第13回：鉄棒3：後方支持回転</p> <p>第14回：鉄棒4：脚掛けあがり・けあがり</p> <p>第15回：課題テスト・まとめ</p>			

テキスト

器械運動の授業作り《大修館書店》

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

実技／Skills Practice (70%) 、その他／Others (30%)

授業科目名： スポーツ方法実習 (水泳)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：蛭間栄介 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育実技		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>中学校・高等学校の保健体育教員あるいはスポーツクラブの水泳インストラクターとして水泳指導を行う場合の安全管理の重要性を理解したうえで、4泳法の基本的指導や指導アシスタントができる。水中運動は、子供から高齢者までが安全に行える運動であり、それぞれの対象者に応じた論理的・多面的思考を用いて、指導できる。また、グループ授業では、学生同士による泳法チェックと指導により、コミュニケーション力を身に付ける。</p>			
授業の概要			
<p>水中での運動を体験し、個々の実技能力を向上する。また、水の特性を理解し、水中運動の基本的理論と指導法を習得する。さらに、水中運動指導における安全管理についても学ぶ。水泳の基本的泳法である4泳法（クロール、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ）の泳力の向上及び技術の習得をはかる。さらに、水中運動（歩行、アクアビクス）の体験と基本的理論を習得する。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーションと水泳の基礎知識（水の特性と水泳における力学的影響）について理解する</p> <p>第2回：水泳に必要な準備体操を理解する。水慣れと水の特性を水中で学習し、説明できる</p> <p>第3回：ウォーターエクササイズ：水中歩行やアクアビクスについて学習し、指導できる</p> <p>第4回：クロールの指導法Ⅰ：クロールのバタ足、ストローク、呼吸法を学習し、指導できる</p> <p>第5回：クロールの指導法Ⅱ：クロールのコンビネーション、ターンを学習し、指導できる</p> <p>第6回：背泳ぎの指導法Ⅰ：背浮および背泳ぎのキックを学習し、指導できる</p> <p>第7回：背泳ぎの指導法Ⅱ：背泳ぎのストローク、コンビネーション学習し、指導できる</p> <p>第8回：平泳ぎの指導法Ⅰ：平泳ぎのキック、ストロークを学習し、指導できる</p> <p>第9回：平泳ぎの指導法Ⅱ：平泳ぎコンビネーション、スタート、ターンを学習し、指導できる</p> <p>第10回：バタフライの指導法Ⅰ：バタフライのキック、ストロークを学習し、指導できる</p> <p>第11回：バタフライの指導法Ⅱ：バタフライの呼吸法、コンビネーションを学習し、指導できる</p> <p>第12回：バタフライの指導法Ⅲ：バタフライのスタート、ターンを学習し、指導できる</p> <p>第13回：個人メドレーに必要なターン技術を学習し、指導できる。また、実技テストに向けた、総合練習（スタートやターンなど）を各自の泳力レベルに応じておこなう</p> <p>第14回：試合の運営と競泳のウォーミングアップについて理解し、タイムトライアルをおこなう</p>			

第15回：水泳におけるスポーツ障害と怪我について学修する。また、水泳中における事故と安全管理、および施設管理についても学習する

テキスト

なし

参考書・参考資料等

『水泳指導教本』 財団法人日本水泳連盟 編 大修館書店

『アクアエクササイズ指導教本』 深代泰子、尾陰由美子 監修 (社) 日本エアロビックフィットネス協会

『中学校指導要領解説保健体育編』 (平成29年告示)

『高等学校指導要領解説保健体育編・体育編』 (平成30年告示)

『中学校および高等学校体育実技』

学生に対する評価

レポート/Report(s) (20%)、実技/Skills Practice (30%)、その他/Others (50%)

授業科目名： スポーツ方法実習 (柔道)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：穴井さやか 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 柔道の基本技術や基本動作、礼儀作法を正しく身につけ実践することができる。</li> <li>・ 柔道の専門用語を理解する。</li> <li>・ 柔道の基本的技術の要点を説明することができる。</li> </ul>			
授業の概要			
<p>日本の伝統文化である武道は、平成24年度より保健体育科で「武道必修化」となり全国の公立中学校でも実施されている。また、平成26年度の調査報告では、柔道を選択している学校は全国で66%に及ぶともいわれており、教員採用試験もあわせて、教員を目指す学生は、基本動作や技術を示範できることが必要となる。</p> <p>本授業では、経験者、未経験者問わず、伝統文化である柔道の歴史を知り、基本となる動作や受身、投げ技、固め技の習得を重点において学習する。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス（授業の進め方、約束事項の確認、柔道着等用具の確認）			
第2回：基本動作①（柔道衣の着方、帯の結び方、礼法、姿勢、足さばき）			
第3回：基本動作②（受身：後受身、横受身）			
第4回：基本動作③（受身：前回り受身）			
第5回：基本動作④（受身：前回り受身の応用）			
第6回：第2回～第5回の復習、実技中間テスト			
第7回：技の仕組み、原理原則について学ぶ			
第8回：投げ技①（大内刈り）			
第9回：投げ技②（支え釣り込み足）			
第10回：投げ技③（払腰）			
第11回：投げ技④（背負い投げ）			
第12回：固め技①（袈裟固、崩れ袈裟固～逃げ方）			
第13回：固め技②（横四方固、上四方固～逃げ方）			
第14回：第8回～第13回の復習、確認とグループ学習			
第15回：授業内試験（実技・筆記）、授業のまとめと解説			

テキスト

なし

参考書・参考資料等

柔道の教科書/木村昌彦 著/つちや書店/2011

学生に対する評価

授業内試験／Exam(s) (30%)、実技／Skills Practice (40%)、発言、応答／Class Participation (30%)

授業科目名： スポーツ方法実習 (剣道)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：中澤雄飛 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健 体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育実技		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の学校体育の特徴をとらえ、その上で剣道を学ぶ意義を説明することができる。</li> <li>・体育・スポーツ・健康科学の視点から、剣道の基本技術や礼儀作法を正しく実践することができる。</li> <li>・自らの動きを把握し、修正・変化することができる。</li> <li>・他者と協力して技能の習得・発展に取り組むことができる。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業は主に初心者を対象とし、剣道の基本的な技術について説明していきます。具体的には、剣道の基本的技術を習得し、対人技能の楽しさを味わいながら、実践的に日本文化について理解を深めていきます。その上で、初心者への指導方法について解説を行います。なお、本授業は実習科目であるため、実技を中心に展開します。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業の進め方や評価方法、用具の準備等の説明</p> <p>第2回：礼法、基本動作</p> <p>第3回：礼法、基本動作、素振り、防具の着け方</p> <p>第4回：防具の着け方、打たせ方、基本打突</p> <p>第5回：素振り、基本打突、連続技</p> <p>第6回：打突と間合、残心</p> <p>第7回：鑢ぜり合い、引き技</p> <p>第8回：体当たりとその受け方</p> <p>第9回：切り返しの打ち方とその受け方</p> <p>第10回：しかけ技と応じ技</p> <p>第11回：打ち込み稽古</p> <p>第12回：約束稽古</p> <p>第13回：掛かり稽古</p> <p>第14回：互角稽古</p> <p>第15回：授業のまとめと授業内試験</p>			

テキスト

なし

参考書・参考資料等

『中学校学習指導要領解説 保健体育編』文部科学省

『高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編』文部科学省

学生に対する評価

授業内試験／Exam(s) (40%)、実技／Skills Practice (60%)

授業科目名： スポーツ方法実習 (ダンス・体づくり 運動)	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：多田五月 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健 体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育実技		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>(1) リズミカルな音楽にのって心が弾むような運動を通し、仲間と関わり合って踊ることができる。</p> <p>(2) 感じたままに自由に即興表現することができる。</p> <p>(3) 即興的な表現から仲間と協力して作品づくりにつなげることができる。</p>			
授業の概要			
<p>本授業の到達目標は、(1) リズミカルな音楽にのって心が弾むような運動を通し、仲間と関わり合って踊ることができる、(2) 感じたままに自由に即興表現することができる、(3) 即興的な表現から仲間と協力して作品づくりにつなげることができる、の3つを主軸にダンス・体づくり運動の指導方法について学習する。授業の進め方は、担当教員が中学・高校の授業を想定して作成した指導案に基づき模擬授業を行い、その指導案を確認しながらリフレクションを行う。実技試験では、教員採用試験対策としてソロダンスの発表を行う。課題曲や資料はダウンロードができるようLMSを活用する。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス：授業の概要説明と進め方、成績評価の説明、授業時の服装等について			
第2回：現代的なリズムのダンス① 「みんなのウォームアップを創ろう！」			
第3回：現代的なリズムのダンス② 「ヒップホップダンス」			
第4回：現代的なリズムのダンス③ 「ダンスムーブメント」			
第5回：創作ダンス① 「スポーツ名場面」			
第6回：創作ダンス② 「新聞紙を使って」			
第7回：創作ダンス③ 運動課題「走る—止まる」			
第8回：創作ダンス④ 運動課題「伸びる—縮む」「走る—跳ぶ—転がる」			
第9回：創作ダンス⑤ 群・構成の課題「集まる—離れる」			
第10回：創作ダンス⑥ 見立ての世界「ものを使ってI」グループ作品創り			
第11回：創作ダンス⑦ 見立ての世界「ものを使ってII」グループ作品発表会			
第12回：教員採用試験 ダンス試験対策① 「MY DANCE (ソロ)」即興表現、イメージ出し			
第13回：教員採用試験 ダンス試験対策② 「MY DANCE (ソロ)」作品創り、踊りこみ			

第14回：教員採用試験 ダンス試験対策③ 「MY DANCE (ソロ)」パフォーマンス発表会  
第15回：フォークダンス、日本の民謡、まとめ

テキスト

なし

参考書・参考資料等

『改訂版 明日からトライ! ダンスの授業 動画付き』 (2021) 全国ダンス・表現運動授業研究会編著 大修館書店発行

『女子体育』公益社団法人 日本女子体育連盟発行

その他、適宜印刷資料を配付する。参考DVDなどを鑑賞する。

学生に対する評価

実技/Skills Practice (30%)、グループワーク/Group Work (40%)、リアクションペーパー/Reaction Paper (20%)、発言、応答/Class Participation (10%)

授業科目名： スポーツ方法実習 (バレーボール)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：浪越一喜 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健 体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>①バレーボールの特性について説明できる。</p> <p>②実技指導に必要な基本的技術を身につける。</p> <p>③危険な環境及び行為を修正することができる。</p> <p>④組織的な動きを考えながらゲームを実践することができる。</p>			
授業の概要			
<p>小学校、中学校及び高等学校を通じて体育科、保健体育科においては、心と体を一体としてとらえ「生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現すること」を重視しています。球技、ネット型スポーツとしてのバレーボールの特性を理解し、基本的な技能の修得を目指します。また、グループワークを通して基本的な技能の指導方法やゲームを進めていく上で必要となる基本的な戦術等、効果的な練習方法について学修します。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション（バレーボールの特性・構造の理解）			
第2回：基本技術の修得① オーバーハンドパス、アンダーハンドパス			
第3回：基本技術の修得② 連携を意識したオーバーハンドパス、アンダーハンドパス（グループ編成）			
第4回：基本技術の修得③ サービスと簡易サーブからのレシーブ			
第5回：基本技術の修得④ スパイク動作のステップと三段攻撃を意識したスパイク			
第6回：チームづくり（連携・役割）を考える			
第7回：ルールの理解と課題発見のための試しのゲーム			
第8回：基本技術の修得⑤ ブロックについて学ぶ			
第9回：応用技能の修得① レセプション（サーブレシーブ）フォーメーション			
第10回：応用技能の修得② アタックフォーメーション及びブロックフォーメーション			
第11回：実践を活用した審判法を学ぶ			
第12回：ゲームを通して、グループの課題を抽出する			
第13回：課題に応じた練習方法をグループ内で検討する。			
第14回：自主的なゲーム（授業）の運営を考える			
第15回：総括（振り返り）			

テキスト

なし

参考書・参考資料等

- ・中学校学習指導要領解説 保健体育編 文部科学省
- ・高等学校学習指導要領解説 保健体育編 文部科学省
- ・コーチングバレーボール 基礎編 公益財団法人日本バレーボール協会編 大修館書店

学生に対する評価

実技／Skills Practice (60%)、レポート／Report(s) (10%)、グループワーク／Group Work (30%)

授業科目名： スポーツ方法実習 (バレーボール)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：篠原政一 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 *バレーボールの特性について説明できる。 *基本技能を習得し、実技指導に必要な模範を示すことができる。 *指導に必要な安全管理（リスクマネジメント）について説明できる。 *実技指導者（教員）としての資質向上を図るための実践力を有している。			
授業の概要 小学校、中学校及び高等学校を通じて体育科、保健体育科においては、心と体を一体としてとらえ「生涯にわたって運動に親しみ、健康を保持増進し、一人一人に応じた体力の向上を図ることで、豊かなスポーツライフを実現すること」を目指している。 このことを踏まえ ○球技、ネット型スポーツとしてのバレーボールの特性を理解し、基本的な技能の習得及び指導方法、ゲームを進めていく上で必要となる基本的な戦術等について実践的に学習する。 ○教育実習に向けての模擬授業や学習指導案作り及び学習評価について学習する。 ○ICT を活用した実技指導について学び、効果的な練習方法について学習する。			
授業計画 第1回：ガイダンス（講義内容、進め方、評価等）、球技の特性、バレーボールの歴史・特性 課題：体づくり運動、準備運動、集団行動について調べること 第2回：基本技術の習得① 基本技能（パス、サーブ、レシーブ）の方法について *指導案の作成について確認する *現在の個人技術について自己理解する 第3回：基本技術の習得② スパイク、ブロックの基本技能、段階的指導について *ルールを理解と審判法について確認する 第4回：基本技術の習得③ レセプション、レセプションアタック、ブロックの方法について *ICTを活用した練習方法について確認すること 第5回：基本技術の習得④ 連携プレーの習得、三段攻撃（特にトス）の方法について *グループ学習や段階的指導の進め方について学ぶ 第6回：技能の習得、グループを活用した指導法について （パス、トス、スパイク、レセプション、フォーメーション） 第7回：技能の習得、簡易ゲーム① グループ学習やゲームを活用した練習方法について			

<p>第8回：技能の習得、簡易ゲーム② 段階的指導法の実践、ルールを工夫したパスゲームについて</p> <p>第9回：技能の習得、簡易ゲーム③ 段階的指導法の実践、三段攻撃を活用したパスゲームについて</p> <p>第10回：技能の習得、簡易ゲーム④ 段階的指導法の実践、三段攻撃を活用したミニゲームについて</p> <p>第11回：マイクロ模擬授業を通じた技能の習得① 基本技能・ミニゲームについて  課題：指導案の作成並びにマイクロ模擬授業実施後の評価表について記入すること</p> <p>第12回：マイクロ模擬授業を通じた技能の習得② 連携技術・ミニゲームについて  課題：指導案の作成並びにマイクロ模擬授業実施後の評価表について記入すること</p> <p>第13回：マイクロ模擬授業を通じた技能の習得③ 集団技能・ミニゲームについて  課題：指導案の作成並びにマイクロ模擬授業実施後の評価表について記入すること</p> <p>第14回：マイクロ模擬授業を通じた技能の習得④ リフレクション  *実技試験、評価方法について学ぶ</p> <p>第15回：まとめ 技能の習得、指導法についての総括</p>
<p>テキスト</p> <p>必要に応じて資料を配布する。</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>文部科学省 中学校学習指導要領解説 保健体育編 東山書房</p> <p>文部科学省 高等学校学習指導要領解説 保健体育・体育編 東山書房</p> <p>Active Sports 大修館</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>実技/Skills Practice (40%)、その他/Others (30%)、レポート/Report(s) (30%)</p>

授業科目名： スポーツ方法実習 (バスケットボール)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：島崎直樹 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健 体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 バスケットボールの基本的動作を習得できる。 プレイ時のコミュニケーションがとれる。 まわりの選手のプレイに対して声かけなどの反応ができる。			
授業の概要 バスケットボールにおける様々な可能性を考え、プレイの面で起きうることや広範囲にわたる指導を念頭において取り組む。 教職課程における、バスケットボールの技術体得を主とする。中学生や高校生を対象にシュート、ドリブル、パスなどの基本動作を理解し、尚かつ合理的に実践することができるように授業を行う。 また、ルールについての解釈や、審判としての考え方、等も学習する。 尚、教育実習に向けての模擬授業や指導案作りについても学習する。			
授業計画 第1回：バスケットボールの特徴や他のスポーツとの違いなどを学習する 第2回：バスケットボールの歴史を学習する 第3回：バスケットボールのルールの変遷、戦術の歴史的背景を学習する 第4回：バスケットボールの現在のルールを理解する 第5回：バスケットボールの技術（総論） 第6回：バスケットボールの攻防について理解する 第7回：バスケットボールの技術（シュートを学ぶ） 第8回：バスケットボールの技術（ドリブルを実践する） 第9回：バスケットボールの技術（様々なパスを展開する） 第10回：戦術論・オフENSE・カットプレイ・スクリーンプレイを実践しグループで討議する 第11回：戦術論・ディフェンス・マンツーマン・ゾーン・マッチアップについて実践しグループで討議する。 第12回：試合への導入 第13回：バスケットボールの試合運営の実際を学ぶ。 第14回：試合での反省、考察をディスカッションする。			

**第15回：総括**

## テキスト

「バスケットボール指導教本」改訂版上巻、日本バスケットボール協会編、大修館書店、2014年

## 参考書・参考資料等

「バスケットボールIQ練習法」鈴木良和、株式会社マイナビ、2012年

## 学生に対する評価

ディベート／Debate(s) (20%)、発言、応答／Class Participation (40%)、実習／Practical Training (40%)

授業科目名： スポーツ方法実習 (ベースボール)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：成家篤史 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健 体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ベースボール型スポーツの特性およびルールを理解し、説明することができる。</li> <li>・ 基本技能を習得し、実技指導に最低限必要な模範を示すことができる。</li> <li>・ 活動に必要な安全について、配慮することができる。</li> <li>・ ベースボール型スポーツをより楽しむための工夫・改善ができる。</li> </ul>			
授業の概要			
<p>小学校、中学校及び高等学校を通じて体育科、保健体育科においては、「生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現すること」が目標の一つとなっています。本授業では、ボール運動・球技のベースボール型スポーツとしてベースボールの特性を理解し、基本的な技能の習得を目指します。また、グループワークや実践を通して基本的な技能の指導方法やゲームを進めていくうえで必要となる基本的な戦術等について実践的に学習します。加えて、複数のベースボール型スポーツを体験するとともに、効果的な練習方法についても学習します。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：ベースボール型スポーツの特性と歴史的変遷、基本的なルールの理解			
第3回：基本技術の習得①打撃 簡易化されたゲーム①			
第4回：基本技術の習得②守備 簡易化されたゲーム②			
第5回：基本技術の習得③走塁 簡易化されたゲーム③			
第6回：連係プレーの習得①内野守備 簡易化されたゲーム④			
第7回：連係プレーの習得②投手と内野守備 簡易化されたゲーム⑤			
第8回：連係プレーの習得③外野と内野 ゲーム① 実践を通したルールの工夫・改善			
第9回：連係プレーの習得④捕手と内野 ゲーム② 実践を通したルールの工夫・改善			
第10回：指導法① ゲーム③ 実践を通した役割（内野のポジション）とフォーメーションの理解と改善			
第11回：指導法② ゲーム④ 実践を通した役割（外野のポジション）とフォーメーションの理解と改善			
第12回：指導法③ ゲーム⑤ リーグ戦等、ゲームの運営とその実践（自主運営の方法理解）			
第13回：指導法④ ゲーム⑥ リーグ戦等、ゲームの運営とその実践（自主運営のカイゼンの視点）			
第14回：指導法⑤ ゲーム⑦ リーグ戦等、ゲームの運営とその実践（持続可能な自主運営の理解）			

第15回：総括 レポート提出とその内容の振り返り

テキスト

『中学校学習指導要領解説 保健体育編』（文部科学省）

『高等学校学習指導要領解説 保健体育編・体育編』（文部科学省）

参考書・参考資料等

授業中に適宜、指示を出す

学生に対する評価

ベースボール型スポーツの基本技能（実技試験）（40%）、活動・練習内容の提案と考察（毎時間）（40%）、総括レポート（20%）

授業科目名： スポーツ方法実習 (レクリエーション)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：大橋信行 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健 体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・ 体育実技		
授業のテーマ及び到達目標 「スポーツ方法実習（レクリエーション）」では、自らのコミュニケーション能力を高めるためのホスピタリティトレーニングや、人と人をつなげるためのコミュニケーションワークを学習すると共に、人々の交流を促進させるためのレクリエーション活動の知識や技術を習得し、地域での親子のふれ合い、学校内でのレクリエーション事業等を目的としたレクリエーション事業を、積極的に支援・指導・企画ができる能力や態度を育成することを目標とする。			
授業の概要 レクリエーション支援をするための基礎的な能力であるアイスブレイキングやホスピタリティ・グループワークトレーニングについて実践的に理解し、また子ども同士や親子・家族で出来るあそびやゲーム、レクリエーション・スポーツなどを理解する。			
授業計画 第1回：授業ガイダンス（資格取得のためのガイダンス）（レクリエーション支援の方法） 第2回：コミュニケーション・ワーク1（協力ゲーム）（レクリエーション活動の習得） 第3回：コミュニケーション・ワーク2（運動ゲーム・トランプ）（レクリエーション活動の習得） 第4回：コミュニケーション・ワーク3（チーム対抗ゲーム）（レクリエーション活動の習得） 第5回：レクリエーション・スポーツ1（チャレンジ・ザ・ゲームの実技（ロープ、スティック）） 第6回：レクリエーション・スポーツ2（チャレンジ・ザ・ゲームの実技（ネット、ボール、ゴム） （レクリエーション活動の習得） 第7回：イニシアティブゲーム1「日本列島」他（レクリエーション活動の習得） 第8回：イニシアティブゲーム2「ラインナップ」他（レクリエーション活動の習得） 第9回：イニシアティブゲーム3「エレクトリックフェンス」他（レクリエーション活動の習得） 第10回：レクリエーション・スポーツ3（レクリエーション・スポーツ（フライングディスク）） （レクリエーション活動の習得） 第11回：レクリエーション・スポーツ4（レクリエーション・スポーツ（キンボールスポーツ）） （レクリエーション活動の習得） 第12回：レクリエーション・スポーツ5（レクリエーション・スポーツ（スラックライン）） （レクリエーション活動の習得） 第13回：レクリエーション支援実習1（レクリエーション支援の実施）			

第14回：レクリエーション支援実習2（レクリエーション支援の実施）

第15回：レクリエーション実習の振り返りとまとめ（レクリエーション支援の方法）

テキスト

なし

参考書・参考資料等

『楽しさをおとした心の元気づくり』 公益財団法人日本レクリエーション協会、2017年

『レクリエーション支援の基礎』 公益財団法人日本レクリエーション協会、2008年

『やさしいレクリエーション実践』 公益財団法人日本レクリエーション協会、2005年

学生に対する評価

実技／Skills Practice（20%）、その他／Others（20%）、レポート／Report(s)（30%）、発言、応答／Class Participation（30%）

授業科目名： 体育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：中澤雄飛 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>本授業では、学校教育において「保健体育科という教科の役割は何か」というテーマの下、先人たちの保健体育科に関するこれまでの考え方を学んでいく。併せて、保健体育科の考え方の変遷をたどりつつ、社会の変化と保健体育科の役割を学び、現代社会における保健体育科及びスポーツの意義について考察する。</p> <p>本授業では、以下に掲げる3つの目標ができるようになることを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本における保健体育科の社会的位置付けについて、説明できるようになる。</li> <li>・科学としての体育の範囲と研究方法の特性について、説明できるようになる。</li> <li>・体育及びスポーツの現状に対して、自ら問いを立て、改善策を提示できるようになる。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>体育原理という科目は従来、「体育とはどのような学問か」という学問の入口ないしは道標的役割を担い、主に原理論を伝える科目であった。その後、海外の研究方法に対応する形で、主たる研究方法である哲学を援用し、体育・スポーツ哲学を中心とした科目に発展したという経緯がある。したがって、本授業においても、まずは現在の体育・スポーツ・健康科学の全体を見据えた原理論を説明する。その後、体育・スポーツ・健康科学に対するこれまでの考え方を踏まえた上で、現在の体育・スポーツに対する様々な考え方（体育・スポーツ哲学の知見）を取り上げ、解説をしていく。以上の活動を通して、最終的には自ら体育・スポーツの現状について問いを立て、それに対峙する考え方を構築することを目指す。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（授業の運営方法の説明）、体育原理という科目の特性に関する説明 授業の運営方法や評価方法に関する説明、体育原理で学ぶ内容と意義について説明する。</p> <p>第2回：体育学のはじまりと体育原理の役割 日本における体育学のはじまりと共に、体育原理のはじまりについて解説する。</p> <p>第3回：体育の定義とスポーツの定義 体育とスポーツの違いと類似点について、それぞれの考え方の系譜から学ぶ。</p> <p>第4回：体育教師の特性と役割 体育教師という存在の特性と社会的役割について、特に中学・高校を射程として学ぶ。</p> <p>第5回：身体教育という考え方</p>			

体育は「身体教育」という言葉に由来しているため、身体在り様について説明する。

第6回：教育学の思想と体育の関係

教育思想や教育哲学者から見た身体や体育の意義について、説明する。

第7回：日本における学校体育の変遷

日本の学校教育に体育が導入された経緯と、今日までの学校体育の役割について説明する。

第8回：体育が対象とする身体を考え方

教育の対象として身体を捉え、学校体育の意義や可能性について考察する。

第9回：日本の教養教育と体育の関係

人間の身体の可能性を踏まえて、学校体育やスポーツ教育の現在の意義について考察する。

第10回：遊びと体育の関係

スポーツの淵源である遊びと体育の関係について説明し、スポーツ文化について考察する。

第11回：運動学習と体育の関係

運動技能の学習過程に関する議論を踏まえ、体育授業の在り方について考察する。

第12回：スポーツ教育の視点から考える体育

体育の教材として用いられているスポーツについて説明し、学校体育の在り方を考察する。

第13回：身体文化教育の視点から考える体育

人間の身体を社会的・文化的に捉え、その延長として武道の意義を考察する。

第14回：表現運動と体育の関係

人間の身体表現について説明し、その延長としてダンス等の表現活動の意義を考察する。

第15回：授業のまとめと授業内試験

体育原理及び体育・スポーツ哲学的視座からこれからの体育を検討する。また、現在の体育・スポーツの現象に自ら問いを立て、論理的に対策を提案する。

テキスト

高橋徹編著『体育原理』株式会社みらい、2024年

参考書・参考資料等

日本体育・スポーツ・健康学会体育哲学専門領域編『体育の哲学』不昧堂出版、2024年

友添秀則・岡出美則編著『教養としての体育原理 新版』大修館書店、2016年

阿部悟郎『体育哲学—プロトレプティコス』不昧堂出版、2018年

学生に対する評価

毎回の授業時に提出する課題及びリアクションペーパー（30%）、学期の中間に課すレポート（30%）、授業内試験（40%）

授業科目名： スポーツ心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：成家篤史 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ心理学の内容を理解し、説明することができる。</li> <li>・スポーツ心理学の基本的な技能を習得し、運用することができる。</li> </ul>			
授業の概要			
<p>現代のスポーツにおけるスポーツ心理学の重要性を理解し、最新のスポーツ心理学の科学的な知見を基にした効果的な運用について学習します。スポーツ心理学の学問範囲であるアスリートへのメンタルトレーニングは近年、注目度が増してきていますが、その適用対象はオリンピックなどのトップ選手に留まらず、グラスツールであるジュニア期の選手に至るまで、必要だと考えられます。全てのスポーツに関わる選手がよりよいパフォーマンスを発揮したり、スポーツと関わったりするためのスポーツ心理学に関する知見を高めることは、よりスポーツを充実したものにつながるため、これを学ぶ意義や価値は高いものと考えられます。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション			
第2回：スポーツ心理学の歴史的変遷			
第3回：スポーツメンタルトレーニング① 情動とパフォーマンス/メンタルトレーニングの原理			
第4回：スポーツメンタルトレーニング② 運動イメージを用いた心理的トレーニング			
第5回：スポーツメンタルトレーニング③ 目標設定と発達の関係			
第6回：モチベーションの定義/モチベーションの維持と向上方法			
第7回：運動学習理論 スキーマ理論			
第8回：アフォーダンス理論とそのスポーツへの応用			
第9回：運動制御と視覚、錯覚			
第10回：技能習得の5段階理論			
第11回：集団の心理学/チームの組織文化			
第12回：心理学的ストレスとカウンセリング			
第13回：自信の定義・自信に影響を及ぼす要因と自信を高める方法			
第14回：自分自身の思考の癖と変換する方法			
第15回：総括 まとめと授業内試験			

テキスト

『健康とスポーツの心理学』（嵯峨野書院）

参考書・参考資料等

授業中に適宜、指示を出す

学生に対する評価

授業内の提案、発表、発言内容、参加態度（60%）、授業内試験（40%）

授業科目名： 体育経営管理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：浪越一喜 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>①体育経営管理の構造を説明できる。</p> <p>②学校における体育的及びスポーツ活動を活性化（改善・向上）させるための方策を計画できる。</p> <p>③体育経営管理的課題を指摘することができ、課題解決の方法を提示することができる。</p> <p>④生徒の豊かなスポーツライフの実現という視点で、学校と地域との連携について意見を述べることができる。</p>			
授業の概要			
<p>学習指導要領、第一章総則第一（3）学校における体育・健康に関する指導について、学校組織全体で真摯に進めていくことが益々求められる時代であるといえるでしょう。体育経営管理学は、保健体育の授業にとどまらず、学校全体の体育及び体育的活動を効果的・効率的に進め、生徒の生涯にわたって運動やスポーツに親しむ態度を培い、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現のための環境をどのように整え、提供することが望ましいのかについて、これまで体育経営管理学で示されてきた理論及び方法について学びを進めます。特に体育的活動を生起させ、維持していくための組織的な営みを中心に学校における今日的課題（例えば中学校運動部活動の地域移行等）を取り上げながら学習します。それぞれの課題については、いくつかの論点を設定し、少人数で意見交換を行い、その意見を共有しながら理解を深めるように進めます。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション（保健体育科教師の仕事と役割について考える）</p> <p>第2回：体育経営管理学の基本的な考え方と役割について考える</p> <p>第3回：体育経営管理の目的とその構造について理解する</p> <p>第4回：経営の条件から合理性・効率性を考える</p> <p>第5回：生徒を取り巻く環境と現状の課題を整理し、その解決策を探る</p> <p>第6回：体育・スポーツ事業（運動の場の提供、施設の整備）の考え方と方法を検討する</p> <p>第7回：体育・スポーツ事業（プログラムの提供）の考え方と具体的な運営について検討する</p> <p>第8回：体育・スポーツ事業（クラブ支援、運動仲間の育成）の考え方と組織運営について学ぶ</p> <p>第9回：運動部活動の地域移行（今日的課題）についてその背景を理解し、運営方法を考える</p>			

第10回：学校と地域（総合型地域スポーツクラブ）との連携可能性を考える

第11回：学校組織（体育経営体）の機能と経営過程を理解する

第12回：運動者行動の捉え方とその分析の視点について理解する

第13回：運動者行動を把握し、学校体育の改善策を考える

第14回：学校体育経営の評価（経営成績と経営条件の評価）について学ぶ

第15回：総括（まとめと授業内試験）

テキスト

なし

参考書・参考資料等

よくわかるスポーツマネジメント 柳澤和雄・清水紀宏・中西純司編著 ミネルヴァ書房

テキスト 体育・スポーツ経営学 柳澤和雄・木村和彦・清水紀宏編著 大修館書店

学生に対する評価

授業内試験／Exam(s) (50%)、グループワーク／Group Work (20%)、リアクションペーパー／Reaction Paper (30%)

授業科目名： スポーツ社会学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：高田彬成 担当形態：クラス分け・単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>① 現代社会における文化としてのスポーツ活動の意義や機能について考え、説明することができる。</p> <p>② スポーツのもつ様々な社会的課題とその解決方法について、自分の考えをまとめることができる。</p> <p>③ スポーツ社会学を構成する諸分野を挙げ、説明することができる。</p>			
授業の概要			
現代におけるスポーツは、一部の特権階級の人々が享受していたものから、広く大衆の文化として人々の生活に浸透している。本講義では、スポーツの歴史を学びつつ、スポーツ文化を包括的に理解することを目的とし、中でも特に現代社会に特徴的と思われる視点について考える。			
授業計画			
第1回：オリエンテーション：スポーツ社会学の意義とは何か			
第2回：スポーツの誕生と歴史：スポーツとは何か、スポーツの起源と発展の経緯			
第3回：近代スポーツの普及と発展：古代スポーツと近代スポーツとの相違点			
第4回：スポーツパーソンシップとフェアプレイ精神：スポーツの意義や価値とスポーツインテリジェンティ、スポーツにおけるインクルーシブ社会の実現			
第5回：教育・教養としてのスポーツ：文化としてのスポーツの社会的位置づけ			
第6回：スポーツにおける勝利至上主義：勝利至上主義が陥る風潮とスポーツ事故の法的責任			
第7回：オリンピズムとスポーツ：近代オリンピックの発展とオリンピック・パラリンピック教育			
第8回：スポーツ基本法とスポーツ基本計画：国の施策とスポーツをする権利及び基本的人権の尊重及びセクシャルハラスメント			
第9回：現代スポーツの特徴と生涯スポーツ政策の変容：競技力向上と生涯スポーツ政策との関係			
第10回：スポーツの公共性とスポーツの社会的機能：社会におけるスポーツの意義と機能			
第11回：スポーツとの豊かな関わり1「する」（スポーツ実践者としての楽しさや喜び）：スポーツ実践者としての楽しさや喜びとスポーツプロモーション			
第12回：スポーツとの豊かな関わり2「みる」（スポーツ観戦におけるスポーツとのかかわり）：スポーツ観戦におけるスポーツとのかかわりとスポーツプロモーション			

第13回：スポーツとの豊かな関わり3「支える」（スポーツイベントの企画・運営としてのスポーツ参画）：スポーツイベントの企画・運営としてのスポーツ参画とスポーツプロモーション

第14回：総合型地域スポーツクラブの意義や役割とその課題：総合型地域スポーツクラブの現状

第15回：まとめと授業内試験

テキスト

なし

参考書・参考資料等

「よくわかるスポーツ文化論」井上俊・菊幸一編著（ミネルヴァ書房 2012年）

学生に対する評価

授業内試験／Exam(s) (50%)、リアクションペーパー／Reaction Paper (50%)

授業科目名： スポーツ社会学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：中澤雄飛 担当形態：クラス分け・単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 ・スポーツと社会の関係について、科学的に説明することができる。 ・スポーツ文化の構造について、説明することができる。 ・現代スポーツの課題を取り上げ、自ら解決策を提案することができる。			
授業の概要 本授業では、スポーツと社会の関係を示しつつ、現代スポーツの構造について解説していきます。現代スポーツは、「プレイ（する）」だけではなく、「見る」や「支える」といった多様な関わり方ができる文化となっています。また、スポーツが与える影響は、スポーツの関係者のみならず、文化や政治、経済、医療、テクノロジー等、多岐に渡っています。したがって、本授業においては、スポーツと社会の関係を解説し、またスポーツの中にある構造を分析し、現代スポーツを社会学的な視点から見ていきます。			
授業計画 第1回：ガイダンス（授業の進め方や評価方法等に関する説明） 第2回：「スポーツ」とは何か 第3回：スポーツの誕生 第4回：近代スポーツ 第5回：日本におけるスポーツ 第6回：生涯スポーツと社会 第7回：アダプテッド・スポーツ 第8回：ジェンダーとスポーツ 第9回：身体とスポーツ 第10回：オリンピックとスポーツ、期末レポートに向けた解説 第11回：経済とスポーツ 第12回：スポーツツーリズム 第13回：メディアとスポーツ 第14回：武道とスポーツ 第15回：期末レポートの作成と授業のまとめ			

テキスト

『スポーツ文化論』高橋徹編 みらい

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

レポート／Report(s) (60%)、リアクションペーパー／Reaction Paper (40%)

授業科目名： スポーツ史	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：東原文郎 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>1. 日本および世界各国のスポーツの発展史について、基本的な知識を身に付ける。</p> <p>2. 各国のスポーツシステムの発展が他の社会システム（政策、法、経済、文化等）と密接な関係にあることを代表的な事例とともに理解する。</p> <p>3. スポーツの発展史を踏まえ、スポーツの未来を構想することができる。</p>			
授業の概要			
<p>『スポーツの世界史』を通読することを通じ、日本および世界各国でスポーツがどのように発展してきたかを学ぶ。近代スポーツが西欧の有閑階級のたしなみからあらゆる地域に広がり人類の文化として発展するまでには、それぞれの国や地域に特徴的な歴史社会的文脈がある。ナショナリズム、アイデンティティ、ジェンダー、メディア、植民地、暴力、人種、民族、階級、市民、国民統合、政治的利用等をキーワードにそうした国家個別的なスポーツ史を概観しつつ、今日我々が日常的に触れる日本のスポーツ文化が、社会横断的にも歴史的にも独特な文脈において発展してきた相対的なものであることを理解する。得られた認識に基づき、スポーツと社会の理想的な未来を構想する力を養う。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス：「ルードゥス」から「スポーツ」へ			
第2回：西欧のスポーツ①イギリス   近代スポーツの誕生 / フランス   「遊び」の精神			
第3回：西欧のスポーツ②ドイツ   市民的結社としてのトゥルネン協会とスポーツクラブ / スペイン   「モザイク社会」の中のスポーツ			
第4回：東欧のスポーツ①チェコ   世界最大のスタジアムとマスゲーム / ハンガリー   市民社会における暴力とスポーツ / ユーゴスラヴィア   多民族統合からナショナリズムへ			
第5回：東欧のスポーツ②ソヴィエト / ロシア   スポーツ大国の成立と再生			
第6回：アメリカ   アメリカの誕生：アマチュアリズムとキャピタリズムの相克			
第7回：オーストラリア   国民文化としてのスポーツ / カリブ海地域   バックヤードのアスリート			
第8回：授業内中間レポート / 前半のまとめ			
第9回：ブラジル   「人種」を克服する国技としてのサッカー / アルゼンチン、ウルグアイ、チリ   スポーツからみる南米の政治史			
第10回：アフリカ大陸   「近代スポーツ」を相対化する大地			

第11回： イスラーム | 近代との調和 / インド | 植民地経験からクリケット大国へ

第12回： 中国 | 「東亜病夫」からスポーツ大国へ / 朝鮮 / 韓国 | スポーツ = 解放と統一の希望

第13回： 日本 | スポーツと武術 / 武道のあゆみ150年

第14回： グローバルスポーツへの展開 | スポーツはどこへ？

第15回： 授業内最終レポート / まとめ

テキスト

スポーツの世界史

編著 = 坂上康博、中房敏朗、石井昌幸、高嶋 航 一色出版

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

毎回の講義時に回収するワークシート / Reaction Paper (40%)、中間レポート / Mid-term Report (25%)、授業内最終レポート / Final Report (35%)

授業科目名： スポーツ運動学（運動方法学を含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：細川史裕 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 それぞれの学生が関わる競技において「授業内で得られる知識」を応用し、指導者として動きの「観察からの確かなアドバイス」までを行うことが出来るようになることを目指します。			
授業の概要 「運動の構造・成り立ち」を理解し、学校の教育現場やスポーツの指導現場で必要な「運動の見方・観察・考え方・アドバイス」のスキル向上を目指した講義としています。			
授業計画 第1回：授業ガイダンス 第2回：スポーツ運動学とは：スポーツ運動学の概念と目的を学びます 第3回：運動の分類：運動効果や運動原理による、運動の分類の仕方についてグループワークで学びます 第4回：運動の内観：運動の内観についての学びと、指導者としてどのように内観を引き出すかについて学びます 第5回：運動の観察1：運動の自己観察と、他者観察について学びます 第6回：運動の観察2：自己観察と他者観察の知識を踏まえて、指導者が身につけるべき能力をフィールドワークで学びます 第7回：運動協調1：質の高いスポーツスキルとはどういったものなのか「運動の局面構造、運動のリズム、伝導」に着目して学びます 第8回：運動協調2：質の高いスポーツスキルとはどういったものなのか「運動の流動、弾性、先取り、正確性、調和」に着目して学びます 第9回：習熟位相：運動の発生から最高精協調にむけての段階をグループワークで学びます 第10回：運動のコツ：運動技術における「コツ」と「勘」と、これらを高めていく方法について学びます 第11回：運動の発達1：スポーツスキルと運動スキルについて学びます 第12回：運動の発達2：運動スキルとスポーツスキルの関係性について学びます 第13回：運動指導の計画と管理：授業で得られた知識を基に指導の計画と管理の立案を行います 第14回：講義のまとめ			

第15回：授業内試験、まとめと解説
-------------------

テキスト
------

基礎から学ぶスポーツ運動学《大修館書店》
----------------------

参考書・参考資料等
-----------

なし
----

学生に対する評価
----------

授業内試験／Exam(s) (60%)、レポート／Report(s) (20%)、グループワーク／Group Work (20%)
---

授業科目名	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：中澤雄飛
コーチング概論	選択科目	2単位	担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・「体育原理、体育心理学、体育経営管理学、体育社会学、体育史」・運動学（運動方法学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会におけるスポーツの意義と役割について、説明することができる。</li> <li>・学校や社会教育等、多様な場面でのスポーツのコーチング方法について、説明することができる。</li> <li>・コーチングを通して、学問の諸領域（人文・社会・自然科学）との接点を説明することができる。</li> <li>・他者の考えを尊重した上で、スポーツのあり方について自らの考えを提示できる。</li> </ul>			
授業の概要			
<p>現代社会においてスポーツは、人類共通の文化とされ、年齢や国籍を問わず、世界中で親しまれるようになってきました。スポーツが実践される目的においても、健康づくりや人々との交流、競技力の向上等、多様なものへと変化しています。そのため、これからの時代を担うスポーツ指導者には、社会の変化に即応できるだけの幅広い視野と科学的な発想が求められます。よって、本授業ではコーチの存在を主たる手掛かりとして、スポーツ指導の基礎的な知識や考え方について解説をしていきます。</p>			
授業計画			
第1回：授業の概要と評価方法、「コーチングアシスタント資格」等に関する説明			
第2回：スポーツにおける指導者の存在と意味に関する議論			
第3回：現代スポーツにおけるコーチングの意義			
第4回：スポーツ指導者をめぐる社会環境の変化			
第5回：現代スポーツにおけるコーチの役割			
第6回：スポーツ環境の構築に向けたコーチの役割			
第7回：コーチという存在の独自性に関する議論			
第8回：知識・スキルの考え方			
第9回：コミュニケーションスキルの方法と実践			
第10回：スポーツと倫理			
第11回：スポーツと価値に関する議論			
第12回：スポーツが社会に与える影響			
第13回：ドーピングをめぐる諸問題			

第14回：スポーツの社会的意義を支える指導者に関する議論

第15回：授業のまとめと期末レポートの作成

テキスト

なし

参考書・参考資料等

『リファレンスブック』日本スポーツ協会

学生に対する評価

レポート／Report(s) (60%)、リアクションペーパー／Reaction Paper (40%)

授業科目名： 生理学（運動生理学を含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：川田茂雄 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・生理学（運動生理学を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人体の内部環境の恒常性を維持する生理機能の全体像を理解し、説明できる。</li> <li>2. 人体機能の可塑性の仕組みを理解し、運動や栄養、不活動、生活習慣が健康におよぼす影響を説明できる。</li> <li>3. ヒトが病気になる仕組み、病気が治る仕組みを理解し、どのような取り組みをすると健康維持・増進が図れるかを説明できる。</li> </ol>			
授業の概要			
<p>運動や栄養、生活習慣等が、どのように人体に作用し、健康維持・増進につながるのかを理解し、教育活動に活かせる基礎知識を深める。学問では専門用語を正確に理解し、使用することが重要であることから、専門用語の理解は重視する。また、生理学（運動生理学を含む）は科学であるから、内容の説明では科学的な文章（表現）で説明できることを重視する。</p>			
授業計画			
<p>第1回：人体の恒常性の具体例と、恒常性を支える器官とその機能について説明できる。</p> <p>第2回：人体の可塑性の具体例と、その生理的仕組みについて説明できる。</p> <p>第3回：人体の可塑性と身体運動との関係について説明できる。</p> <p>第4回：人体の可塑性と身体不活動との関係について説明できる。</p> <p>第5回：人体の可塑性と栄養摂取や生活習慣との関係について説明できる。</p> <p>第6回：発育・発達における生理機能変化について説明できる。</p> <p>第7回：老化における生理機能変化について説明できる。</p> <p>第8回：ヒトが病気になる仕組みについて説明できる。</p> <p>第9回：病気が治る仕組みについて説明できる。</p> <p>第10回：運動(レジスタンストレーニング)が健康増進におよぼす影響を説明できる。</p> <p>第11回：運動(持久的トレーニング)が健康増進におよぼす影響を説明できる。</p> <p>第12回：栄養や生活習慣が健康増進におよぼす影響を説明できる。</p> <p>第13回：生命の発生について説明できる。</p> <p>第14回：性の違いにおける生理機能の違いについて説明できる。</p> <p>第15回：性の違いにおける運動、栄養等で考慮すべきことについて説明できる。</p>			
定期試験			

テキスト

なし

参考書・参考資料等

標準生理学(医学書院)、ガイドン生理学(エルゼビア)、パワーズ運動生理学(メディカルサイエンスインターナショナル)、入門運動生理学(杏林書院)

学生に対する評価

定期試験期間における最終テスト(100%)を基に評価する。試験では、基本的な専門用語の理解を問う問題と、正しい知識に基づいた科学的文章が作成できるかという記述問題により講義内容の理解度を多面的に評価する。

授業科目名： 衛生学・公衆衛生学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：天笠志保 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・衛生学・公衆衛生学		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>衛生学・公衆衛生学は健康に影響を及ぼす様々な要因を明らかにし、健康障害の発生予防や健康の維持・増進を目指す学問と実践である。本授業の到達目標は以下の5つである。</p> <p>①衛生学・公衆衛生学各分野の基礎的知識を修得し、重要な基本用語の意味を説明できる。</p> <p>②健康問題を単に個人の問題として捉えるのではなく、社会における問題として理解し、疾病予防と健康増進の考え方を理解する。</p> <p>③我が国における公衆衛生全般の制度および政策について理解する。</p> <p>④現代の健康問題を把握し、その解決策について考える能力を身につける。</p> <p>⑤基本的な疫学知識を獲得し、医療・健康に関するデータを読み解く力を修得する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では公衆衛生は集団の生を衛るものであるという本質を押さえながら、我が国における制度および政策について解説するとともに様々な健康問題を社会的視点から捉えていく。学校・職域・地域・国家など様々なレベルの集団を対象に、その集団に所属するものの健康状態が、生物学的・化学的・物理的な環境、社会的・経済的状況、及び集団の構成員の素因や行動とどのように関連するかを明らかにし、効果的な衛生対策や医療・福祉制度を考えるために必要な知識を修得する。また、医療・健康情報を正しく理解・解釈するために必要不可欠な疫学について理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：衛生学・公衆衛生学概論（歴史、健康の概念、予防医学、ヘルスプロモーション）</p> <p>第2回：疫学①（人口統計・保健統計、疫学の歴史、疫学の基礎）</p> <p>第3回：疫学②（疫学指標、疫学研究のデザイン）</p> <p>第4回：疫学③（因果関係、疫学のための統計）</p> <p>第5回：医療政策・社会保障（衛生行政、医療制度、医療保障）</p> <p>第6回：産業保健①（産業保健制度、職業病の歴史、職業病の予防と対策）</p> <p>第7回：産業保健②（労働災害、近年の産業衛生問題とその対策）</p> <p>第8回：環境保健（環境衛生、公害、プラネタリーヘルス）</p> <p>第9回：高齢者保健（老年期の健康、介護保険制度）</p> <p>第10回：感染症（感染症流行の条件と予防、感染症の種類、現在の感染症対策、サーベイランス）</p>			

第11回：学校保健（児童・生徒の健康、健康診断、感染症の予防、学校の環境衛生）

第12回：食品衛生（食中毒、食品の安全性）

第13回：精神保健、障がい者福祉（精神保健の歴史、メンタルヘルス対策）

第14回：現代の健康問題・慢性疾患（生活習慣病の予防と対策）

第15回：講義の復習・まとめ

定期試験

テキスト

・野中浩一（編著）「学生のための現代公衆衛生」2022（改訂8版） 南山堂

・適宜、授業資料・プリント等を配布する

参考書・参考資料等

・ハンス ロスリング他（著）「FACTFULNESS—10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣」2019 日経BP社

・玉手慎太郎（著）「公衆衛生の倫理学—国家は健康にどこまで介入すべきか」2022 筑摩書房

・重松逸造（著）「疫学とはなにか—原因を追求する科学」1977 ブルーバックス

・中室牧子他（著）「原因と結果の経済学」2017 ダイヤモンド社

学生に対する評価

授業課題・提出物（30%）、定期試験（70%）

授業科目名： 小児保健	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：萩原教文 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 子どもの心身の健やかな成長をサポート出来るようになって頂く。			
授業の概要 子どもの心身の健やかな成長をサポートするために知っておいて頂きたいことを講義します。			
授業計画 第1回：小児救命救急の実践 第2回：小児トリアージ 第3回：小児保健とは 第4回：胎児・新生児について学ぶ 第5回：遺伝 第6回：発育 第7回：発達 第8回：スポーツと子供の健康 第9回：事故 第10回：発達障害 第11回：自閉症スペクトラム障害、注意欠如・多動性障害について 第12回：生理機能 第13回：起立性調節障害 第14回：心身の健康、保護者対応 第15回：授業内試験と知っておいてほしいこと			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 新版 よくわかる子どもの保健 丸尾良浩/竹内義博 編著 ミネルヴァ書房			
学生に対する評価 授業内試験／Exam(s) (60%)、レポート／Report(s) (20%)、発言、応答／Class Participation (20%)			

授業科目名： 学校精神保健	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：久保田かおる 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>精神保健に関する基礎的な知識を得て、その視点でそれぞれの職場でも生かせるような態度・能力を養うことができる。</p> <p>なお、最終的に本授業において求めている目標は以下の項目である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育と社会・人間をめぐる現代的課題に関心をもち、説明でき、かつ批判的に考察することができる</li> <li>・現在の教育的課題を社会・文化と関連付けて口述・記述することができる</li> <li>・口頭・書面によるコミュニケーション・プレゼンテーションの能力を有する</li> <li>・教育にかかわる幅広い分野の知識について主体的に学び、説明することができる</li> <li>・教育学を構成する諸分野を挙げ説明することができる</li> <li>・学校や社会教育施設などで教育・学習を実践することができる</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>健康とは身体的のみならず、精神的および社会的な側面を含んでいる。学校精神保健（メンタルヘルス）とは、学齢期の心と健康を育み、守り、増進することを指す。ここでは、乳幼児・児童を中心に青年期を対象として、子どもの成長と心の健康との関わりを理解することを目的とする。子どもの心の健康について、発達の過程や生活の各場面（家庭や保育園・幼稚園・学校など）、子どもを取り巻く人間関係などさまざまな側面から考えていく。さらに子どもと関わる親や保育者などのメンタルヘルスについても取り上げていきたい。なお、主体的な学びを目的とし、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、実習等も適宜取り入れ、授業を進めていきたいと考えている。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：授業の内容や参考文献等の説明。総論</p> <p>第2回：教育相談の目的と役割について学ぶ① 生徒指導と教育相談</p> <p>第3回：教育相談の目的と役割について学ぶ② スクールカウンセラーと教育相談</p> <p>第4回：子どものこころの健康と発達について学ぶ</p> <p>第5回：ストレスとこころの健康について学ぶ</p> <p>第6回：児童期・思春期の子どもの示す情動のおよび行動的症状の意味について学ぶ</p> <p>第7回：児童期・思春期にみられる精神保健の例について学ぶ</p> <p>第8回：紹介状の書き方、事例のまとめ方、行動観察記録について学ぶ</p>			

第9回：相談機関・医療機関への連絡調整と紹介について学ぶ

第10回：健康相談の実際について学ぶ① 不登校をその対応

第11回：健康相談の実際について学ぶ② いじめとその対応

第12回：児童・思春期の精神保健の現状と課題について学ぶ

第13回：授業内試験と演習

第14回：こころの健康と精神保健 演習① 自己の課題をまとめ発表する

第15回：こころの健康と精神保健 演習② 授業のまとめと総復習

テキスト

『教育相談・学校精神保健の基礎知識』ナカニシヤ出版

子どもの精神保健テキスト 古荘純一 診断と治療社

参考書・参考資料等

教職員のための子供の健康相談及び保健指導の手引き 公益財団法人 日本学校保健会 [https://www.gakkohoken.jp/book/ebook/ebook\\_R030120/index\\_h5.html#1](https://www.gakkohoken.jp/book/ebook/ebook_R030120/index_h5.html#1)

学生に対する評価

授業内試験/Exam(s) (30%)、レポート/Report(s) (20%)

リアクションペーパー/Reaction Paper (30%)、発言、応答/Class Participation (20%)

授業科目名： 学校保健学（学校安全等を含む）	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：久保田かおる 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>①学校保健について十分な知識を持ち、人々の健康に関する現代的健康課題を把握し、その保持増進について考えることができる。</p> <p>②学校保健に関する法的根拠や構造を学ぶ。（学校保健は、学校教育活動全体を通じ行われるものであることを理解することができる。）</p> <p>なお、最終的に本授業において求めている目標は以下の項目である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育と社会・人間をめぐる現代的課題に関心をもち、説明でき、かつ批判的に考察することができる。</li> <li>・現在の教育的課題を社会・文化と関連付けて口述・記述することができる。</li> <li>・口頭・書面によるコミュニケーション・プレゼンテーションの能力を有する。</li> <li>・教育にかかわる幅広い分野の知識について主体的に学び、説明することができる。</li> <li>・教育学を構成する諸分野を挙げ説明することができる。</li> <li>・学校や社会教育施設などで教育・学習を実践することができる。</li> </ul>			
授業の概要			
<p>学校保健とは、児童生徒の精神的・身体的健康を保持するとともに、学校生活を健康に過ごす能力や知識を発展させる教育活動をいう。学校保健の領域は、保健管理と保健教育、安全管理・指導に大別することができる。学校保健の全体像を理解し、学校健康教育が学齢期のみならず生涯に通じる健康の視座を持つことを理解する。教育現場における学校保健の領域構造や内容を概説し、現代的健康課題を具体的に考え、教育活動全体で取り組む健康教育の重要性とここで培われたことが次世代の健康推進に関与していることを学習する。なお、主体的な学びを目的とし、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、実習等も適宜取り入れ、授業を進めていきたいと考えている。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション：授業の内容や参考文献の説明。学校保健の考え方、歴史について学ぶ</p> <p>第2回：健康の評価、健康状態のチェックについて学ぶ</p> <p>第3回：疾病及び健康障害について学ぶ</p> <p>第4回：感染症とその対応について学ぶ</p> <p>第5回：心の健康問題とその対応について学ぶ</p> <p>第6回：発達や行動上の課題と特別支援教育について学ぶ</p>			

<p>第7回：保健室の役割（学校保健センターとして）について学ぶ</p> <p>第8回：セーフティ・プロモーションと学校安全、学校環境衛生について学ぶ</p> <p>第9回：健康教育（演習を含む）について学ぶ</p> <p>第10回：学校給食・地域連携と学校保健の役割について学ぶ</p> <p>第11回：現代的な健康課題①（喫煙・飲酒・薬物乱用防止教育）について学ぶ</p> <p>第12回：授業内試験と演習</p> <p>第13回：現代的な健康課題②（性教育・生活習慣病・心の健康）について学ぶ</p> <p>第14回：現代的な健康課題に関する演習① 自己の課題について発表する</p> <p>第15回：現代的な健康課題に関する演習② 授業のまとめと復習</p>
<p>テキスト</p> <p>『学校保健マニュアル』南山堂</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>『健康教育への招待』大修館書店</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>授業内試験/Exam(s) (30%)、レポート/Report(s) (20%)</p> <p>プレゼンテーション/Presentation (20) %、リアクションペーパー/Reaction Paper (30%)</p>

授業科目名： 救急対応Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：宮本亘 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ現場における救急対応の重要性やその体制構築におけるJSP0-ATの役割について説明できる。</li> <li>・救急対応を実施する際に必要な正しい知識と倫理、法的留意点について説明できる。</li> <li>・スポーツ活動現場における救急体制構築や緊急時対応計画の立案に必要な要素、具体的な立案方法について説明できる。</li> <li>・緊急性を判断するための的確な方法を活用し、JSP0-ATの役割における救急対応が実践できる。</li> <li>・重症度や外傷、内科的疾患に応じた救急対応が実践できる</li> <li>・競技、種目特性に応じた緊急時対応計画の計画や救急対応が実践できる</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>スポーツ現場における医学的緊急事態に対する初期対応について、医療従事者に引き継ぐまでにしなければならないことに関する知識を学んでいただく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス</p> <p>第2回：日本の救急医療の現状</p> <p>第3回：基本的な応急処置</p> <p>第4回：創の種類とその対応</p> <p>第5回：創縫合の実際（皮下組織レベルから骨に達する創まで）</p> <p>第6回：救急患者の搬送</p> <p>第7回：頭頸部外傷に対する初期対応</p> <p>第8回：止血と外固定</p> <p>第9回：スポーツ環境の安全管理</p> <p>第10回：骨折総論</p> <p>第11回：上肢の骨折</p> <p>第12回：下肢の骨折</p> <p>第13回：スポーツ傷害の実際</p> <p>第14回：救急蘇生法</p> <p>第15回：授業内試験　まとめと解説</p>			

テキスト

標準救急医学（医学書院） 標準整形外科学（医学書院）

参考書・参考資料等

授業内で適宜指示する。

学生に対する評価

授業回数の6割以上を出席した学生に対して試験受験資格を与え、試験の点数で評価する  
（評価の割合は試験100%）。

授業科目名： スポーツ栄養学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：虎石真弥 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>① スポーツ栄養学の基礎知識を習得し、それらについて適切な選択ができる。</p> <p>② 競技力向上および健康増進を図るためのより良い栄養状態の獲得に向けたアプローチができる。</p>			
授業の概要			
<p>本授業では、栄養学の基礎をふまえて、スポーツ現場における具体的な栄養・食事方法について学ぶ。講義形式でアスリートの身体づくりとコンディショニングに関連する栄養素とその摂取方法を学習し、ワークシートを用いて具体的な事例に基づきながら理解を深めていく。</p>			
授業計画			
<p>第1回：オリエンテーション（授業の進め方）、アスリートの食事の目的と基本について学ぶ</p> <p>第2回：栄養学の基礎を学ぶ①（たんぱく質、脂質、炭水化物）</p> <p>第3回：栄養学の基礎を学ぶ②（ビタミン、ミネラル他）</p> <p>第3回：アスリートの身体づくり① 骨づくりについて学ぶ</p> <p>第4回：アスリートの身体づくり② 筋肉づくりについて学ぶ</p> <p>第5回：アスリートの身体づくり③ エネルギーバランスとウェイトコントロールについて学ぶ</p> <p>第6回：アスリートの糖質補給について学ぶ</p> <p>第7回：アスリートの貧血について学ぶ</p> <p>第8回：水分補給について学ぶ</p> <p>第9回：アスリートの増量・減量と健康問題について学ぶ</p> <p>第10回：女性アスリートの健康問題について学ぶ</p> <p>第11回：試合時の栄養補給について学ぶ</p> <p>第12回：特殊環境、遠征時の栄養補給について学ぶ</p> <p>第13回：サプリメントについて学ぶ</p> <p>第14回：スポーツ現場での栄養サポートの実際について学ぶ</p> <p>第15回：まとめ、授業内試験</p>			
テキスト			
財団法人日本スポーツ協会「公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト9 スポーツと栄養」			
参考書・参考資料等			

小林修正編著「アスリートの栄養・食事ガイド（3版）」第一出版

樋口満編著「新版コンディショニングのスポーツ栄養学」市村出版

早稲田大学スポーツ栄養研究所編「アスリートの栄養アセスメント」第一出版

清野隼・虎石真弥・山口太一編「ケースで学ぶスポーツ栄養学」みらい

学生に対する評価

授業内試験（50%）、その他（ワークシート、小テスト）（50%）

授業科目名： からだと健康	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：久保田かおる 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 ・学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①健康で安全な生活を営むために必要な基本的な疾病構造と現代的健康課題を踏まえ、自らの健康に関してセルフコントロールできる力を習得する。</p> <p>②健康教育の視点や手法を身につけ、学校や施設等の様々な場面において実践することができる力を身につける。</p> <p>最終的な本授業での目標は、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人文科学、社会科学、自然科学について幅広い関心と知識として、教育学の諸分野の中から特に関心のある分野を見つけ学習した成果を示すことができること、獲得した資質・能力を総合的に活用し、自らが立てた課題にそれらを適用することで解決することができる。</li> <li>・教育の実践にかかわる知識・技能を学び、学校やその他の多様な場で教育活動を展開することができる。人の学びを支援するための知識や技能として、問題を発見し、解決に必要な情報を収集・分析・整理することで解決できることである。</li> <li>・現代社会において社会人・職業人として他者と共生し、その中でリーダーシップを発揮することができる。目標達成に向けて計画を立て遂行することができるとは、なにより、自律・自立して学修できることである。</li> <li>・グループでの学びにおいて自分の意見を建設的に述べるができることとして、協働作業によって新たなものを構築することができることも期待する。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>現代は多くの科学的知識が蓄積され、社会全体も豊かになり、我々が利用できる物や情報、施設は非常に多くなっている。健康教育は、健康に貢献するために存在し、学校をはじめ様々な場所で実施されている。ここでは、主な健康教育課題について学び、自己の健康を護ろうとする態度を育て、行動の選択のための情報や技術を提供するのは何かを考えられることを目的に、真の健康教育とは何かを学ぶ。通年の受講（健康生活とコミュニティ）を希望する。なお、主体的な学びを目的とし、ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、実習等も適宜取り入れ、授業を進めていきたいと考えている。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業の内容や参考文献等の説明。健康教育学総論について学ぶ</p>			

<p>第2回：健康教育の時代へ 喫煙と健康教育について学ぶ</p> <p>第3回：健康教育の役割 飲酒と健康教育について学ぶ</p> <p>第4回：何が健康教育という値に値するのか？ 薬物乱用と健康教育について学ぶ</p> <p>第5回：健康教育における保健行動の意味 感染症と健康教育について学ぶ</p> <p>第6回：健康教育における科学の意味 性感染症と健康教育について学ぶ</p> <p>第7回：健康教育の基本構造 健康阻害危険行動と様々な要因について学ぶ</p> <p>第8回：健康のための行動を実現させるものは何か 今日健康教育とその対策について学ぶ</p> <p>第9回：社会心理学的発想から見た保健行動 事件・事故発生と健康教育について学ぶ</p> <p>第10回：社会学的発想から見た保健行動 自然災害と健康教育について学ぶ</p> <p>第11回：健康教育の総まとめ 食育と健康教育について学ぶ</p> <p>第12回：授業内理解度調査と演習</p> <p>第13回：学習理論的発想から見た保健行動 心の健康と健康教育について学ぶ</p> <p>第14回：様々な健康教育の手法を使用した授業展開と演習① ライフスキルとアサーションについて学ぶ</p> <p>第15回：様々な健康教育の手法を使用した授業展開と演習② 授業のまとめと復習</p>
<p>テキスト</p> <p>『健康教育への招待』大修館書店</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>『わたしの健康』 <a href="https://www.mext.go.jp/content/20210409-mxt_kenshoku-100000610-1.pdf">https://www.mext.go.jp/content/20210409-mxt_kenshoku-100000610-1.pdf</a></p> <p>『かけがえのない自分、かけがえのない健康（中学生用）』 <a href="https://www.mext.go.jp/content/20231218-mxt_kenshoku-000033165_1.pdf">https://www.mext.go.jp/content/20231218-mxt_kenshoku-000033165_1.pdf</a></p> <p>『健康な生活を送るために（高校生用）』 <a href="https://www.mext.go.jp/content/20231218-mxt_kenshoku-000033166_1.pdf">https://www.mext.go.jp/content/20231218-mxt_kenshoku-000033166_1.pdf</a></p>
<p>学生に対する評価</p> <p>レポート/Report(s) (30%)、プレゼンテーション/Presentation (20%)、グループワーク/Group Work (20%)、リアクションペーパー/Reaction Paper (30%)</p>

授業科目名： 保健体育科教育法 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：高田彬成 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<b>授業のテーマ及び到達目標</b> （１）保健体育科教育の理念・目的の変遷（明治～現在）、及び、学習指導要領改訂の最新の動向について理解し、説明できる。 （２）保健体育科教育における目標・内容論、指導論（学習形態・学習過程）、評価論など、基礎的な理論や基本的な事項について理解し、説明できる。 （３）上記（１）・（２）の内容理解の上にとって、中学校保健体育科の授業づくりに関する基本的な考え方や方向性について理解し、説明できる。			
<b>授業の概要</b> 中学校・高等学校の保健体育科教員に必要な基本的な知識について学ぶ。学校教育の法的根拠、保健体育科教育の変遷を踏まえ、「保健体育科」の目標・内容・学習指導計画・学習評価・教師像などについて講述する。また、ICT活用を含む学習指導の基本的・実務的事項についての検討や学習指導案作成及び学習評価の方法について学ぶ。			
<b>授業計画</b> 第1回：オリエンテーション（授業の進め方、シラバスの概要等）、学生のレディネス調査 予習：中学校保健体育科教員を目指す自覚と初志貫徹の気持ちを高めておくこと。 復習：授業で学んだことをとおして、本講義で学ぶ内容の全体像を整理するとともに、教職課程を履修する姿勢を再確認すること。 第2回：体育科教育の概念と体育科教育のあゆみ（学校体育の変遷等） 予習：我が国の学校教育の歴史について、自分なりに調べたことをまとめておくこと。 復習：授業で学んだことをとおして、我が国の学校教育と体育科教育の変遷について整理すること。 第3回：教育改革と学習指導要領の改訂 予習：学習指導要領の改訂について、現在までに何度改訂されたか、内容がどう変わってきたかなどについて調べ、自分なりにまとめておくこと。 復習：授業で学んだことをとおして、教育改革と学習指導要領改訂の関係性について整理すること。 第4回：保健体育全体の目標・内容（目標・内容の構造、一貫性、運動の特性） 予習：中学校保健体育科の目標と内容について、自己の経験を踏まえて整理しておくこと。 復習：授業で学んだことをとおして、保健体育科で学ぶ内容についてまとめるとともに、各			

領域の特性について整理すること。

第5回：学習指導要領改訂の考え方と特徴（総則の趣旨、保健体育の改訂の趣旨）

予習：学習指導要領の内容構成について調べ、自分なりにまとめておくこと。

復習：授業で学んだことをとおして、保健体育科教育の目的について整理すること。

第6回：中学校・体育分野の目標・内容（中学1・2年）（運動領域別、必修の意味）

予習：中学校保健体育科体育分野第1学年及び第2学年の指導について、目標と内容を確認しておくこと。

復習：授業で学んだことをとおして、中学校1・2年の体育分野の指導内容について整理すること。

第7回：中学校・体育分野の目標・内容（中学3年）（運動領域別、運動の選択制の考え方）

予習：中学校保健体育科体育分野第3学年について、目標と内容を確認しておくこと。

復習：授業で学んだことをとおして、中学校3年の体育分野の指導内容について整理すること

第8回：中学校・保健分野の目標・内容の理解（1）

予習：中学校保健体育科保健分野第1学年及び第2学年の指導について、目標と内容を確認しておくこと。

復習：授業で学んだことをとおして、中学校1・2年の保健分野の指導内容について整理すること。

第9回：中学校・保健分野の目標・内容の理解（2）

予習：中学校保健体育科保健分野第3学年の指導について、目標と内容を確認しておくこと。

復習：授業で学んだことをとおして、中学校3年の保健分野の指導内容について整理すること

第10回：体育分野における学習指導（学習過程）の在り方と工夫

予習：中学校保健体育科体育分野の授業の組み立て方について、自己の経験をもとに整理しておくこと。

復習：授業で学んだことをとおして、体育分野の指導計画の立案について整理すること。

第11回：体育分野における指導と学習形態の在り方と工夫（ICT機器の効果的な活用を含む）

予習：中学校保健体育科体育分野の授業の進め方について、自己の経験をもとに整理しておくこと。

復習：授業で学んだことをとおして、体育分野の学習形態の工夫について整理すること。

第12回：保健分野における指導と学習形態の在り方と工夫（ICT機器の効果的な活用を含む）

予習：中学校保健体育科保健分野の授業の進め方について、自己の経験をもとに整理しておくこと。

復習：授業で学んだことをとおして、保健分野の学習形態の工夫について整理すること。

第13回：体育における指導と評価の考え方と工夫（指導と評価の一体化）

予習：中学校保健体育科の指導と評価の在り方について、自分なりの考えをまとめておくこと。

<p>復習：授業で学んだことをとおして、中学校保健体育科の指導と評価についての留意点を整理すること。</p> <p>第14回：体育における観点別評価の考え方と工夫</p> <p>予習：中学校保健体育科の観点別評価の仕方について、具体例を設定し試行しておくこと</p> <p>復習：授業で学んだことをとおして、中学校保健体育科の観点別評価についての留意点を整理すること。</p> <p>第15回：まとめと授業内試験</p> <p>予習：中学校保健体育科の指導内容の全体について、自分なりにまとめておくこと。</p> <p>復習：授業で学んだことをとおして、中学校保健体育科の指導内容を整理すること。</p>
<p>テキスト</p> <p>なし</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>教科書：『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 保健体育編』文部科学省（東山書房）</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>授業内試験／Exam(s)（50%）</p> <p>リアクションペーパー／Reaction Paper（50%）</p>

授業科目名： 保健体育科教育法Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：高田彬成 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>（１）中学校保健体育における各運動領域・種目等の「運動の特性」（機能的特性・効果的特性・構造的特性）や「成り立ち」などについて理解し、説明できる。</p> <p>（２）各運動領域・学年別の目標・内容に応じ、各校種間の接続を踏まえた「授業づくり」の基本的な事項や教材開発の視点について理解し、説明できる。</p> <p>（３）学習指導案（単元計画・本時案等）の作成・発表、発表に対する相互評価活動、模擬授業・事後研究協議を通して、実践的な指導力について理解し、説明できる。</p>			
授業の概要			
<p>中学校保健体育科教員としての基礎的・基本的な指導力を身に付けるために、保健体育科の指導案作成の基盤となる「教材観」や「指導観」について学ぶとともに、領域別・学年別の目標や内容、小学校から中学校、中学校から高等学校への接続を踏まえた「授業づくり」の基本的な事項について学ぶ。また、各領域・単元の特性に応じてICTを効果的に活用する指導の具体についても学ぶ。さらに、学習指導案の作成・発表、および模擬授業や事後研究協議を実際に行う。</p>			
授業計画			
<p>第1回：・オリエンテーション（シラバス概要、成績評価方法等の説明）</p> <p>・教材研究（指導案作成）対象領域の選択</p> <p>予習：中学校保健体育科の指導内容を確認し、模擬授業についての希望を決めておくこと。</p> <p>復習：授業で学んだことをとおして、模擬授業の計画と自己の課題を整理すること。</p> <p>第2回：・授業づくりと学習過程（これまでとこれから）</p> <p>・「体づくり運動」の指導事例と指導案作成作業</p> <p>予習：模擬授業をとおした実践的な学びとなるよう、学習指導案の形式を確認しておくこと</p> <p>復習：授業で学んだことをとおして、自分が行う模擬授業の学習指導案の形式について確認するとともに、模擬授業の実施に向けた課題を整理すること。</p> <p>第3回：「体づくり運動」の授業づくりと教材研究（指導案作成・発表、研究協議）</p> <p>予習：「体づくり運動」の指導の行い方について、自分なりの意見をまとめておくこと。</p> <p>復習：授業で学んだことをとおして、「体づくり運動」の指導と評価についてまとめるとともに、模擬授業の成果と課題を整理すること。</p> <p>第4回：「器械運動」の授業づくりと教材研究（指導案作成・発表、研究協議）</p>			

予習：「器械運動」の指導の行い方について、自分なりの意見をまとめておくこと。

復習：授業で学んだことをとおして、「器械運動」の指導と評価についてまとめるとともに、模擬授業の成果と課題を整理すること。

第5回：「陸上競技」の授業づくりと教材研究（指導案作成・発表、研究協議）【LMSによるオンライン講義】

予習：「陸上競技」の指導の行い方について、自分なりの意見をまとめておくこと。

復習：授業で学んだことをとおして、「陸上競技」の指導と評価についてまとめるとともに、模擬授業の成果と課題を整理すること。

第6回：「水泳」の授業づくりと教材研究（指導案作成・発表、研究協議）

予習：「水泳」の指導の行い方について、自分なりの意見をまとめておくこと。

復習：授業で学んだことをとおして、「水泳」の指導と評価についてまとめるとともに、模擬授業の成果と課題を整理すること。

第7回：「球技（ゴール型）」の授業づくりと教材研究（指導案作成・発表、研究協議）

予習：「球技（ゴール型）」の指導の行い方について、自分なりの意見をまとめておくこと

復習：授業で学んだことをとおして、「球技（ゴール型）」の指導と評価についてまとめるとともに、模擬授業の成果と課題を整理すること。

第8回：「球技（ネット型）」の授業づくりと教材研究（指導案作成・発表、研究協議）

予習：「球技（ネット型）」の指導の行い方について、自分なりの意見をまとめておくこと

復習：授業で学んだことをとおして、「球技（ネット型）」の指導と評価についてまとめるとともに、模擬授業の成果と課題を整理すること。

第9回：「球技（ベースボール型）」の授業づくりと教材研究（指導案作成・発表、研究協議）

予習：「球技（ベースボール型）」の指導の行い方について、自分なりの意見をまとめておくこと。

復習：授業で学んだことをとおして、「球技（ベースボール型）」の指導と評価についてまとめるとともに、模擬授業の成果と課題を整理すること。

第10回：「武道（柔道、剣道、その他の武道）」の授業づくりと教材研究（指導案作成・発表、研究協議）

予習：「武道」の指導の行い方について、自分なりの意見をまとめておくこと。

復習：授業で学んだことをとおして、「武道」の指導と評価についてまとめるとともに、模擬授業の成果と課題を整理すること。

第11回：「ダンス」の授業づくりと教材研究（指導案作成・発表、研究協議）

予習：「ダンス」の指導の行い方について、自分なりの意見をまとめておくこと。

復習：授業で学んだことをとおして、「ダンス」の指導と評価についてまとめるとともに、模擬授業の成果と課題を整理すること。

第12回：「体育理論」の授業づくりと教材研究（指導案作成・発表、研究協議）

<p>予習：「体育理論」の指導の行い方について、自分なりの意見をまとめておくこと。</p> <p>復習：授業で学んだことをとおして、「体育理論」の指導と評価についてまとめるとともに、模擬授業の成果と課題を整理すること。</p> <p>第13回：「保健分野」の授業づくりと教材研究（指導案作成・発表、研究協議）</p> <p>予習：「保健分野」の指導の行い方について、自分なりの意見をまとめておくこと。</p> <p>復習：授業で学んだことをとおして、「保健分野」の指導と評価についてまとめるとともに、模擬授業の成果と課題を整理すること。</p> <p>第14回：中学校保健体育科におけるよい授業の条件についての整理（ICTの活用法を含む）</p> <p>予習：中学校保健体育科におけるよい授業の条件について、自分なりの考えをまとめておくこと。</p> <p>復習：授業で学んだことをとおして、中学校保健体育科におけるよい授業の条件についてまとめるとともに、自己の課題を整理すること。</p> <p>第15回：まとめの授業内試験と学習指導案・課題レポートの提出</p> <p>予習：中学校保健体育科の授業づくりのポイントについて、自分なりの考えをまとめておくこと。</p> <p>復習：授業で学んだことをとおして、教育実習までに身に付けたい力を整理すること。</p>
<p>テキスト</p> <p>なし</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>教科書：『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説』文部科学省（東山書房）</p> <p>教科書：中学校検定教科書『保健体育』（学研）</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>授業内試験／Exam(s)（35%）</p> <p>リアクションペーパー／Reaction Paper（35%）</p> <p>実習／Practical Training（30%）</p>

授業科目名： 保健体育科教育法Ⅲ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：高田 彬成 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>（１）保健体育における年間計画、単元計画、指導案の基礎的な理論について理解し、基本的な様式に沿って作成することができる。</p> <p>（２）指導と評価の一体化、個に応じた指導、科目体育と科目保健との関連など、単元計画等の工夫や授業づくりの観点について理解し、説明できる。</p> <p>（３）保健体育科教員に求められる役割や教師の在り方、教育実習の準備と心構え等について、保健体育科経営の視点から理解し、説明できる。</p>			
授業の概要			
<p>高等学校の保健体育科教員に必要な実践的能力や学校現場における教師・教科の役割などについて学ぶ。特に、高等学校保健体育における指導計画等について基礎的な理論を理解し、指導案作成の仕方について学ぶとともに、各領域等の指導の在り方と単元計画の工夫について学ぶ。その際、ICTを活用した課題設定・課題解決の指導の在り方についても理解する。また、学校全体の経営における教科としての保健体育の役割、保健体育教師の在り方などについて、保健体育科経営の視点から理解する。</p>			
受業計画			
第1回：オリエンテーション（シラバス概要・受講態度・成績評価方法等の説明）			
<p>予習：高等学校保健体育科教員を目指す自覚と初志貫徹の気持ちを高めておくこと。</p> <p>復習：授業で学んだことをとおして、本講義で学ぶ内容の全体像を整理するとともに、教職課程を履修する姿勢を再確認すること。</p>			
第2回：学校教育の目標・方針と保健体育の経営			
<p>予習：学校教育の目標と保健体育科の役割について、自分なりに調べ、まとめておくこと。</p> <p>復習：授業で学んだことをとおして、学校教育における保健体育科の位置づけについて整理すること。</p>			
第3回：指導計画の意義と種類			
<p>予習：高等学校保健体育科の指導計画の現状について、自分なりに調べたことをまとめておくこと。</p> <p>復習：授業で学んだことをとおして、指導計画の意義と目的、種類等について整理すること</p>			
第4回：単元計画と指導案（運動の選択制における例）			
<p>予習：高等学校保健体育科の単元計画について、自分なりに計画を立てておくこと。</p>			

復習：授業で学んだことをとおして、単元計画作成上の留意点について整理すること。

第5回：指導の在り方と単元計画の工夫（個に応じた指導、ICT活用、体育と保健との関連）

予習：保健体育科の指導の工夫について、自己の経験を踏まえて考えられることをまとめておくこと。

復習：授業で学んだことをとおして、保健体育科の目指す指導の在り方について整理すること。

第6回：単元計画と指導案作成の理解

予習：学習指導案作成の意義について、自分なりの考えをまとめておくこと。

復習：授業で学んだことをとおして、高等学校保健体育科学習指導案の作成手順を整理すること。

第7回：高等学校科目体育の指導と評価（入学年次）

予習：高等学校保健体育科科目体育入学年次の指導について、目標と内容を確認しておくこと。

復習：授業で学んだことをとおして、科目体育入学年次の指導内容について整理すること。

第8回：高等学校科目体育の指導と評価（入学年次の次の年次以降）

予習：高等学校保健体育科科目体育入学年次の次の年次以降の指導について、目標と内容を確認しておくこと。

復習：授業で学んだことをとおして、科目体育入学年次の次の年次以降の指導内容について整理すること。

第9回：高等学校科目保健の指導と評価

予習：高等学校保健体育科科目保健の指導について、目標と内容を確認しておくこと。

復習：授業で学んだことをとおして、科目保健の指導内容について整理すること。

第10回：総則の「体育・健康に関する指導」及び特別活動（体育的行事）と保健体育科との関連

予習：高等学校の「体育・健康に関する指導」について、その特徴を自分なりに調べ、まとめておくこと。

復習：授業で学んだことをとおして、「体育・健康に関する指導」及び特別活動と保健体育科との関連について整理すること。

第11回：指導と評価の一体化を目指す指導案の工夫、評価と生徒指導要録

予習：高等学校保健体育科の指導と評価の在り方について、自分なりの行い方をまとめておくこと。

復習：授業で学んだことをとおして、保健体育科の指導と評価の行い方について整理すること。

第12回：安全指導・体育施設等の管理運営と教師の連携・協力（同僚性）

予習：保健体育科教員が担う安全指導と体育施設等の管理について、自分なりに調べたことをまとめておくこと。

<p>復習：授業で学んだことをとおして、安全指導に関わる保健体育科教員の連携についての課題を整理すること。</p> <p>第13回：保健体育教師に求められる資質・能力（教師像）</p> <p>予習：保健体育科教師に求められる資質・能力について、自分なりの考えをまとめておくこと。</p> <p>復習：授業で学んだことをとおして、保健体育科教師に求められる資質・能力の具体を整理すること。</p> <p>第14回：教育実習への心構えと準備</p> <p>予習：教育実習の意義について、自分なりの考えをまとめておくこと。</p> <p>復習：授業で学んだことをとおして、教育実習に必要な準備について具体的にまとめること。</p> <p>第15回：まとめと授業内試験</p> <p>予習：高等学校保健体育科の指導内容の全体について、自分なりにまとめておくこと。</p> <p>復習：授業で学んだことをとおして、高等学校保健体育科の指導内容を整理すること。</p>
<p>テキスト</p> <p>なし</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>教科書：『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編・体育編』文部科学省（東山書房）</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>授業内試験／Exam(s)（50%）</p> <p>リアクションペーパー／Reaction Paper（50%）</p>

授業科目名： 保健体育科教育法Ⅳ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：高田彬成 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（中学校及び高等学校 保健体育）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>（１）高等学校の保健体育における各運動領域・種目等の「運動の特性」（機能的特性・効果的特性・構造的特性）や「成り立ち」などについて理解し、説明できる。</p> <p>（２）各運動領域・学年別の目標・内容に応じ、中学校との接続・一貫性を踏まえた「授業づくり」の基本的な事項や教材開発の視点について理解し、説明できる。</p> <p>（３）学習指導案（単元計画・本時案等）の作成・発表、発表に対する相互評価活動、模擬授業・事後研究協議を通して、実践的な指導力について理解し、説明できる。</p>			
授業の概要			
<p>高等学校保健体育科教員としての基礎的・基本的な指導力を身に付けるために、保健体育科の指導案作成の基盤となる「教材観」や「指導観」について学ぶとともに、領域別・学年別の目標や内容、中学校から高等学校への接続、高等学校から生涯スポーツへの継続等を踏まえた「授業づくり」の基本的な事項について学ぶ。また、各領域・単元の特性に応じてICTを効果的に活用する指導の具体についても学ぶ。さらに、学習指導案の作成・発表、および、模擬授業や事後研究協議を実際に行う。</p>			
受業計画			
<p>第1回：オリエンテーション（シラバス概要、成績評価方法等の説明）、教材研究（指導案作成）対象領域の選択</p> <p>予習：高等学校保健体育科の指導内容を確認し、模擬授業についての希望を決めておくこと 復習：授業で学んだことをとおして、模擬授業の計画と自己の課題を整理すること。</p> <p>第2回：授業づくりと学習過程（これまでとこれから）、「体づくり運動」の指導事例と指導案作成作業</p> <p>予習：模擬授業をとおした実践的な学びとなるよう、学習指導案の形式を確認しておくこと 復習：授業で学んだことをとおして、自分が行う模擬指授業の学習指導案の形式について確認するとともに、模擬授業の実施に向けた課題を整理すること。</p> <p>第3回：「体づくり運動」の授業づくりと教材研究（指導案作成・発表、研究協議）</p> <p>予習：「体づくり運動」の指導の行い方について、自分なりの意見をまとめておくこと。 復習：授業で学んだことをとおして、「体づくり運動」の指導と評価についてまとめるとともに、模擬授業の成果と課題を整理すること。</p> <p>第4回：「陸上競技」の授業づくりと教材研究（指導案作成・発表、研究協議）</p>			

予習：「陸上競技」の指導の行い方について、自分なりの意見をまとめておくこと。

復習：授業で学んだことをとおして、「陸上競技」の指導と評価についてまとめるとともに、模擬授業の成果と課題を整理すること。

第5回：「器械運動」の授業づくりと教材研究（指導案作成・発表、研究協議）

予習：「器械運動」の指導の行い方について、自分なりの意見をまとめておくこと。

復習：授業で学んだことをとおして、「器械運動」の指導と評価についてまとめるとともに、模擬授業の成果と課題を整理すること。

第6回：「水泳」の授業づくりと教材研究（指導案作成・発表、研究協議）

予習：「水泳」の指導の行い方について、自分なりの意見をまとめておくこと。

復習：授業で学んだことをとおして、「水泳」の指導と評価についてまとめるとともに、模擬授業の成果と課題を整理すること。

第7回：「球技（ゴール型）」の授業づくりと教材研究（指導案作成・発表、研究協議）

予習：「球技（ゴール型）」の指導の行い方について、自分なりの意見をまとめておくこと。

復習：授業で学んだことをとおして、「球技（ゴール型）」の指導と評価についてまとめるとともに、模擬授業の成果と課題を整理すること。

第8回：「球技（ネット型）」の授業づくりと教材研究（指導案作成・発表、研究協議）

予習：「球技（ネット型）」の指導の行い方について、自分なりの意見をまとめておくこと。

復習：授業で学んだことをとおして、「球技（ネット型）」の指導と評価についてまとめるとともに、模擬授業の成果と課題を整理すること。

第9回：「球技（ベースボール型）」の授業づくりと教材研究（指導案作成・発表、研究協議）

予習：「球技（ベースボール型）」の指導の行い方について、自分なりの意見をまとめておくこと。

復習：授業で学んだことをとおして、「球技（ベースボール型）」の指導と評価についてまとめるとともに、模擬授業の成果と課題を整理すること。

第10回：「武道（柔道、剣道、その他の武道）」の授業づくりと教材研究（指導案作成・発表、研究協議）

予習：「武道」の指導の行い方について、自分なりの意見をまとめておくこと。

復習：授業で学んだことをとおして、「武道」の指導と評価についてまとめるとともに、模擬授業の成果と課題を整理すること。

第11回：「ダンス」の授業づくりと教材研究（指導案作成・発表、研究協議）

予習：「ダンス」の指導の行い方について、自分なりの意見をまとめておくこと。

復習：授業で学んだことをとおして、「ダンス」の指導と評価についてまとめるとともに、模擬授業の成果と課題を整理すること。

<p>第12回：「体育理論」の授業づくりと教材研究（指導案作成・発表、研究協議）</p> <p>予習：「体育理論」の指導の行い方について、自分なりの意見をまとめておくこと。</p> <p>復習：授業で学んだことをとおして、「体育理論」の指導と評価についてまとめるとともに、模擬授業の成果と課題を整理すること。</p> <p>第13回：「科目保健」の授業づくりと教材研究（指導案作成・発表、研究協議）</p> <p>予習：「科目保健」の指導の行い方について、自分なりの意見をまとめておくこと。</p> <p>復習：授業で学んだことをとおして、「科目保健」の指導と評価についてまとめるとともに、模擬授業の成果と課題を整理すること。</p> <p>第14回：高等学校保健体育科におけるよい授業の条件についての整理（ICTの活用法を含む）</p> <p>予習：高等学校保健体育科におけるよい授業の条件について、自分なりの考えをまとめておくこと。</p> <p>復習：授業で学んだことをとおして、高等学校保健体育科におけるよい授業の条件についてまとめるとともに、自己の課題を整理すること。</p> <p>第15回：まとめの授業内試験と学習指導案の提出</p> <p>予習：高等学校保健体育科の授業づくりのポイントについて、自分なりの考えをまとめておくこと。</p> <p>復習：授業で学んだことをとおして、教育実習までに身に付けたい力を整理すること。</p>
<p>テキスト</p> <p>なし</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>教科書：『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編・体育編』文部科学省（東山書房）</p> <p>教科書：高等学校検定教科書『現代高等保健体育』（大修館書店）</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>授業内試験／Exam(s) (35%)</p> <p>リアクションペーパー／Reaction Paper (35%)</p> <p>実習／Practical Training (30%)</p>

授業科目名： 道徳教育の理論と指導法	教員の免許状取得のための 必修科目（中学校） 選択科目（高等学校）	単位数： 2単位	担当教員名： 赤堀博行、藤澤美智子 担当形態：クラス分け・単独
科 目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（中学校）</li> <li>・大学が独自に設定する科目（高等学校）</li> </ul>		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法（中学校）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>授業のテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人格の基盤となる道徳性を養う道徳教育についての知見を広め、教師として具体的に道徳教育を行うことができるような指導力、授業力を養う。</li> <li>・学校の教育活動全体で行う道徳教育の特質、指導の指針となる諸計画の意義や作成方法、教育課程に位置付いている道徳科の特質、内容、指導方法などについて知見を広め、実際に授業が行えるような指導力を演習などを通して養う。</li> </ul> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育において道徳教育を推進することの根拠や意義、具体的な指導の在り方などを学習指導要領などに基づいて説明できる力を養う。</li> <li>・学級担任が行うことを原則としている道徳科の授業の特質を具体的に説明できた上で、その実際の学習指導案を立案し、授業を行えるような実践的な指導力を養う。</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校における道徳教育についての意義や変遷、原理等についての知見を広め、教師として具体的に道徳教育を行うことができるような指導力を高める。</li> <li>・学校の教育活動全体で行う道徳教育の特質、指導の指針となる全体計画の意義や作成方法、道徳科の年間指導計画についての基本的な考え方を演習などを通して理解する。</li> <li>・道徳科の特質、内容、指導方法などについて知見を広め、演習等を通して実際に授業が行えるような指導力を養う。</li> <li>・講義は、受講生が主体的に考えられるようにするために、個人の熟考を尊重するとともに、協働で学ぶ特質を生かし対話的な学びを導入する。</li> </ul>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：道徳教育の変遷：道徳教育を受けた経験を想起する。日本の道徳教育の変遷を概観し、教育活動全体を通じて道徳教育を推進する意義などを理解する。</p> <p>第2回：公教育としての道徳教育：道徳教育の根拠法令や、現代社会における道徳教育の課題を概観し、学習指導要領に示されている道徳教育の全体像を理解する。</p> <p>第3回：道徳教育の目標と内容：学習指導要領に示されている道徳科の目標及び内容を概観し、内容項</p>			

目ごとの関連や重点的な指導の在り方について理解する。

第4回：教育活動全体で行う道徳教育の実際：各教科等で行う道徳教育について理解し、子供の道徳性の発達などを踏まえて、道徳科以外の教科における道徳教育の計画を立案する。

第5回：教育活動全体で行う道徳教育の実際：各自が作成した教科における道徳教育の具体的な計画を交流し、道徳教育の理解を深める。

第6回：道徳科の特質：特別の教科道徳の目標を基に概観し、実際の授業で行うべき具体的な学習を理解する

第7回：道徳科で活用する教材：道徳授業で活用する教材の具備すべき要件についての理解を深め、「私たちの道徳」を基に読み物教材を中心に実際の教材について理解する。

第8回：道徳科における指導の工夫：児童生徒の主体的な学習を促す道徳科の指導方法を具体的に理解する。

第9回：道徳科の学習指導案の作成：示範授業を参観するとともに、道徳科の学習指導案の意義や内容について理解する。

第10回：授業マネジメント：授業を構想する際に必要な明確な指導観について理解し、主題設定の理由を作成する。

第11回：道徳科授業の学習指導過程：学習指導過程を構想して、各自が作成した学習指導案を交流し合うとともに、模擬授業を通して授業の基本的事項についての理解を深める

第12回：道徳科授業の実際：各自が作成した学習指導案を交流し合うとともに、模擬授業を通して授業の基本的事項についての理解を深める。（グループA）

第13回：道徳科授業の実際：各自が作成した学習指導案を交流し合うとともに、模擬授業を通して授業の基本的事項についての理解を深める。（グループB）

第14回：道徳教育の評価：道徳教育及び道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方についての理解を深める。

第15回：これまでの学習を基にして、道徳教育の現状と課題を明らかにし、道徳科の授業改善や道徳教育を推進する上での抱負をまとめる

#### テキスト

『「特別の教科道徳」で大切なこと』 赤堀博行 東洋館出版社 2017年

『中学校教師1年目のための道徳の基本』 赤堀博行 東洋館出版社 2023年

『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』 文部科学省

『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳編』 文部科学省

『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編』 文部科学省

#### 参考書・参考資料等

『小学校 考え、議論する道徳科授業の新展開 低・中・高学年』 東洋館出版社 2018年

『中学校「道徳科」評価と通知表記入』 赤堀博行 教育開発研究所 2019年

『道徳的価値の見方、考え方』 赤堀博行 東洋館出版社 2021年

『道徳教育キーワード辞典』 赤堀博行・日本道徳科教育学会 東洋館出版社 2021年

学生に対する評価

各回の授業で課される課題の提出（30%）、学習指導案の作成（40%）、模擬授業（30%）

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大串倫一 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・日本国憲法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>①日本国憲法に関する基礎知識や基本的な考え方を習得する。</p> <p>②日本国憲法に関する知識を他人に説明することができる。</p> <p>③現代の社会問題について日本国憲法の視点から分析し、自らの意見を述べるすることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、日本国憲法の基礎知識や基本的な考え方について学びます。それを通じて、現代における社会問題について法学（とりわけ日本国憲法）の視点から考える能力を養います。</p> <p>現代では、社会問題は複雑化しているとされます。社会問題は、法律問題としても取り扱われることも多いため、法学を学ぶことは現代において複雑化した社会問題を考えるきっかけを与えうるものです。そのなかでも、日本国憲法は、最高法規とされ、各法律の基本原則・価値を定めるものであり、また、人権問題は現代においても重要な社会問題に数えられることから、これを学ぶことは重要となります。</p> <p>本授業では、現代における社会問題について考えるにあたって、日本国憲法の視点から自ら調べ考えることができるようになることを目標とします。本授業では、日本国憲法が定める統治機構や基本的人権について基本的な学説・判例を素材として学びます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：ガイダンス：憲法を学ぶにあたって</p> <p>第2回：日本国憲法の歴史・基本原則</p> <p>第3回：国民主権・天皇制</p> <p>第4回：統治の基本原則</p> <p>第5回：統治機構①：国会</p> <p>第6回：統治機構②：内閣・地方自治</p> <p>第7回：統治機構③：裁判所</p> <p>第8回：平和主義</p> <p>第9回：基本的人権の保障</p> <p>第10回：法の下での平等①：総論</p> <p>第11回：法の下での平等②：憲法と家族</p> <p>第12回：精神的自由：表現の自由①：保障内容</p> <p>第13回：精神的自由：表現の自由②：制限と正当化</p> <p>第14回：経済的自由・社会権</p>			

第15回：まとめ・授業内試験
----------------

テキスト
------

中村睦男・佐々木雅寿・寺島壽一編著『はじめての憲法学〔第4版〕』（三省堂、2021年）
---

参考書・参考資料等
-----------

中村睦男・常本照樹・岩本一郎・齊藤正彰編著『教材憲法判例〔第5版〕』（北海道大学出版会、2020年）
--

学生に対する評価
----------

授業内試験／Exam(s) (70%)
---------------------

リアクションペーパー／Reaction Paper (30%)
---------------------------------

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：岡田聖貴 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・日本国憲法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(1) 立憲主義や個人の尊重といった憲法の基本的な考え方を理解する。</p> <p>(2) 日本国憲法の人権保障や権力分立のあり方を理解する。</p> <p>(3) 本授業で学んだ憲法の考え方をもとに、日常生活や現代社会の諸問題を検討できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義は、「日本国憲法」について学びます。日本国憲法はひとりひとりの個人の尊重を核として、その実現の為に基本的人権及び統治機構に関して定めています。具体的な憲法問題に関して、裁判所の判例や学説上の議論を紹介することを通じて、個人の尊重や立憲主義が何を意味するのかについて学びます。国会が制定する法律から、校則などのより身近なものまで様々なルールが存在しますが、なぜそのようなルールがあるのか、そうしたルールでよいのかということについて、考えられるようになってください。</p> <p>本授業を通じて、日本国憲法の基本的な考え方を理解し、日常生活や現代社会の諸問題を憲法の観点から検討し、論じることができるようになることを目指します。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション、近代立憲主義</p> <p>第2回：権力分立、人権の理念・歴史・特質、思想良心の自由</p> <p>第3回：違憲審査制</p> <p>第4回：表現の自由（総論）</p> <p>第5回：表現の自由（各論）・報道の自由・集会の自由</p> <p>第6回：表現の自由（現代的な諸問題）</p> <p>第7回：平等、婚姻・家族（総論）</p> <p>第8回：平等、婚姻・家族（各論）</p> <p>第9回：信教の自由・政教分離、幸福追求権</p> <p>第10回：人身の自由</p> <p>第11回：経済的自由、社会権</p> <p>第12回：国民主権・選挙</p> <p>第13回：国会・内閣</p> <p>第14回：裁判所、平和主義</p> <p>第15回：授業内試験および解説</p>			

## テキスト

駒村圭吾（編）『プレステップ憲法（第4版）』（弘文堂、2024年）

## 参考書・参考資料等

写真や図表を豊富に含む資料集として、斎藤一久・堀口悟郎（編）『図録 日本国憲法〔第2版〕』（弘文堂、2022年）

西原博史・斎藤一久（編）『教職課程のための憲法入門〔第3版〕』（弘文堂、2024年）

伝統的な教科書として、芦部信喜（著）高橋和之（補訂）『憲法〔第8版〕』（岩波書店、2023年）

法学の入門的な読み物として、木村草太『キヨミズ准教授の法学入門』（星海社、2012年）

## ・判例集

入門的な判例集として、上田健介・尾形健・片桐直人『憲法判例50!〔第3版〕』（有斐閣、2023年）

代表的な判例集として、長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿（編）『憲法判例百選Ⅰ、Ⅱ〔第7版〕』（有斐閣、2019年）

## 学生に対する評価

授業内試験／Exam(s) (60%)

小テスト／Quiz (40%)

授業科目名： スポーツ実技 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：緒方貴浩、佐賀 典生、木戸清孝、本郷仁吾、 藤田恵理、岩村聡、武井誠一 郎、福田敏克
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>種目の実践活動を通して、自身の身体と向き合い、その変化・向上を体感し、スポーツの文化的価値を享受することを目的とする。</p> <p>①種目を楽しむために必要な技術を身に付け、ゲーム等につなげることができる。</p> <p>②楽しむために自ら課題を発見し、課題解決及び向上のために活動を工夫することができる。</p> <p>③活動をより充実させるために、個人やチーム等の課題・役割を理解し、主体的に関わり、リーグ戦等のマネジメントをすることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>種目の特性を理解するとともに、基礎的な技術を習得し、ゲーム等を楽しむ。また、実践を通してスポーツの文化的価値（魅力）を享受できるように進め、生涯にわたってスポーツに親しむ態度を培う機会としたい。また、個人種目、集団種目に関わらず、受講者相互のコミュニケーションと協調性を大切にし、活動（相互学習）、ゲーム、ルールの工夫等を通して、自分自身や仲間の課題を解決することができる授業を考えている。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（授業の進め方、到達目標の確認と評価方法、準備するもの等の確認）</p> <p>第2回：種目特性（構造）の理解と基本的な技術の学修</p> <p>第3回：基本的技術の復習及びグループ（チーム）づくり</p> <p>第4回：グループ活動を通じた基本的技術の確認（相互学習）</p> <p>第5回：ルールの理解・確認及び試しのゲームによるグループ課題の明確化</p> <p>第6回：個人の技術的課題解決に向けたグループ内活動（練習）</p> <p>第7回：基礎的技術を用いたゲームの実践</p> <p>第8回：グループ改編と応用的技術の修得</p> <p>第9回：応用的技術を用いたゲームの実践</p> <p>第10回：グループの課題（連携等）解決に向けた練習</p> <p>第11回：グループ内でゲームを楽しむ</p> <p>第12回：ルールの工夫と共有、他グループとゲームを楽しむ</p> <p>第13回：ゲーム等の企画（準備）とその運営（実践）</p>			

第14回：総括的ゲーム

第15回：総括（これまでの学習を振り返る）

テキスト

授業内で適宜資料配布する。

参考書・参考資料等

参考図書や動画等は授業内で適宜紹介する。

学生に対する評価

主体的な参加・参画（関心・意欲）（10%）

知識（各技術及びルール）（10%）

技能の向上（課題の設定及びその解決に向けた取り組み）（30%）

実技（40%）

安全に対する態度（10%）

授業科目名： スポーツ実技Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：緒方貴浩、佐賀 典生、木戸清孝、本郷仁吾、 藤田恵理、岩村聡、武井誠一 郎、福田敏克 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・ 体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>運動・スポーツの継続的活動を通して、自身の身体の変化とともにスポーツの楽しさ（本質）について実践を通して再認識し、スポーツの文化的価値を享受することを目的とする。</p> <p>①種目を楽しむために必要な技術を身に付け、ゲーム等につなげることができる。</p> <p>②楽しむために自ら課題を発見し、課題解決及び向上のために活動を工夫することができる。</p> <p>③活動をより充実させるために、個人やチーム等の課題・役割を理解し、主体的に関わり、ゲーム等をマネジメントすることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>種目の特性を理解するとともに、応用的技術を含む個人及び集団の技能を確認し、ゲーム等を楽しむ。また、実践を通してスポーツの文化的価値（魅力）を享受できるように進め、生涯にわたってスポーツに親しむ態度を培う機会としたい。また、個人種目、集団種目に関わらず、受講者相互のコミュニケーションと協調性を大切にし、活動（相互学習）、ゲーム、ルールの工夫等を通して、自分自身や仲間の課題を解決することができる授業を考えている。スポーツ実技Ⅱにおいては特に、チーム戦術・戦略等についても検討する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション（授業の進め方、到達目標の確認と評価方法、準備するもの等の確認）。</p> <p>第2回：種目特性（構造）の理解と基本的な技術の確認と個人課題の明確化</p> <p>第3回：グループ（チーム）づくりと基本的技術の確認（相互学習）</p> <p>第4回：ルールの理解・確認及び試しのゲーム等によるグループ課題の明確化</p> <p>第5回：グループ内でのゲーム等を通じた修正活動（練習）</p> <p>第6回：ゲームを通じた審判活動の実践（審判法の理解）</p> <p>第7回：グループ対抗によるゲームを楽しむ</p> <p>第8回：グループ改編とグループ課題の明確化</p> <p>第9回：ゲームの実践を通して、より楽しむためのルールの工夫・改善点の創出</p> <p>第10回：ルールの工夫・改善点と実施に向けたすり合わせ、新ルール下でのゲーム実践</p> <p>第11回：対戦相手を固定して、戦略・戦術を検討（自チームの強み・弱みの分析）</p>			

第12回：戦略・戦術を生かしたゲーム実践

第13回：ゲーム等の企画（準備）とその運営（実践）

第14回：総括的ゲーム

第15回：総括（これまでの学習を振り返る）

テキスト

授業内で適宜資料配布する

参考書・参考資料等

参考図書や動画等は授業内で適宜紹介する。

学生に対する評価

主体的な参加・参画（関心・意欲）（10%）

知識（各技術及びルール）（10%）

技能の向上（課題の設定及びその解決に向けた取り組み）（30%）

実技（40%）

安全に対する態度（10%）

授業科目名： 現代英語Ⅲ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 桑原真弓、阪井美代子、下山 雅枝、後藤丈夫
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>今までに培った文法力、語彙力を基に、英語の4技能（聞く、読む、話す、書く）を向上させることを目標とするが、担当教員によっては4技能のうちの1つあるいは2つの能力を集中的に伸ばすことに重点を置くことで、他の能力も伸ばす方法をとることもある。</p> <p>具体的には、日常生活での話題を理解し、実用的な文章から必要な情報を読みとったり、日常生活での出来事を伝えたり、まとめて文章にしたりできる能力を養う。</p> <p>また、国際語としての英語を学ぶのであるから、国際情勢に関心を持ち、異文化理解を深めることも目標とする。</p> <p>まとまりのある説明文・天気予報などを理解できる。印象に残ったことについて話したり書いたりできる。自分が読んだ本や観た映画について、自分の感想を話したり、書いたりすることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>帝京大学の1・2年生の英語科目では、本学の指針である「実学」「国際性」の精神にふさわしく、「実用的な英語の運用能力を高めていくこと」を目的とする。各々の学生のレベルに応じて、現代社会を生き抜く基盤ともなる英語の基礎力の養成・定着に加えて、リスニングとスピーキングを重視し、日常的な感覚を総動員した英語習得を目指す。学生の将来のキャリア形成に直接役立つよう、各種英語資格検定試験にも積極的に対応する。</p> <p>英語の運用能力の展開。</p> <p>描写の文を理解し、発信する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：Introduction &amp; Fake Online Reviews（その口コミは本物？）Reading</p> <p>第2回：Fake Online Reviews（その口コミは本物？）Listening, Speaking &amp; Writing</p> <p>第3回：Could I Become a YouTuber?（憧れのYouTuberになる条件）Reading</p> <p>第4回：Could I Become a YouTuber?（憧れのYouTuberになる条件）Listening, Speaking &amp; Writing</p> <p>第5回：Selling Viral Videos Makes Big Money（口コミ動画で大金ゲット？）Reading （小テスト 第1回～第4回の語彙等）</p>			

<p>第6回 : Selling Viral Videos Makes Big Money (ロコミ動画で大金ゲット?) Listening, Speaking &amp; Writing</p> <p>第7回 : Retro Video Games Become Popular Again (脚光を浴びる懐かしのビデオゲーム) Reading</p> <p>第8回 : Retro Video Games Become Popular Again (脚光を浴びる懐かしのビデオゲーム) Listening, Speaking &amp; Writing</p> <p>第9回 : Why Don't We Ask Siri? (なんで Siri に聞かないの?) Reading (小テスト 第5回~第8回の語彙等)</p> <p>第10回 : Why Don't We Ask Siri? (なんで Siri に聞かないの?) Listening, Speaking &amp; Writing</p> <p>第11回 : Uncanny Valley (ロボットが越えなければならない「不気味の谷」) Reading</p> <p>第12回 : Uncanny Valley (ロボットが越えなければならない「不気味の谷」) Listening, Speaking &amp; Writing</p> <p>第13回 : Toddlers and Technology (幼児にスマホを与えても大丈夫?) Reading (小テスト 第9回~第12回の語彙等)</p> <p>第14回 : Toddlers and Technology (幼児にスマホを与えても大丈夫?) Listening, Speaking &amp; Writing</p> <p>第15回 : 授業内試験とまとめ</p>
<p>テキスト</p> <p>・Jonathan Lynch・委文光太郎 『Trend Watching 2 もっと知りたい! 社会のいま 2』 (成美堂), 2018年</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>特になし</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>積極的な授業参加と課題 (例、ペアワークの参加度) (10%)、小テスト (40%)、授業内試験 (50%) で総合的に評価する。</p>

授業科目名： 現代英語Ⅳ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 桑原真弓、阪井美代子、下山 雅枝、後藤丈夫 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>今までに培った文法力、語彙力を基に、英語の4技能（聞く、読む、話す、書く）を向上させることを目標とするが、担当教員によっては4技能のうちの1つあるいは2つの能力を集中的に伸ばすことに重点を置くことで、他の能力も伸ばす方法をとることもある。</p> <p>具体的には、日常生活での話題を理解し、実用的な文章から必要な情報を読みとったり、日常生活での出来事を伝えたり、まとめて文章にしたりできる能力を養う。</p> <p>また、国際語としての英語を学ぶのであるから、国際情勢に関心を持ち、異文化理解を深めることも目標とする。</p> <p>日常的なこと・身近なことについて対話でき、自分について話したり書いたりできるようになる（自己紹介ができる）。簡単な説明文、アナウンス、道案内が理解できるようになる。約束をしたり、電話で応対したりすることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>帝京大学の1・2年生の英語科目では、本学の指針である「実学」「国際性」の精神にふさわしく、「実用的な英語の運用能力を高めていくこと」を目的とする。各々の学生のレベルに応じて、現代社会を生き抜く基盤ともなる英語の基礎力の養成・定着に加えて、リスニングとスピーキングを重視し、日常的な感覚を総動員した英語習得を目指す。学生の将来のキャリア形成に直接役立つよう、各種英語資格検定試験にも積極的に対応する。</p> <p>英語に親しみ、英語学習の楽しさを再確認。 対話文を通して基礎的事項を再確認する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：Introduction &amp; Waiting in Line for Delicious New Food（おいしいものは並んでも食べたい） Reading</p> <p>第2回：Waiting in Line for Delicious New Food（おいしいものは並んでも食べたい） Listening, Speaking &amp; Writing</p> <p>第3回：Sympathy for the Delivery Man（宅配ドライバーに愛の手を） Reading</p> <p>第4回：Sympathy for the Delivery Man（宅配ドライバーに愛の手を） Listening, Speaking &amp; Writing</p>			

<p>第5回 : Black Friday (ブラックフライデーは買い物に行こう!) Reading (小テスト 第1回~第4回の語彙等)</p> <p>第6回 : Black Friday (ブラックフライデーは買い物に行こう!) Listening, Speaking &amp; Writing</p> <p>第7回 : Aspects of Sneaker Culture (スニーカー人気の秘密) Reading</p> <p>第8回 : Aspects of Sneaker Culture (スニーカー人気の秘密) Listening, Speaking &amp; Writing</p> <p>第9回 : The Union Jack as Fashion Symbol (ファッション業界注目のユニオンジャック) Reading</p> <p>第10回 : The Union Jack as Fashion Symbol (ファッション業界注目のユニオンジャック) Listening, Speaking &amp; Writing (小テスト 第5回~第8回の語彙等)</p> <p>第11回 : Stress Relief (お薦めのストレス解消グッズ) Reading</p> <p>第12回 : Stress Relief (お薦めのストレス解消グッズ) Listening, Speaking &amp; Writing</p> <p>第13回 : Young People and Criticism (批判を恐れる若者たち) Reading</p> <p>第14回 : Young People and Criticism (批判を恐れる若者たち) Listening, Speaking &amp; Writing</p> <p>第15回 : 授業内試験とまとめ</p>
<p>テキスト</p> <p>・ Jonathan Lynch・委文光太郎 『Trend Watching 2 もっと知りたい! 社会のいま 2』 (成美堂) , 2018年</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>特になし</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>積極的な授業参加と課題 (例、ペアワークの参加度) (10%)、小テスト (35%)、授業内試験 (55%) で総合的に評価する。</p>

授業科目名： 教育情報リテラシー	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 朴偉廷、松波紀幸、荒巻恵子 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	・数理、データ活用及び人工知能に関する科目 又は 情報機器の操作		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>文部科学省「教員のICT活用指導力の基準（チェックリスト）（平成30年6月改訂）」に記載された内容について、5つの項目・18の質問全てについて「3：ややできる」以上の自己評価ができることを目標とします。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学校教育に焦点化し、履修者が将来教職に就いた時にICT運用スキル・考え方・生徒に対する指導力を身に付けることが主目的であり、実践的に役に立つICT活用能力の育成を目指します。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、GIGA スクール構想時代の新しい学び</p> <p>第2回：ICT 環境の整備とICT 活用のいろいろ</p> <p>第3回：メールの使い方に習熟しよう</p> <p>第4回：Word の活用基礎編 基本操作（ページ設定、レイアウトなど）ファイルと文書保存など</p> <p>第5回：Word の活用応用編 表作成、画像の取り入れ、学級だより、保護者宛て文書作成など</p> <p>第6回：Excel の基礎編（校務中心） 学校現場でのExcel活用実践例、表の作成、時間割の作成など</p> <p>第7回：Excel の活用応用編 学校現場でのExcel活用実践例（表計算、データ処理系）、テスト結果一覧の作成、データ並べ替え、グラフを作成など</p> <p>第8回：Word・Excel まとめ Excel・Wordスキルを使った学校校務文書の作成、操作スキルの確認など</p> <p>第9回：学びのための情報検索</p> <p>第10回：ネット社会とモラル</p> <p>第11回：PowerPoint の基礎編 張り紙・ポスターの作成</p> <p>第12回：PowerPoint の応用編 授業説明スライドの作成とプレゼンテーション</p> <p>第13回：PowerPoint を使ったプレゼンテーションの実践</p>			

第14回：ICT を利用した模擬授業を考えてみよう

第15回：教育上困難を有する児童生徒へのICT

テキスト

教師をめざす学生のための教育情報リテラシー15日間（パートⅢ） 現代図書

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

その他／Others（50%）

小テスト／Quiz（50%）

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 村松灯 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>(1) 教育の基本的概念</p> <p>①教育学の諸概念並びに教育の本質および目標を理解している。</p> <p>②子ども、教師、家庭、学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係を理解している。</p> <p>(2) 教育に関する歴史</p> <p>①家族と社会による教育の歴史を理解している。</p> <p>②近代教育制度の成立と展開を理解している。</p> <p>③現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解している。</p> <p>(3) 教育に関する思想</p> <p>①家庭や子どもに関わる教育の思想を理解している。</p> <p>②学校や学習に関わる教育の思想を理解している。</p> <p>③代表的な教育家の思想を理解している。</p>			
授業の概要			
<p>教職に関わる基本的概念・基礎的知識について理解を深めていく。「教育とは何か」「教育には何ができるのか/できないのか」といった根本的な問題について、教育学研究の知見に基づきながら、学生自身が考察を深めることを目的としている。より端的にいえば、「教育を見る眼」を養うことをねらいとしている。とりわけ、以下の三点を主眼として、授業をすすめていく。</p> <p>(1) 教育の基本的概念</p> <p>教育の基本的概念を身につけるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。</p> <p>(2) 教育に関する歴史</p> <p>教育の歴史に関する基礎的知識を身につけ、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育および学校の変遷を理解する。</p> <p>(3) 教育に関する思想</p> <p>教育に関するさまざまな思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育および学校との関わりを理解する。</p>			
授業計画			
<p>第1回：イントロダクション～自分の「教育観」を見つめる～人はなぜ教え・学ぶのか～</p> <p>第2回：教育学を学ぶ意味 教育の「常識」を問い直す～「しつけ」と学校教育のちがいは～</p> <p>第3回：家庭・社会における学びの文化と思想</p>			

第4回：学校とはどのような場所か（その1）～学校以前から、近代学校の成立まで～  
 第5回：学校とはどのような場所か（その2）～近代教育制度の成立と展開～  
 第6回：教育の公的役割を考える（その1）～なぜ学校へ行くのか～  
 第7回：教育の公的役割を考える（その2）～公教育制度の歴史的意味～  
 第8回：「そもそも、なぜ勉強するのか」を考える  
 第9回：教育の古典をよむ（その1）～「無知の知」とは～  
 第10回：教育の古典をよむ（その2）～「子どもの発見」～  
 第11回：教育の古典をよむ（その3）～経験主義の教育原理～  
 第12回：教育の古典をよむ（その4）～「脱学校」という考え方～  
 第13回：現代の教育課題をとらえ直す（その1）～貧困・格差と教育～  
 第14回：現代の教育課題をとらえ直す（その2）～教師が抱える問題～  
 第15回：全体のふり返り・まとめと評価～教育はどうあるべきか～  
 定期試験

テキスト

汐見稔幸ほか編著『よくわかる教育原理』ミネルヴァ書房、2011年

参考書・参考資料等

- ・田嶋一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二『やさしい教育原理 新訂増補版』有斐閣アルマ、2011年
- ・筒井美紀・遠藤野ゆり『教育を原理する——自己に立ち返る学び』法政大学出版局、2013年

学生に対する評価

「授業参加度」＝各回リアクション・ペーパーの提出（30%）、課題レポート（20%）、および定期試験（50%）の成績に基づき、総合的に判断する。

授業科目名： 教職論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 山田茂利、佐藤晴雄、安部 恭子、増渕達夫、建部豊 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>(1) 教職について関心をもち、教職の意義、教師の役割、職務内容、研修等、基礎的・基本的な事項について、積極的に調べ、考え、表現することができる。</p> <p>(2) 自己の資質向上に努めるとともに、能力・適性について洞察を深め、教職への理解、目的意識、学習意欲の有無を自らに問い、教職課程履修の継続を責任を持って判断することができる。</p> <p>(3) 教職志望の目的や理由、目標達成を目指す教職課程修得への決意や学修計画について、筋道を立てて分かりやすい文章で説明できる。</p>			
授業の概要			
<p>本授業は、教職に関する関心を高め、基礎的な理解を深めるとともに、自己の適性について洞察し、教職に対する態度形成を図り、自分は教職課程の履修を続けるべきかどうかを的確に判断できる力をつけることを目指している。</p> <p>そのため、学校教育と教職の意義、教師の役割、職務内容、研修等について、その歴史、理念、制度、実態などから多角的多面的に探究していく。また、これらの学修を通して客観的に自分を見つめ、自己分析、自己理解を進め、教職への適性を把握し、これからの課題の明確化を図る。</p>			
授業計画			
第1回：オリエンテーション、自己分析			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業の目標、内容、進め方、成績評価について理解する。</li> <li>・ 進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職の職業的特徴を考察する。</li> <li>・ 自己分析（経験を振り返り、長所・短所を明らかにする。）</li> </ul>			
第2回：教職とはなにか（なぜ教職を目指すのかについて考察する。）			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教職の魅力、教師の生きがい、期待される教師像について考え、目指す教師像を明らかにする。</li> <li>・ 公教育の目的とその担い手である教員の存在意義を考察する。</li> <li>・ 自己の教師としての適性を考察する。</li> </ul>			
第3回：学校教育の歴史（学習指導要領改訂の背景）と教育問題（1）			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 我が国における学校教育の変遷と社会の変化を概観する。</li> </ul>			

第4回：学校教育の歴史（学習指導要領改訂の背景）と教育問題（2）

- ・教育問題を探求するとともに学習指導要領改訂の背景を考察する。

第5回：学校教育の歴史（学習指導要領改訂の背景）と教育問題（3）

- ・教職観の変遷を踏まえ、今日の教員に求められる役割を理解する。

第6回：教員の職務（教員に求められる力）（1）「学校運営・組織貢献」

- ・学校運営とは何かを理解し、校務分掌組織から、教師の協働を考察する。
- ・校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解する。

第7回：教員の職務（教員に求められる力）（2）「学習指導①」

- ・指導と評価の一体化について理解する。

第8回：教員の職務（教員に求められる力）（3）「学習指導②」

- ・教科等指導に関するグループワークを通して、「学習指導力」について考察する。

第9回：教員の職務（教員に求められる力）（4）「生徒指導」

- ・生徒指導に関する事例を調査・考察し、「生徒指導」について理解する。

第10回：教員の職務（教員に求められる力）（5）「外部との連携・折衝」

- ・外部との連携・折衝に関する事例を調査・考察し、「外部との連携・折衝」について理解する。

第11回：教育課題（1）「人権教育の推進」

- ・人権教育に係る教育活動等について調査・考察することで、教員の職務及び教員研修の意義を理解する。

第12回：教育課題（2）「心の教育の推進」

- ・心の教育の推進に係る教育活動等について調査・考察することで、教員の職務及び教員研修の意義を理解する。

第13回：教育課題（3）「安全教育」

- ・安全教育に係る教育活動等を調査・考察することで、教員の職務及び教員研修の意義を理解する。

第14回：教育課題（4）「特別支援教育」

- ・特別支援教育に係る教育活動等を調査・考察することで、教員の職務及び教員研修の意義を理解する。

第15回：まとめ「教育課程と学校評価、教員の身分と服務、教師になることをめざして」

- ・教育課程（カリキュラム・マネジメントを含む）と学校評価について理解する。
- ・教員の任免、服務規律について理解する。
- ・分限と懲戒について理解する。
- ・教職論での学修を踏まえて「いま、求められる教師」と「教職の課題」について考察する

テキスト

共通のテキストは使用しない。

参考書・参考資料等

『小学校学習指導要領（平成29年告示）』文部科学省

『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』文部科学省

『中学校学習指導要領（平成29年告示）』文部科学省

『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総則編』文部科学省

『高等学校学習指導要領（平成30年告示）』文部科学省

『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編』文部科学省

学生に対する評価

レポート（30%）、プレゼンテーション（15%）、グループワーク（15%）、リアクションペーパー（30%）、発言、応答（10%）

授業科目名： 教育の制度と経営	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小入羽秀敬
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>【授業のテーマ】本授業では、学校教育をめぐる制度および経営について様々なトピックから幅広く学び、歴史的な視点も取り入れることで現在の学校教育をめぐる制度や経営のあり方がどのように変化してきたのかを理解できるようにすることを目的とする。</p> <p>【到達目標】以下の3点について理解をし、口頭・文章にて説明ができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育をめぐる法律および制度の概要</li> <li>・現在の教育改革の概要と課題</li> <li>・学校教育の経営についての現状と学校が直面している課題</li> </ul>			
<p>授業の概要</p> <p>制度は学校教育を形作るマクロ的な視点が求められる。就学前教育から高等教育までを含んだ日本における学校教育制度がどのように形成され、運用されているのかについて学ぶ。経営は教育委員会や学校によるミクロレベルの営みである。制度的な制約の中で、教育委員会や学校がどのように学校教育経営を行っているのかを学ぶ。授業は講義形式が主だが、出席管理を兼ねたコメントペーパーの提出等、書く作業が多く求められる。また、授業の前半で講義の内容に関係したディスカッションを実施する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：なぜ制度と経営を学ぶのか</p> <p>第2回：教員行政：教員養成と採用後の教員をめぐる制度と諸課題</p> <p>第3回：就学前教育と幼稚園・保育所・認定こども園</p> <p>第4回：初等中等教育行政と学校（1）：学校制度の成立と展開</p> <p>第5回：初等中等教育行政と学校（2）：義務教育学校と中等教育学校</p> <p>第6回：高等教育・私立学校行政と学校：法人をめぐる諸改革</p> <p>第7回：特別支援教育と学校・学校外教育（1）：特別支援教育</p> <p>第8回：特別支援教育と学校・学校外教育（2）：学校外教育</p> <p>第9回：中間まとめ：行政と制度の関係について考える</p> <p>第10回：教育委員会と学校：公立学校の管理・運営</p> <p>第11回：学校と外部環境：学校と地域の連携・コミュニティスクール</p> <p>第12回：学校安全：学校事故と自然災害</p>			

第13回：地方教育行政：教育委員会制度の成立と展開

第14回：地方教育政治：教育と政治の関わり

第15回：授業内試験とまとめ

テキスト

青木栄一編著『教育制度を支える教育行政』ミネルヴァ書房、2019年

参考書・参考資料等

授業内で必要に応じて適宜紹介する

学生に対する評価

各授業回のコメントペーパー課題（30%）、授業内試験（70%）

授業科目名： 心身の発達と学習過程	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 平沼晶子、安永正史
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、教員として必要とされる基礎的な知識を習得し、得られた知識に基づいて幼児、児童及び生徒の主体的な活動を支える指導を考えることができるようになる。</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生涯にわたる変化という視点から幼児、児童及び生徒の心身の発達過程を捉えることができる。</li> <li>2. 乳幼児期から青年期の発達について、運動発達・言語発達・認知発達・社会性などの諸側面における具体的な内容を理解している。</li> <li>3. 幼児、児童及び生徒の心身の発達を踏まえて、主体的な学習活動を支える指導について考えることができる。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>教育を行うためには、その対象である子どもがどのような発達過程をたどっていくのか、また、学習はどのような過程を経て進むのかについて理解する必要がある。本授業では、まず乳幼児期から青年期に至る心身の発達を中心に基礎的知識を習得する。次に、発達の特性に連関付けて幼児、児童及び生徒の主体的学習を支える指導について考えられるようになることを目指す。そこでは、発達および学習に関する代表的な理論を踏まえながら、保育・教育現場における実践例を通して理論と実践のつながりについて理解を深めていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：発達とは何か 生涯発達という視点から発達を理解し、発達を規定する要因について学ぶ</p> <p>第2回：乳児期の発達の特徴 心理学の実験や観察により明らかにされた乳児の発達の特性と能力について理解する</p> <p>第3回：運動能力の発達 運動機能の発達の道筋を理解する</p> <p>第4回：愛着の発達 人との関わりの中で育つ愛着（アタッチメント）の重要性について理解する</p> <p>第5回：自己と情動の発達 発達心理学の代表的理論を踏まえ、自己および情動の発達について理解する</p>			

第6回：言葉とコミュニケーションの発達

前言語期から始まる言葉の発達の道筋を学び、言葉がもつ機能を理解する

第7回：認知の発達

心理学の代表的理論を踏まえ、認知の発達について理解する

第8回：社会性の発達

仲間関係や他者理解について、幼児期、児童期、思春期へと変化する社会性の発達を理解する

第9回：学習理論

代表的な学習理論について学び、それらを応用する力を身に付ける

第10回：主体的学習を支える指導の基礎

認知機能の発達と学習活動との関連について理解する

第11回：心身の障害と発達支援

発達面で配慮を必要とする子どもへの支援と周囲の関わりについて学ぶ

第12回：思春期・青年期の発達と学習

自立と依存の葛藤など、アイデンティティの形成に向けた課題について理解する

第13回：青年期の発達課題に関する事例検討

アイデンティティの達成を困難にさせる社会問題について事例を通して考える

第14回：生涯発達と学習

生涯発達の視点に立ち、幼児期から青年期に至る心身の発達と学習過程について本授業での学びを振り返る

第15回：総括（授業内試験と解説）

本授業における学習内容を整理して、心身の発達を踏まえた主体的な学習活動を支える指導の基礎となる考え方について理解を深める

テキスト：青木紀久代編『実践・発達心理学』第2版（みらい、2017）

参考書・参考資料等

授業内で適宜資料を配布する。

学生に対する評価

授業内試験（50%）、小テスト（40%）、レポート（10%）

授業科目名： 特別支援教育基礎論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 金森克浩、大井雅博、中村晋 担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>(1) 通常の学級に学ぶ発達障害を含む特別の支援を要する幼児・児童・生徒の特性並びに心身の発達を説明する。</p> <p>1) インクルーシブ教育システムの理念を含めた特別支援教育に関する制度及び法令の内容を説明できる。</p> <p>2) 発達障害を含む特別の支援を要する幼児・児童・生徒の障害並びにそれを伴う特性を例示することができる。</p> <p>3) 発達障害を含む特別の支援を要する幼児・児童・生徒の心身の運動発達、言語発達、認知発達、社会性の発達を基に心理的特性並びに学習の過程を説明することができる。</p> <p>(2) 通常の学級に学ぶ発達障害を含む特別な支援を要する幼児・児童・生徒に対する教育課程並びに教育的支援の方法を説明する。</p> <p>1) 発達障害及び軽度知的障害をはじめとして、通常の学級における支援及び特別支援学校等に学ぶ幼児・児童・生徒の視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、及び病弱の各障害において特別な支援の方法を例示することができる。</p> <p>2) 「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置付け並びに内容を説明する。</p> <p>3) 特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえて、「個別の指導計画」及び「個別の教育支援計画」を作成する意義並びに方法を説明する。</p> <p>4) 特別支援教育コーディネーター、関係機関及び家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性を説明する。</p> <p>(3) 障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児・児童・生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を説明する。</p> <p>1) 母国語や貧困及び虐待の問題等による特別な教育的ニーズのある幼児・児童・生徒に関する実態把握の方法並びに組織的な対応の必要性を説明する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>インクルーシブ教育システムの理念を基本におき、学習上又は生活上の困難のある幼児・児童・生徒一人一人が、学ぶ場の如何に関わらず授業や学習活動に参加している実感及び達成感を持ちながら学び、生きる力を身につけていくことができるよう、幼児・児童・生徒の学習上又は生活上の困難性を理解する。</p> <p>その上で個別の教育的ニーズに対して、他の教員及び関係機関と連携しながら組織的対応し</p>			

ていくために必要な知識及び支援方法を理解できるよう、理論的背景だけではなく、特別支援教育の実態を紹介することで、様々な指導事例を基に支援のあり方を学ぶ。

#### 授業計画

##### 第1回：

特別支援教育の制度（1）

特殊教育から特別支援教育への転換の歴史

「特別支援教育の推進について（通知）」

特別支援教育の理念、校内体制、教員の役割・職務、研修及び専門性の向上、関連機関との連携

##### 第2回：

特別支援教育の制度（2）

特別支援教育に関する法令等

学校教育法、学校教育法施行令、学校教育法施行規則、各学習指導要領等

##### 第3回：

5障害（視覚、聴覚、知的、肢体不自由、病弱）の理解

5障害（視覚、聴覚、知的、肢体不自由、病弱）の概念と定義

各障害による学習上・生活上の困難と教育的対応の実際

##### 第4回：

発達障害の理解（1）

発達障害のある幼児・児童・生徒の概念と定義及び行動特性・心理特性と二次障害

##### 第5回：

発達障害の理解（2）

発達障害のある幼児・児童・生徒の学習過程の特性と教育的対応（合理的配慮）

##### 第6回：

障害のある幼児・児童・生徒の教育課程の編成

障害のある幼児・児童・生徒への対応と特別の教育課程

「通級による指導」「自立活動」の教育課程の位置付け

##### 第7回：

障害のある幼児・児童・生徒の「個別の指導計画」の作成（1）

通常の学級における実態把握とその方法

認知的特性と環境のアセスメント及び合理的配慮

##### 第8回：

障害のある幼児・児童・生徒の「個別の指導計画」の作成（2）

通常学級における目標設定と教育内容及び「個別の指導計画」の作成例

##### 第9回：

障害のある幼児・児童・生徒の「個別の指導計画」の作成（3）

「特別支援学級」「通級指導教室」の教育課程と学習活動の展開

第10回：

障害のある幼児・児童・生徒の「個別の指導計画」の作成（4）

評価と指導計画のあり方と配慮点

第11回：

障害のある幼児・児童・生徒の「個別の教育支援計画」の作成

本人、保護者の自己選択・自己決定の重視

学校と関係機関との連携と特別支援コーディネーターの役割

第12回：

障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児・児童・生徒の実態と支援（1）

障害はないが特別な教育的ニーズのある子どもとは（グループ討議）

子どもたちの相互理解と「交流及び共同学習」の意義

第13回：

障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児・児童・生徒の実態と支援（2）

学校生活への適応が困難な帰国子女や外国籍の幼児・児童・生徒の心理的特性と支援

第14回：

障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児・児童・生徒の実態と支援（3）

不登校、学齢を経過した者及び貧困や虐待など家庭環境に問題のある幼児・児童・生徒の学習支援

第15回：

まとめと授業内試験 教員・社会人・保護者としての特別支援教育との関わり

テキスト

なし

参考書・参考資料等

幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）

幼稚園教育要領解説（平成30年2月 文部科学省）

小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

小学校学習指導要領解説総則編（平成29年7月 文部科学省）

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領解説総則編（平成29年7月 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説総則編（平成30年7月 文部科学省）

特別支援学校学習指導要領（平成29年4月 文部科学省）

障害のある子供の教育支援の手引（令和3年6月 文部科学省）

『特別支援教育（アクティベート教育学）』（汐見稔幸・奈須正裕監修、廣瀬由美子・石塚謙二編著、ミネルヴァ書房、2019年）

学生に対する評価

授業内試験 (50%)

レポート (10%)

小テスト (10%)

リアクションペーパー (30%)

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐藤晴雄
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>各学校において編成される教育課程が学習指導要領に基づくこと、また教育課程の意義と編成方法などを理解するとともに、カリキュラム・マネジメントなど教育改革の動向をおさえながら、その意義と編成について理解する。その到達目標は以下のとおりである。</p> <p>①教育課程編成の意義と学習指導要領とを関係づけられる。</p> <p>②学習指導要領の意義と変遷過程を理解する。</p> <p>③「社会に開かれた教育課程」やカリキュラム・マネジメントなどの教育課程の改革動向を説明できる。</p> <p>④教育評価と教育課程との関係づけを理解する。</p> <p>⑤児童・生徒や学校と地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、学校が編成する総合的な教育計画である教育課程の意義と実際を理解し、学校現場の視点からその編成の在り方をカリキュラム・マネジメントの視点から理解できるようにする。そこで、教育課程の全国的基準である学習指導要領の意義と変遷を取り上げ、教育課程編成の方法、教育課程と各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間などの取り扱いも理解できるよう視聴覚機器等も用いて解説する。この学習指導要領に基づいて、各学校では自校と生徒・地域の実態に応じて独自の教育課程を編成していることから、特色ある学校の取組について取り上げていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業の目的と計画・進め方—教育課程とは何か—</p> <p>第2回：教育課程の意義と編成原理—教育課程の意義、編成原理、基本的知識を学ぶ—</p> <p>第3回：学習指導要領と教育課程(1)—戦後の誕生からの変遷を学ぶ—</p> <p>第4回：学習指導要領と教育課程(2)—最新の学習指導要領の要点について学ぶ—</p> <p>第5回：教育評価と教育課程—教育評価の意義を学んで理解する—</p> <p>第6回：カリキュラム・マネジメントとは何か—その意味と実際を学ぶ—</p> <p>第7回：持続可能な開発のための教育と教育課程—ESDの視点に立つ教育課程の在り方を学ぶ—</p> <p>第8回：教科教育と教育課程—各教科の指導計画と教育課程の関係について学ぶ—</p> <p>第9回：道徳教育と教育課程—教育課程における特別の教科「道徳」と道徳教育の位置付けについて学</p>			

ぶー

第10回：外国語活動・外国語科と教育課程－教育課程における外国語の位置付けを学ぶ－

第11回：総合的な学習の時間・総合的な探究の時間－教育課程における「総合」「探究」の位置付けを理解する－

第12回：特別活動と教育課程－教育課程における特活の位置付けを理解する－

第13回：特別支援教育と教育課程－特別支援教育の教育課程の要点をつかむようにする－

第14回：諸外国の教育課程－各国の特徴を理解する－

第15回：社会に開かれた教育課程、授業内試験－解説を含む

テキスト

木村裕・古田薫『教育課程論・教育評価論』ミネルヴァ書房、2020年

参考書・参考資料等

文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編（平成29年告示）』

文部科学省『中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年告示）』

文部科学省『高等学校学習指導要領解説 総則編（平成30年告示）』

佐藤晴雄『現代教育概論－第6次改訂版－』学陽書房、2024年

学生に対する評価

授業内試験（70%）、レポート（10%）、発言、応答（20%）

授業科目名： 総合的な学習の時間および特別活動の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 安部恭子、佐野匡 担当形態：クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習の時間の指導法（小学校、中学校、養護） 総合的な探求の時間の指導法（高等学校） 特別活動の指導法		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>総合的な学習の時間と特別活動の意義、目標及び内容を理解するとともに、自身で授業実践できるようになる。</p> <p>① 特別活動の教育的意義、目標、教育課程上の役割、年間指導計画を各教科との関連を図りながら作成することの重要性や指導上の留意事項を理解し、基本的な指導方法を修得する。</p> <p>② 学級活動・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事の教育的意義や特質を理解するとともに、基本的な指導方法を修得する。</p> <p>③ 特別活動における話し合い活動や、よりよい合意形成・意思決定につながる指導及び集団活動の具体的な指導事例を理解するとともに、指導の改善を図るための評価の重要性についても理解し、基本的な指導方法を修得する。</p> <p>④ 特別活動における家庭・地域や関係機関等との連携の重要性について理解するとともに、現在の教育的課題を社会や文化と関連等について説明、記述することができる。</p> <p>⑤ 総合的な学習（探究）の時間の教育的意義、目標、教育課程上の位置づけ及び活動内容を理解し、説明できる。</p> <p>⑥ 各教科との関連を図りながら、総合的な学習（探究）の時間の年間指導計画作成の重要性と指導事例、指導上の留意事項を理解し、基本的な指導方法を修得する。</p> <p>⑦ 総合的な学習（探究）の時間を通して、主体的・対話的で深い学びを実現することの重要性や具体的事例を理解するとともに、現在の教育的課題と関連付けた課題設定や関心のあふ分野等について説明できる。</p> <p>⑧ 総合的な学習（探究）の時間における探究的な学習を実現するための学習過程や指導方法を理解し、生徒の学習状況を把握し、指導の改善を図るための評価の方法、留意点を理解し、説明できる。</p>			
授業の概要			
<p>前半に特別活動、後半で総合的な学習の時間について扱う。</p> <p>特別活動は、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」や「チームとしての学校」の視点を持ち、学校生活における様々な集団での活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい集</p>			

団や学校生活を目指して行われる教育活動である。総合的な学習の時間（高等学校は「総合的な探究の時間」）は、各教科等での学習を総合的に活用して、実社会・実生活の課題について多角的に捉え、探究的な見方・考え方をはたらかせ、横断的・総合的な学習を行い、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力の育成を目指す学習活動である。

本授業は、上記の「特別活動」「総合的な学習の時間」の教育的意義を踏まえ、グループワークや討論を通して、それぞれの目標、内容等を理解するとともに、その学習活動の指導に当たって必要となる原理、方法、計画、評価に関する知識・技能を身に付けることをねらいとしている。

#### 授業計画

第1回：ガイダンス 学校における特別活動、総合的な学習（探究）の時間の実際

自己の特別活動、総合的な学習（探究）の時間の経験と学び

第2回：特別活動の年間指導計画等の作成と留意事項

教育課程における特別活動の位置付けと他の教育活動との関連

第3回：特別活動における活動の実際①

学級活動「（1）学級や学校における生活づくりへの参画」の理解と指導法

第4回：特別活動における活動の実際②

学級活動「（2）日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」及び学級活動「（3）一人一人のキャリア形成と自己実現」の理解と指導法

第5回：特別活動における活動の実際③

児童会・生徒会活動の理解と指導法

第6回：特別活動における活動の実際④

クラブ活動・学校行事の理解と指導法

第7回：特別活動の指導と評価①

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導の工夫・指導案の作成、模擬学級会等

第8回：特別活動の指導と評価②

特別活動における一連の活動・事前指導、振り返り等

第9回：総合的な学習の時間の教育的意義と目標、内容

学校教育における位置づけ及び探求課題の設定と指導

第10回：総合的な学習（探究）の時間における活動の実際①

現代的な諸課題に対応する教科等横断的・総合的な課題

第11回：総合的な学習（探究）の時間における活動の実際②

地域や学校の特色を生かした教育活動・児童生徒の興味・関心に基づく課題に関する活動

第12回：総合的な学習（探究）の時間の指導計画の作成と留意事項

教育課程における総合的な学習（探究）の時間の位置づけと他の教科等との関連

第13回：総合的な学習（探究）の時間の指導計画の作成と実践

職業や自己の将来に関する課題 等

第14回：総合的な学習（探究）の時間における評価と指導の改善

主体的・対話的で深い学びをめざした指導の工夫

第15回：総合的な学習（探究）の時間における指導上の課題と今後の在り方

児童生徒や学校の実態を踏まえた取組の工夫・家庭、地域や関係機関との連携に関する考察

定期試験

テキスト

「小学校学習指導要領解説 特別活動編（平成29年7月）」文部科学省 東洋館出版社

「小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（平成29年7月）」文部科学省 東洋館出版社

「中学校学習指導要領解説 特別活動編（平成29年7月）」文部科学省 東山書房

「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（平成29年7月）」文部科学省 東山書房

「高等学校学習指導要領解説 特別活動編（平成30年7月）」文部科学省 東山書房

「高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編（平成30年7月）」文部科学省 東山書房

（すべて文部科学省HPからダウンロード可）

参考書・参考資料等

帝京大学初等教育研究会『小学校教師の専門性探究』2023年、現代図書

学生に対する評価

定期試験（40%）、課題（30%）、グループワーク（30%）

授業科目名： ICT活用と教育の方法 及び技術	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 福島健介、鎌田和宏、申智媛 担当形態：クラス分け・単独
科 目	ICT活用と教育の方法及び技術		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）（幼稚園、養護） 教育の方法及び技術（小学校、中学校、高等学校） 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法（小学校、中学校、高等学校）		
授業のテーマ及び到達目標 具体的な実践例をもとに学校の現況と授業づくりの原則を学び、自身で授業実践できるようになる。 ①授業を支える学習理論、教授理論について理解し、現実の授業への適用・応用について考えることが出来る。 ②授業を構成する各種要素について理解し、それらを考えに入れながら授業を構成すること、学習評価をすることができる。具体物として授業案を作成することが出来る。また、他の授業について分析・評価などを行うことができる。 ③上記2点を踏まえて、情報通信技術の学校・授業への導入の意義と理論、その活用方法について知り、自身でも活用することができる。			
授業の概要 新学習指導要領の全面実施を受け、「学力の三要素と三つの柱」を念頭に、情報通信技術を含めた教育方法の基礎的理論(歴史・思想・政策)とその実践を学ぶことにより、21世紀の教育方法のあり方を習得する。前半では授業づくりの基礎的理論と実践例を具体的に学び、教師としての力量形成をめざす。また 学習指導案を作成し、模擬授業の実施をとおして授業分析の方法等について学び、授業づくりの理解を深める。後半では、GIGAスクール構想の実施を前提とし、校務・授業における情報通信技術の活用の実態と今後の展望を理解する。また、情報通信技術を用いた授業を実践するための基礎的スキルと知識を習得する。			
授業計画 第1回：ガイダンス 教育方法とは何か 情報通信技術を含む教育技術とは何かについて基本的な考えを理解する 第2回：授業の設計と指導の原則 授業とは何か、授業を構成する要素について板書、発問、指示、助言などについて理解する 第3回：教材研究の方法① 教材とは何か、「主たる教材」としての教科書と学習指導要領の関係について知る 第4回：教材研究の方法②			

教材づくりの実際、教材づくりの4段階を理解する

第5回：教育評価の理論と方法

教育評価の概念と理論を理解する

第6回：授業を作るための方策と実際

「主体的・対話的で深い学び」とそれを踏まえた学習指導案作成の基本実技

第7回：授業の研究と評価

授業分析の方法(定性的・定量的)とその実際について理解する

第8回：教育方法のこれまでとこれから

教育方法のまとめ及び21世紀の社会的背景の変化も踏まえた、教育における情報通信技術の活用の意義と在り方について知る

第9回：情報通信技術の活用の意義と理論

GIGAスクール構想の現況と学校、授業の変化。授業・校務におけるICT活用の実態及び関連するシステムの理解

第10回：情報通信技術を効果的に活用した学習指導①

学習用グループウェアソフト等を活用した対話的・協働的なまなびの理論と実際。その中で、ICT支援員や外部機関との連携協力について知る。遠隔・オンライン教育の意義や関連するシステムの理解。

第11回：情報通信技術を効果的に活用した学習指導②

学習履歴(スタディ・ログ)など教育データを活用して指導や学習評価に活用することや教育情報セキュリティの重要性の理解

第12回：情報通信技術を効果的に活用した学習指導③

実技演習 特別な支援を必要とする児童及び生徒に対する情報通信技術の活用の意義とその実践事例理解と実技

第13回：情報通信技術を効果的に活用した校務の推進

実技演習 校務用ソフトウェアの事例とその基本的な使い方、データの活用と教育用クラウドなど将来的な展望について知る

第14回：児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法①

実技演習 学校教育において横断的に育成する情報活用能力(情報モラルを含む。)の内容と校種に応じた到達目標の理解

第15回：児童及び生徒に情報活用能力を育成するための指導法②

実技演習 各教科等の特性に応じた指導事例の理解と基礎的な指導法の習得(指導案の作成を含む)

定期試験

テキスト

○佐藤学『教育の方法』(左右社、2017年)

○田中耕治『よくわかる授業論』（ミネルヴァ書房、2007年）

参考書・参考資料等

○鎌田和宏『入門 情報リテラシーを育てる授業づくり』（少年写真新聞社、2017年）

○文部科学省『小学校学習指導要領解説 総則編（平成29年告示）』

○文部科学省『中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年告示）』

○文部科学省『高等学校学習指導要領解説 総則編（平成30年告示）』

文部科学省が発行しているGIGAスクール構想に関連する通達・文書等を適宜DLできるように準備をしておくこと。膨大な量の文書が出されているので、具体的な通達・文書・資料名については文部科学省のサイト <https://www.mext.go.jp/studxstyle/> から適宜選択すること。

学生に対する評価

定期試験（30%）及びレポート（40%）と各回の授業で課される課題の提出（30%）

授業科目名： 生徒指導・進路指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 佐藤晴雄、安部恭子
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法、進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>(1) 教育課程における生徒指導の位置付けや各教科、道徳教育、総合的な学習の時間、特別活動における生徒指導の意義や重要性を理解し説明できる。</p> <p>(2) 生徒指導における集団指導と個別指導の方法原理、生徒指導と教育相談の体制や基礎的な考え方の違いを理解し、説明できる。</p> <p>(3) 生徒指導を行う上で、それぞれの教員の校務分掌上の立場や役割、指導方針及び年間指導計画に基づいた組織的な取組の重要性、基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導の在り方を理解し、指導の場や機会を具体的に例示することができる。</p> <p>(4) 生徒指導上の課題について、主な法令の内容（校則、懲戒、体罰等）や定義（暴力行為、いじめ、不登校等）及び対応の視点を理解するとともに、今日的な課題への対応（インターネットや性に関する課題、児童虐待等）について、専門家や関係機関との連携について説明できる。</p> <p>(5) 教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付け、教育活動全体を通じたキャリア教育の視点と指導の在り方を例示し、組織的な指導体制及び家庭や関係諸機関との連携の在り方を理解し、説明できる。</p> <p>(6) 職業に関する体験活動を核とし、キャリア教育の視点を持ったカリキュラム・マネジメントの意義やガイダンスの機能を生かした進路指導・キャリア教育の意義や留意点を理解し、説明できる。</p> <p>(7) 生涯を通じたキャリア形成の視点に立った自己評価の意義を理解し、ポートフォリオの活用の在り方を例示できるとともに、キャリア・カウンセリングの基礎的な考え方と実践方法を説明することができる。</p>			
授業の概要			
<p>生徒指導及び進路指導・キャリア教育は、一人一人の生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高め、生徒自らが将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、社会的・職業的自立するための基盤となる資質・能力を学校教育全体を通じて、組織的、継続的に指導・支援していく教育活動である。本授業においては、生徒指導及び進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解するとともに、校内組織及び関係機関と連携しながら、これらの教育を進めていくために必要な知識・技能を身に付けることをねらいとして</p>			

いる。

また、生徒指導及び進路指導・キャリア教育の視点に立った授業改善や体験活動、評価改善の推進やガイダンスとカウンセリングの充実に必要な知識や素養を実践的に身に付けていくことや、生徒の生徒指導上の課題や進路、生き方に関する今日的課題を踏まえながら、長期的展望に立った人間形成を目指すための指導の在り方や進め方について考察する。

#### 授業計画

##### 第1回：オリエンテーション

- ・生徒指導の意義と重要性

##### 第2回：生徒指導の意義と原理

- ・集団指導・個別指導の方法原理等

##### 第3回：教育課程と生徒指導

- ・教育課程における生徒指導の位置付け
- ・教科における生徒指導
- ・学級活動・ホームルーム活動と生徒指導等

##### 第4回：生徒の心理と生徒理解

- ・児童生徒理解の基本
- ・発達障害の理解
- ・青年期の心理と発達等

##### 第5回：学校における生徒指導と教育相談の体制

- ・生徒指導と教育相談
- ・学級担任・ホームルーム担任の行う教育相談

##### 第6回：生徒指導の進め方①

- ・児童生徒への全体指導と個別の課題を抱える児童生徒への指導
- ・問題行動の早期発見と効果的な指導等
- ・非行等の問題行動に関する対応と指導（少年非行、家出、暴力行為、喫煙、飲酒、薬物乱用）

##### 第7回：生徒指導の進め方②

個別の課題を抱える児童生徒への指導（その1）

- ・いじめ等の問題行動に関する対応と指導
- ・インターネット・携帯電話にかかわる課題

##### 第8回：生徒指導の進め方③

個別の課題を抱える児童生徒への指導（その2）

- ・不登校等の諸問題に関する対応と指導

##### 第9回：生徒指導の進め方④

個別の課題を抱える児童生徒への指導（その3）

- ・生徒指導の諸問題に関する対応と指導(性に関する課題、自殺予防、児童虐待等)
- ・生徒指導に関する法制度（懲戒と体罰、非行少年の処遇等）
- ・関係機関との連携の在り方

第10回：進路指導とキャリア教育の推進①

- ・進路指導とキャリア教育の意義と教育課程上の位置付け
- ・キャリア教育の方法と技術
- ・職業観・勤労観の形成等

第11回：進路指導とキャリア教育の推進②

- ・キャリア教育の進め方
- ・キャリア形成とキャリア発達

第12回：進路指導とキャリア教育の推進③

- ・進路相談の進め方
- ・小学校、中学校、高等学校でのキャリア教育の実践
- ・特別活動を要とするキャリア教育

第13回：進路指導とキャリア教育の推進④

- ・職場体験の意義とガイダンス機能の充実

第14回：生徒指導、進路指導・キャリア教育を推進する指導体制

- ・組織を生かした生徒指導、進路指導・キャリア教育
- ・教師の健康管理(メンタルヘルス)

第15回：生徒指導、進路指導・キャリア教育に関する諸問題のまとめ 授業内試験

- ・学校と家庭、地域、関係機関との連携
- ・学修内容のまとめと確認のための試験
- ・振り返り

テキスト

「生徒指導提要」（文部科学省）東洋館出版社 2023年

「五訂版 入門生徒指導－『生徒指導提要（改訂版）』を踏まえて－」（片山紀子著）学事出版

2023年

参考書・参考資料等

授業内で適宜資料を配布する。

学生に対する評価

授業内試験（50%）

レポート、リアクションペーパー（40%）

グループワーク、発言（10%）

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 村上香奈 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>テーマ： 教育相談に必要な基礎的な知識と方法について学び、学校現場での児童生徒の心理的支援方法について理解する。</p> <p>到達目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.学校における教育相談の意義と理論を理解する。</li> <li>2.教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解する。</li> <li>3.教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解する。</li> </ol>			
<p>授業の概要</p> <p>第1回：教育相談の意義 教育現場での教育相談の意義とカウンセリングの役割を理解する</p> <p>第2回：生徒理解のための心理学①：生徒理解における心理学の重要性 心理学の理論を基にした生徒理解の重要性と学校心理学に基づく生徒理解の視点を理解する</p> <p>第3回：生徒理解のための心理学②：理論と実践の双方向からの理解 発達心理学と臨床心理学に基づく生徒理解の手法を学び、多面的理解の仕方を深める</p> <p>第4回：アセスメントとその活用 児童生徒の理解に必要なアセスメントの視点と方法を学び、心理検査や実践例について理解する</p> <p>第5回：カウンセリングの基礎 カウンセリングの基礎と実践例について学び、信頼関係の築き方と支援方法を理解する</p> <p>第6回：コンサルテーションの基礎 コンサルテーションの意義と学校内での活用方法を学び、効果的な協働方法について理解する</p> <p>第7回：ソーシャルスキル教育 人間関係を広げるためのソーシャルスキル教育の基本と実践例について学ぶ</p> <p>第8回：ストレスマネジメント教育 児童生徒のストレスに対処する力を育むストレスマネジメント教育について学ぶ</p> <p>第9回：キャリア教育 児童生徒が自分らしい生き方を作るためのキャリア教育の基礎と実践例を学ぶ</p>			

第10回：不登校・中途退学に対する理解と支援

不登校や中途退学に対する支援の方法や学校内連携の重要性について学ぶ

第11回：いじめに対する理解と支援

いじめの問題について、幼児、児童生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解する

第12回：発達障害に対する理解と支援

発達障害についての理解を深め、支援の工夫や特別支援教育の実際を学ぶ

第13回：学校の危機管理に対する理解

学校内での危機発生時の対応方法と心理的サポートの重要性について学ぶ

第14回：学級経営

学級経営の基礎を理解し、学級崩壊を防ぐための実践的な方法について学ぶ

第15回：総括と振り返り

全授業内容を振り返り、教育相談の基礎的な知識とスキルを確認する

テキスト：藤田哲也（監修）、水野治久（編著）、本田真大（編著）、串崎真志（編著）「絶対役立つ教育相談—学校現場の今に向き合う—」（2017）ミネルヴァ書房

参考書・参考資料等

文部科学省「生徒指導提要（改訂版）」（2022）、その他授業内で適宜資料配布する。

学生に対する評価

レポート（60%）

小テスト（30%）

リアクションペーパー（10%）

## シラバス：教職実践演習

教職実践演習		単位数：2単位	担当教員名 教科担当：蛭間栄介、福井淳哉、永島昇太郎、寺門康裕 教職担当：鈴木賀映子、篠原政一、菊地圭子、石黒友一		
科目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
<p>受講者数 20人(16クラスで実施)</p> <p>中学校・高等学校の指導の連続性を視野に入れ、2クラスで1グループとする。教科担当、教職担当の教員1名ずつでペアになり、15回すべての授業を2名で担当する。授業は、教科に関わる内容については教科担当教員が行い、その他については、教職担当教員による輪講、学生によるディスカッション、ロールプレイング、見学・実習等により実施する。</p>					
<p>教員の連携・協力体制</p> <p>教職に関する科目の担当教員、教科及び教科教育に関する科目の担当教員及び教員勤務経験者で話し合い、受講者の認定、シラバス(細目)またはテキスト等の作成、学内外の協力体制の構築及び「教職実践演習」の評価・改善等を行う。</p>					
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>4年間の教職課程で学んできた教科に関する科目及び教職に関する科目の知見を総合的に結集するとともに、教育実習等で得た学校現場の視点を取り入れながら、その内容を整理統合する授業である。具体的には</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>履修カルテ、実習日誌などを活用した、教員としての自己の資質能力、課題の把握</li> <li>模擬授業の実施を通じて、教員としての表現力や授業力、生徒の反応を生かした授業づくり、協力して取り組む姿勢を育む指導法等の再確認</li> <li>教育実習等の経験を基に、学級経営案を作成し、実際の事例との比較等を通じて、学級担任の役割や実務、他の教職員との連携協力の在り方等の確認</li> <li>いじめや不登校、特別支援教育等、今日的な教育課題に関してのロールプレイングや事例研究等をグループでの演習形式で実施する。</li> </ul>					
<p>授業の概要</p> <p>本授業は、4年間の教職課程の集大成として、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて確認する「学びの軌跡の集大成」として位置付けられる学修である。</p> <p>そのため、学生には履修を通じて、将来、教員になる上での自己の課題を自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図ることが目標となる。</p>					

## 授業計画

### 第1回：ガイダンス

- ・本授業の目的、意義
- ・教職履修カルテ及び教育実習日誌等を用いた学修の振り返り

### 第2回：特別支援教育（特別な教育的ニーズにある生徒の指導についての課題と対応）

### 第3回：情報活用能力の育成・ICTの活用（クリッカーの利用を含めて）

### 第4回：教科専門性の向上① 授業構成、教材研究

### 第5回：教科専門性の向上② 指導方法、ICTの活用

### 第6回：教科学習指導力の向上① 中学校1年生・2年生の模擬授業、授業改善に係る協議

### 第7回：教科学習指導力の向上② 中学校3年生模擬授業、授業改善及び進路指導に係る協議

### 第8回：教科学習指導力の向上③ 中学校における学修指導上の課題とその解決のための協議

### 第9回：教科学習指導力の向上④ 高等学校1年生・2年生模擬授業、授業改善に係る協議

### 第10回：教科学習指導力の向上⑤ 高等学校3年生模擬授業、授業改善及び進路指導に係る協議

### 第11回：教科学習指導力の向上⑥ 高等学校における学修指導上の課題とその解決のための協議

### 第12回：生徒指導・学級経営の課題① 学級経営案の作成

### 第13回：生徒指導・学級経営の課題② 教育課題

### 第14回：生徒指導・学級経営の課題③ 教職員、地域、保護者との連携

### 第15回：まとめと評価

- ・教科専門性と教員として求められる資質・能力

## テキスト

共通のテキストは使用しない。

## 参考書・参考資料等

必要に応じて授業内で教員が指示する。

## 学生に対する評価

実習・実技（30%）、グループワーク（30%）、リアクションペーパー（30%）、発言・応答（10%）

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。